

# 第41回少年の主張全国大会

— わたしの主張 2019 —

## 報告書

伝えたい想いがあります。



普段は言えないけど、



National Institution For Youth Education  
国立青少年教育振興機構

# はじめに

第41回少年の主張全国大会が、令和元年12月8日（日）、佳子内親王殿下並びに悠仁親王殿下の御臨席のもと、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催されました。

本大会は、中学生が日頃の生活の中で感じた家族や友人、地域の人々に対する思いや感謝、あるいは感動したり感銘を受けた経験、更には将来への決意などを自分の言葉で表現し、同世代のみならず社会に向けて発表する場として、昭和54（1979）年の「国際児童年」を記念してスタートしました。爾来、この大会を通して、多くの中学生の共感を呼び、また大人の方々に現代の中学生に対する理解と関心を深めていただきたいとの思いも込め、毎年実施されています。

今年は、全国4,171校の中学校から、約50万人の中学生が応募してくれました。

そして、全国大会では、各都道府県の大会で選抜された代表47名の中から、有識者や過年度大会受賞者等で構成される審査委員会により選ばれた12名の中学生が、それぞれの思いや決意を発表しました。

内閣総理大臣賞を受賞した東京都代表の藤田 大悟さんは、「心の扉」と題し、視覚障害であることによりクラスメイトとのすれ違いを経験したことから、自らの障害についてスピーチを通して伝え、相互に認め合う仲間となることを主張しました。

文部科学大臣賞を受賞した熊本県代表の廣岡 里奈さんは、祖母との関わりを通して、携帯でのやり取りではなく、直接会い、顔を見て話すことの大切さを実感し、限られた時間を相手のために使う、思いやりの心や愛がある優しい未来を望むようになったことを主張しました。

国立青少年教育振興機構理事長賞を受賞した山梨県代表の小松 日菜さんは、祖父が認知症と診断されたが、「認知症になっても昔の記憶は残っている」ということを知り、接するなかで、自分と祖父を繋いでいる糸が切れていないことを感じるようになったことを主張しました。

このほかにも、発達障害への理解を促していきたいという主張や、豪雨災害の被災経験、生徒会での経験等を通じた主張など、今大会も多種多様な発表が見られました。

この報告書では、全国大会で発表された12作品をはじめ、各都道府県の代表となられた47作品全てを掲載しています。いずれも中学生らしい澆刺とした感性豊かな文章で綴られています。一人でも多くの方々に彼らの主張をお届けできれば幸いです。

最後に、本大会の開催に当たり、応募して下さった全国の中学生、地方大会の開催に多大なご協力をいただきました各都道府県並びに青少年育成会議、ご後援、ご協力を賜りました内閣府、宮内庁、文部科学省をはじめとする関係機関、団体等の皆様に心から感謝を申し上げます。

令和2年 3月  
国立青少年教育振興機構  
理事長 鈴木 みゆき





# もくじ

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 少年の主張全国大会風景                     | 1  |
| 少年の主張都道府県大会風景                   | 5  |
| 少年の主張全国大会出場者の発表作品               | 6  |
| <内閣総理大臣賞 東京都代表 藤田 大悟さん>         | 7  |
| <文部科学大臣賞 熊本県代表 廣岡 里奈さん>         | 8  |
| <国立青少年教育振興機構理事長賞 山梨県代表 小松 日菜さん> | 9  |
| <審査委員会委員長賞 宮城県代表 加藤 海音さん>       | 10 |
| <審査委員会委員長賞 静岡県代表 望月 香琳さん>       | 11 |
| <国立青少年教育振興機構奨励賞>                | 12 |
| 努力賞授与式／努力賞受賞者のプログラム             | 19 |
| 少年の主張全国大会努力賞受賞作品                | 20 |
| 実施概要                            | 56 |
| 審査委員の感想                         | 58 |
| 視聴者アンケート・コメント抜粋                 | 64 |
| 少年の主張全国大会を振り返って<参考資料>           | 66 |
| 第42回少年の主張全国大会 開催のお知らせ           | 75 |



こちらが「少年の主張全国大会」の会場です。



受付の様子



努力賞受賞者の作文展示の様子



# 少年の主張全国大会風景

令和元年 12 月 8 日（日）に国立オリンピック記念青少年総合センターにて「少年の主張全国大会」を開催しました。



佳子内親王殿下と悠仁親王殿下の御臨席を賜りました。



会場内の様子



会場のみなさんから発表者 12 名に激励の拍手が送られました。  
この後、いよいよ発表です！



石川県代表 新家 彩桃さん



三重県代表 石田 晴香さん



京都府代表 堤 菜々さん



愛媛県代表 水口 藍さん



島根県代表 矢萩 勝希さん



熊本県代表 廣岡 里奈さん



大分県代表 森田 翔輝さん



福島県代表 石山 心南さん



宮城県代表 加藤 海音さん



山梨県代表 小松 日菜さん



東京都代表 藤田 大悟さん



静岡県代表 望月 香琳さん



アトラクションとして山梨県北杜市立甲陵中学校・高等学校 箏曲部のみなさんに演奏していただきました。

審査発表・表彰式



<内閣総理大臣賞>

東京都代表 藤田 大悟さん



<文部科学大臣賞>

熊本県代表 廣岡 里奈さん



<国立青少年教育振興機構理事長賞>

山梨県代表 小松 日菜さん



<審査委員会委員長賞>

宮城県代表 加藤 海音さん



<審査委員会委員長賞>

静岡県代表 望月 香琳さん





内閣大臣官房審議官  
福田 正信様からのお祝いの言葉



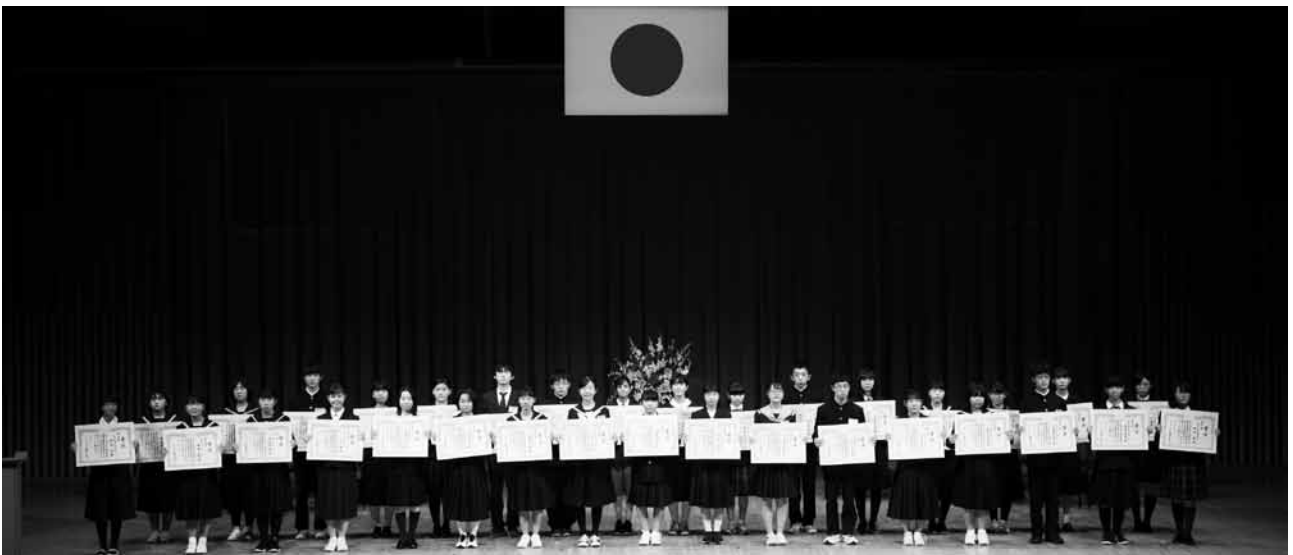
文部科学省総合教育政策局長  
浅田 和伸様からのお祝いの言葉



西川審査委員長代理の講評



第 41 回少年の主張全国大会 発表者・審査員・来賓のみなさん



国立青少年教育振興機構努力賞受賞者のうち来場した 33 名のみなさん



# 少年の主張都道府県大会風景

## 山形県大会



山形県代表 佐藤 美華さん



山形県大会 記念撮影の様子

## 神奈川県大会



神奈川県代表 山下 大良さん



神奈川県大会 記念撮影の様子

## 奈良県大会



奈良県代表 内田 愛莉さん



奈良県大会 記念撮影の様子

## 鳥取県大会



鳥取県代表 石原 晴花さん



鳥取県大会 記念撮影の様子

## 沖縄県大会



沖縄県代表 新垣 悠さん



沖縄県大会 記念撮影の様子

# 少年の主張全国大会出場者の発表作品

- 誤字・脱字以外は原文のまま掲載しました。
- 全国大会出場者全員に、国立青少年教育振興機構奨励賞が授与されました。

## 内閣総理大臣賞

【関東・甲信越静ブロック】

東京都 筑波大学附属視覚特別支援学校（中学部） 1年  
藤田 大悟 『心の扉』

## 文部科学大臣賞

【九州ブロック】

熊本県 熊本大学教育学部附属中学校 3年  
廣岡 里奈 『私が望む優しい未来は』

## 国立青少年教育振興機構理事長賞

【関東・甲信越静ブロック】

山梨県 北杜市立甲陵中学校 2年  
小松 日菜 『繋ぐ糸が切れないように』

## 審査委員会委員長賞

【北海道・東北ブロック】

宮城県 登米市立佐沼中学校 3年  
加藤 海音 『十人十色』

【関東・甲信越静ブロック】

静岡県 静岡市立清水両河内中学校 3年  
望月 香琳 『地域と共にある生徒会—  
今、私たちにできること、すべきこと』

## 国立青少年教育振興機構奨励賞

【北海道・東北ブロック】

福島県 喜多方市立高郷中学校 3年  
石山 心南 『手話から広がる世界』

【中部・近畿ブロック】

石川県 加賀市立山中中学校 3年  
新家 彩桃 『ひと滴の力』

【中部・近畿ブロック】

三重県 鈴鹿市立平田野中学校 3年  
石田 晴香 『殺処分のない未来に向けて』

【中部・近畿ブロック】

京都府 亀岡市立南桑中学校 3年  
堤 菜々 『ネット社会における『見る』ということ』

【中国・四国ブロック】

島根県 江津市立桜江中学校 3年  
矢萩 勝希 『泥の中から見つけたもの』

【中国・四国ブロック】

愛媛県 今治市立近見中学校 2年  
水口 藍 『ぎゅっと「ありがとう」』

【九州ブロック】

大分県 竹田市立直入中学校 3年  
森田 翔輝 『自分らしく』



内閣総理大臣賞受賞

## 心の扉

東京都 筑波大学附属視覚特別支援学校（中学部） 1年

藤田 大悟

「視覚障害はただ目が悪くだけで、努力すれば健常者と同じように勉強できる。」

普通小で日々を過ごす中、こんなことを思っていました。今思えばその気持ちの後ろには「みんなに遅れを取らないように頑張らなきゃ。」という一心で自分を追い詰め、クラスから自分を守ろうとする見えぬ鎖を身につけていたのだと思います。

六年生の春、鎌倉への遠足での出来事です。鎌倉は山道も多いことから当初は行くことに乗り気ではなかったのですが、思い出作りと思って行くことにしました。

「班全員で最終チェックポイントを回り終わること。終わった班からお弁当。」というルールで遠足がスタート。全員がチェックポイントめがけ走り出し、班のみんなもどんどん進み、僕との距離は離れていきました。

「僕が視覚障害ってこと、知ってるよね。少し待ってよ。」

と思いましたが、次第にみんなの姿も鎌倉の山道の中に消えていきました。

やっと合流した最終チェックポイントで、

「お前のせいで回るのが遅くなったじゃないか。」

と言われ、愕然としました。

「ごめん。」

この言葉で精一杯でした。遠足終了。

僕は遠足の後、

「みんなの気持ちもわかるけど、あんなことを言われて解決しないまま卒業したくない。」

とじっくり解決の道を探っていました。ふと、

「僕の見え方、配慮して欲しいことを皆に説明したことあったかな？」

と考えた末に「自分」をスピーチで伝えることにしました。

十一月七日、ついにその日が来ました。まず器具を使って僕の見え方を体験してもらおうと、

「大悟ってこんなに見えてなかったんだ。」

という第一声が飛び交いました。見え方さえ分かり合えていないことを知り、今まで説明していなかった自分が情けない反面、話せて良かった、という安心感が複雑に混じりました。次に配慮して欲しいことなどを伝えてスピーチが終了。

この日は僕にとって貴重な一日となりました。なぜなら、予想以上にわかり合えていなかったことを知り衝撃的だった一方で、現状を伝える大切さを痛感したからです。

そして、スピーチから一ヶ月経った十二月八日、音楽会を迎えました。僕は学年代表としてピアノ伴奏をすることとなり、日々練習に励みました。

本番当日、保護者を前に異様な緊張に包まれた体育館で演奏が始まりました。不覚にも数小節の音が抜けてしまいました。が、日々練習を重ねたことで幸運にも伴奏を再開できました。しかし伴奏終了後は、あれだけ練習したのにという、やりきれない思い、合唱を台無しにしたという罪悪感、鎌倉の時のように皆から責められ孤独を味わうのではないかとこの恐怖、様々な思いが一気に押し寄せます。今までにないほどの涙が溢れました。

恐る恐る教室へ帰るとなんと予想に反してみんなが励ましの声をかけてくれたのです。この時僕は辞書を引いても適する言葉が見つからないほど幸せな気持ちでした。スピーチで皆が本当の僕をわかってくれ、一人のクラスメイトとして受け入れてくれた、と肌で感じられたからです。同時に、皆に対して構えていた僕の中にあつた見えぬ壁も崩れていきました。この瞬間、気持ちが初めて通じ合い、障害という枠を超え認め合っている仲間の証拠を感じられました。

この体験で新たなことに気づきました。

それは、「自分が障害者だから自分を理解してもらおう」と相手にばかり求めるのではなく、自分も心を開いて相手を受け入れる必要があるということです。このことは当然のことのようですが、その一歩を踏み出すのはとても勇気のいることでした。だからこそこのような体験ができてとても嬉しいです。この体験を心のノートに太文字で書き記しておきたい。

「心の扉を開こう。そして、Let`s チャレンジ。」

### この作品を通して、これからどんな人生を作り上げて行きたいですか？

僕には視覚に障害があります。普通小ですずっと過ごしてきた中で、小学校6年生の時の出来事が自分の心の持ちようについての考えを深めるきっかけとなりました。今回、自分の思いを言葉でまとめることでより、その考えを整理することができました。この思いを心に持ち、これから健常者・障害者の枠に関係なく積極的に色々な事にチャレンジし、考えを深め、弁護士になって人々の役に立ちたいという夢に向かって歩んで行きたいと思っています。





文部科学大臣賞受賞

## 私が望む優しい未来は

熊本県 熊本大学教育学部附属中学校 3年

**廣岡 里奈**

「周りを見るとスマホをさわっている人ばかり。」

電車で通学する際、いつも広がっているこの風景。人間がスマホを操る側のはずが、皆、スマホに操られている。

SNSが発達している今。私達は、会いに行かなくても簡単に連絡がとれる。スマホの中でなら、本当の自分の感情を知られることなく、コミュニケーションもとれる。

しかし、この便利さと引き換えに、失われたものがあることに気付いている人はどのくらいいるのでしょうか。

忘れもしない二年前の冬の日。急に病院に運ばれた祖父が他界しました。祖父は、祖母と二人暮らし。隣に住んでいて、私達をいつも見守ってくれた存在。この別れは、人生で初めて経験する深い深い悲しみでした。

祖母とは、短い会話やスマホ越しのやり取りばかり。その中で祖母はいつも通りで私は安心していました。

祖父の死から二週間経った日。学校も塾も、部活も休み。やっと、祖母の顔を見て、話ができる。夕方になり、少しだけ元気を取り戻した祖母と、肉じゃがを作ることにしました。その時です。祖母がポツンとつぶやいた言葉。

「今日は、料理を作る相手がおって嬉しかあ。ばってん、どがんして作るだったかなあ。」

料理の仕方を一時的に忘れていた祖母。どれだけの衝撃に襲われたのだろう。どれだけ寂しかったのだろう。こんなに近くに住んでいたのに…。悔しさがこみ上げてきた。

いつの間にか私も、スマホの便利さに頼りきっていた。祖母の本当の気持ちを感じ取ることができなかった。もし、できるだけ顔を見て、生の声を聞いて、祖母と過ごしていたなら、もっと早く気付けたはず。

それからの私がしたことは、できるだけ直接会話をすること。

「ただいま！今日のテストはえらい難しかったけん、解けんかったー。」

「よかよか。次頑張らんたい。ばあちゃんが中学生の時はねえ…。」

学校での出来事、友達のこと。祖母は自分が若い頃の話も交えながら、喜んで聞いてくれます。今では、祖母との会話がとても楽しみです。

現代の私達は、情報技術のめざましい発展により、たくさんの恩恵を受けています。スマホはとても便利です。しかし一方で、私達は、その便利さに依存しすぎている部分があるのではないのでしょうか。人と人とのコミュニケーションが希薄になり、寂しい人生にしているのではないのでしょうか。

今回のことを通じて顔を見て話すことがどれほど大切なことか、祖母に教えてもらいました。世界の中にはまだ、気付いてほしいのに気付いてもらえない人、本当に伝え合うことを求めている人がいます。

二年が経ち、祖母の笑顔は段々と戻り、肉じゃがを作ってくれるようになりました。私はそれがとても嬉しいです。

表情を見て話す。電話をする。それは、スマホでのやり取りより時間がかかります。限られた時間を、どれだけ相手のために使えるか。そこには、思いやりの心や愛があります。

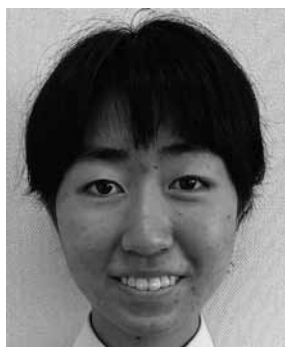
心に何か引っ掛かるとき、私は会いに行く。会えないときには電話をする。

私は強く望みます。人と人が想い合う優しい未来を。

### この作品を通して、これからどんな人生を作り上げて行きたいですか？

私には夢があります。苦しんでいる人を救う医者になることです。この作品を通して、コミュニケーションについて、深く考えることが出来ました。医者には、思いやりや、愛のあるコミュニケーション能力が不可欠です。毎日の人との出会いや、周りの人と過ごす時間を大切に、コミュニケーション能力を身につけていきたいです。そして、夢を叶え、誰かの人生を救うことで得られる温かさを糧に、自分の人生を豊かなものに作り上げていきたいです。





国立青少年教育振興機構理事長賞受賞

## 繋ぐ糸が切れないように

山梨県 北杜市立甲陵中学校 2年

**小松 日菜**

「どちら様？」私は、祖父にこう聞かれました。私の大好きな祖父は、私を忘れてしまったのです。

両親が共働きの私は、物心ついた時から、朝起きるとすぐ祖父母の家に行き、夜、両親のどちらかが帰ってくるまで過ごす、という生活を送っていました。だから、一人っ子で遊ぶ相手もいなかった私の相手をしてくれたのは、いつも祖父と祖母でした。

祖母はとても元気な人で、毎日せっせと畑仕事をし、私が学校に行っている間の事をたくさん話してくれました。祖父は寡黙でしたが、本当は優しい人で、「早くママとパパに会いたい」と泣いていた小さな私を、一生懸命なだめてくれました。私は祖父母が大好きでした。二人のお陰で、私の寂しい気持ちは和らいでいました。

しかし、その優しく祖父が認知症と診断されたのです。私は、小さくなっていく祖父を、いろいろな事を忘れていく祖父を見ている事ができず、祖父母の家に行くのを躊躇うようになりました。

診断からしばらく経ったある日の事、久しぶりに祖父母の家に行くと、「どちら様？どこから来たの？」と祖父が私に言ったのです。

覚悟はしていました。いずれ私のことも忘れてしまうのではないかと考えていました。でも、あんなにたくさんの時間を過ごしてきたのに。あんなにたくさん遊んでくれたのに。積み重ねた物が、音をたてて崩れていくようで、繋いでいた糸がブツッと切れたようで、悲しくて、悔しくて溜まりませんでした。

それからしばらくしてのことです。

私の通う学校で「高齢者の言動を科学的に理解しよう」というテーマで、講演会がありました。そこで、「記憶というのは壺のような物で、若い時は壺の入り口が狭く、記憶は壺からこぼれにくい。しかし老化が進んだり、認知症になると、壺の入り口が開き、新しい記憶からこぼれ落ちる。だから、認知症になっても昔の記憶は残っているといわれている。認知症の方が昔の話ばかりするのは、そんな脳のメカニズムから来ている。」というお話をして下さいました。

その話を聞き、祖父の中に、私との思い出が残っている可能性があるという事が分かり、心の中の消えてしまった一つの火が、ポッと灯ったような気がしました。それ以来私は少しずつ祖父に会いに行き、静かに隣にいるようになりました。祖父は昔と変わらない優しい笑顔を向けてくれます。その度に、祖父と私を繋いでいる糸が切れていない事を感じます。

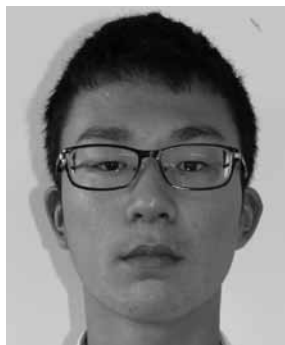
日本の認知症患者数は、二千二十五年には七百万人にも上ると言われています。もしかすると、あなたの大切な人があなたの事を忘れてしまう日が来るかもしれません。大好きな人が自分を忘れてしまうのは、悲しくて、悔しくて、とても怖い事です。でももしその日が来たら、とても勇気のいる事ですが、ただ寄り添ってください。自分が誰なのかを説明する必要はありません。なぜならその人の心の奥に、ちゃんとあなたは生きているからです。そこで、あなたと大切な人がしっかりと繋がっている事に気づくはずですよ。

そして一番大事なのは、大切な人の笑顔が見える内に、素敵な思い出をたくさん作る事です。それが、あなたと大切な人とを繋ぐ糸となります。

おじいちゃん、また遊びに行くから待っていてね。

### この主張をどんな人に届けたいですか？

高齢化が進む社会で、認知症の方の数は年々増加しています。そして、その家族の方の中には、繋がりが切れてしまったように感じ、人知れず悩み、悲しみ、言葉にできない喪失感に苛まれている人がいると思います。そのような、私と同じ境遇にいて、私と同じ気持ちを抱えている方々に、一人じゃないという事、何があっても、あなたと大切な人とを繋いでいる物は切れないのだという事を、自分自身の言葉で伝えたいです。



審査委員会委員長賞受賞

## 十人十色

宮城県 登米市立佐沼中学校 3年

**加藤 海音**

「皆さんの目に、僕はどのように映るでしょうか？」

僕は、発達障害を抱えています。そのため小学校から中学校1年生までの7年間、特別支援学級に所属していました。発達障害とは主に先天性の脳機能障害が原因となって生じる発達の遅れです。どうしてそうなるのか、詳しいことはまだ解明されていません。発達障害にはいくつかの種類があって、僕の場合は人の気持ちや感情を読み取ることが苦手で、対人関係をうまく築けないことがあったり、特定のものに興味やこだわりをもってしまうため、協調性に欠けることがあったりします。この障害の厄介なところは、パッと見ただけでは分かりにくく、周りに理解されないという点にあります。そのため、障害そのものよりも周りに理解されないことに苦しむことがたくさんあるのです。

小学校の頃、僕が発言すると笑いが起きたり、「もう1回言ってみて。」と何回も同じことを言わされたりしました。最初は状況が読めず、言われるままに繰り返していましたが、バカにされていると気づき、発言するのが怖くなったことがありました。

また、みんなで話し合っているとき、自分の意見を除外されたり、意見が合わないと、「障害者だから」と一言で片付けられたりしました。頑張っただけで伝わらないのに伝わらない。見えないバリアが張られているように感じ、悔しくて悲しい気持ちになりました。周りの理解が得られないもどかしさ、特別支援学級への偏見や差別的な言動は、僕を苦しめました。

ただ、誤解を招く原因が僕にあったのも事実で、だからこそ特別な支援を受ける必要があったのです。僕には担任の先生とは別に、補助の先生が付けてくれました。自分をうまく表現できないことがあると、気持ちを代わりに伝えてくれたり、トラブルに気付いて助けてくれたりしました。もちろん、僕が間違っただけをしたときには、その場でどこがいけなかったのかを教えてもらえたので、とてもありがたい存在でした。また、僕の家族にも感謝しています。みんなと違う僕を、無理に何か出来るように訓練したり、出来ないことを怒ったりせずに、やりたいことを自由にやらせてくれました。特別支援学級に所属することを嫌だと思ったことは何度もありますが、その支援を受けることができたから、今の僕があるのだと思います。

皆さんはご存知ですか？偉大な発明家トーマスエジソンが発達障害だったことを。Apple社を創設したスティーブ・ジョブズ、Windowsを開発したビル・ゲイツも発達障害だったといわれています。彼らは、周囲の人々と異なる特質を持ち、ある分野に強いこだわりと異常な興味を示しました。だから、いつも好奇の目で見られ、変人として扱われたそうです。しかし、その特質が新しい考えやアイデアを生み、パソコンやスマートフォンなど、今の僕たちの生活に欠かせない機器を生み出したのです。この話を知ったとき、僕は自分の障害はある意味、特別な個性なのではないかと思うようになりました。現在、日本の小中学生の約7パーセントが発達障害を持つというデータがあります。つまり、クラスに2、3人はいるという計算になります。僕がここに立って自分のことをさらけ出そうと思ったのは、僕と同じように苦しんでいる誰かの役に立ちたいと考えたからです。目に見えないからこそ、分かってもらえるように発信していかなければならないと思いました。

皆さんは、自分と異なる相手を勝手なイメージで固めてしまっていないですか。理由を付けてはじき出していませんか。10人いたら、10通りの個性があって当たり前です。相手をよく見て話しを聞いて上げて下さい。ありのままを受け入れて認めてほしい。障害を一つの個性と捉え、その個性が輝くような社会にできれば、どんなにいいだろう。僕はこれからも、自分の個性を堂々と語ることで、発達障害への理解を促していきたいと考えます。

### この主張をどんな人に届けたいですか？

この作品を、より多くの人々に聞いてもらい、より多くの人々に発達障害のことを知ってもらえたら良いです。発達障害は目に見えないものなので、理解されにくいですが、この文を通して、それが少しでも改善されたら良いと思います。また、自分と同じように苦しんでいる人たちにも聞いてもらうことで、共感してもらい、少しでも気持ちを分かりあえたら良いです。少しでも、明日を生きる活力になってもらいたいです。



審査委員会委員長賞受賞

## 地域と共にある生徒会— 今、私たちにできること、すべきこと

静岡県 静岡市立清水両河内中学校 3年

望月 香琳

36人。これは、私が生徒会長を務める中学校の全校生徒の人数です。私は、生徒会長になるにあたって「地域と共にある生徒会」という目標を掲げました。36人という少人数で充実した生徒会活動を行っていく方法を模索していた私の頭に、すぐに浮かんだのは地域の人々の存在でした。小さい頃からいつも気にとめ、声を掛けてくれる近所の人たち、行事があるたびに参加し、活動を支えてくれる地域の人たちは、私たちの生活になくてはならない存在です。だからこそ、生徒会活動と切り離して考えることなどできないと思ったのです。そこで私は、生徒会活動を通じて、中学生にできる地域貢献がしたいと思い、この目標を立てました。

そして、その集大成として位置づけたのが「小学校と中学校の合同体育祭」でした。私たち両河内地域では、9月になると毎週のようにどこかの学校や地区で体育行事が行われています。地域に活気があふれ、一体感が生まれる、とても楽しい行事なのですが、最近では、少子高齢化や共働き世帯の増加で、毎週末、ほぼ同じメンバーが出場したり応援したりすることが負担になりつつありました。そのため、もう少し地域の実情に合った開催方法はないかと、私たち中学生も思っていました。地域の体育祭と中学校の体育祭を同時開催してはどうだろうか、でも、広い両河内地域の人たちが一か所に集まるのは難しいだろうかと思案していた私たちの耳に入ってきたのが、「小中統合」という言葉でした。中学校だけでなく地域にある3つの小学校でも年々、児童数の減少が深刻で、数年後に3つの小学校と中学校を統合させてはどうかという話が進んでいたのです。私たちはこれを聞き、一緒になることが決まっているのなら、その先駆けとして今年は小学校との合同体育祭を企画してはどうかと考えました。数年先の統合に向けて、まずは体育祭という1つの行事を一緒に行うことで、地域に貢献できるのではないかと考えたのです。統合後の活気ある姿や9学年の子どもたちが、お互いに助け合い、楽しむ姿を示すことこそ、私たち中学生が今できる地域貢献、恩返しだと考えたのです。

この思いを先生方に相談し、小学校側の考えも聞いた上で出たのが、「両河内中学校と和田島小学校との合同体育祭」という案でした。いきなり3つの小学校を一緒にするのは難しいため、まずは今年、隣の小学校と合同で開催し、その成果や課題を把握しながら、徐々に合同の輪を広げていくことにしました。小学校の了承を得て、いざ具体的な内容を考えていこうと意気込んでいた矢先、中学生の中から合同体育祭反対の声が上がったのです。これは私にとって、驚くべきことであり、初めは全く理解できませんでした。しかし、話し合ってみると「中学校最後の体育祭は自分たちだけで盛り上げたい」という素直な思いを訴える意見や「小学生と中学生は体力差があるため同じ競技をやるのは危険ではないか」というもっともな意見も聞かれました。たった36人ですが、思いや考えは様々であり、意見を押しつけただけでは上手くいかないことを思い知らされました。何度か話し合いを重ね、ようやく全校に自分たちの思いが伝わり、合同体育祭という歴史の1ページを築くスタートラインに立つことができました。

開催までの道のりも容易ではなく、具体的な競技内容や小学生との練習方法、さらには用具の準備といった細かなことまで、一つ一つ検討が必要で正直、不安ばかりでした。しかし、全員が同じ目標に向けて、意欲的に考え、積極的に行動する姿は私から見ても頼もしく、うれしくなるものでした。

そして去る9月、澄み渡る青空のもと行われた初の小中合同体育祭は大成功を収めました。この活動を通し、私たちは自らの成長を実感し、自信と誇りを持つことができました。私たちを温かく育ててくれた、ふるさと両河内の皆さんの前で、今、私たちにできる最高の姿を披露することができ、本当に良かったです。今後も地域と共にある生徒会のあり方を考え、後輩たちに引き継いでいきたいです。

### この作品を書いたきっかけはなんですか？

私たちの住む両河内地域は静岡市の山間部に位置し、豊かな自然と温かな人のつながりが自慢です。しかし近年、少子高齢化が進み地域行事の運営や小中学校の統合等、課題が浮き彫りとなっています。大好きなこの地域の活性化に向け、中学生である私たちにできること、すべきことは何だろうかと考える中で出てきたのが小中合同体育祭の案でした。新たな試みに向けた私たちの取り組みの様子と地域への想いを込めて書きました。





国立青少年教育振興機構奨励賞受賞

## 手話から広がる世界

福島県 喜多方市立高郷中学校 3年

石山 心南

弟は、私が小学校2年生のときに生まれた。世話好きの私はとても嬉しくて、保育園の先生のように面倒を見たり、一緒に遊んだりした。

ある日、弟の耳に何かが付けた。母に尋ねると、それは「補聴器」といって、啓心は耳が聞こえにくいから、私たちの声がよく聞こえるようにそれを付けるのだと、優しく教えてくれた。正直、私はショックだった。けれど、私がよくよしても何も変わらない。大好きな弟の力になるため、私は自分にできることを探し始めた。

色々な人から情報もらい、私たち家族は「手話」に出会った。手話は、耳が聞こえない人が会話をするとき、なくてはならないものだ。手話を学び始めた頃、弟が通う聴覚支援学校の運動会に参加したことがある。手話だけで会話している人たちを見て、私はとても驚いた。私が言葉を話すように、手話を駆使して話の内容を理解したり、自分の考えを伝えたりしている。このとき私は決心した。私も手話をもっともっと上達させて、弟と会話をする。そして、弟だけでなく、色々な人と、手話で会話をしてみよう。

私たち家族は、弟の小学校入学を機に、全員で手話サークルに通うことにした。そこで学ぶことはとても多い。例えば、手話は身ぶり手ぶりだけでなく、表情も大切であること。声は、イントネーションやアクセントを使って気持ちを表すことができる。しかし、手話にはそれができない。その分、様々な感情を表情で表すことが大切なのだ。また、手話サークルに参加している方々とのやり取りも、私に大きな影響を与えている。サークルの皆さんは雄弁だ。明るくフレンドリーで、手話の世界に飛び込んだ私たちを温かく受け入れ、優しく手話を教えてくださる。初めは、どんな雰囲気なのか、どう接すればいいのか不安もあったが、今ではコミュニケーションを楽しむ自分がいる。手話が少しずつ上達して、会話が増えるのが嬉しいし、自分の世界が広がっていくように感じるからだ。

もちろん、まだ弟との間にすれ違いはある。最近も、うまくコミュニケーションが取れないことにイライラし、お互いに辛い思いをした。弟は発音が不明瞭なため、言葉が相手に伝わりにくいと分かっているはずなのに、気持ちを理解してあげられなかった。一番大切なのは、お互いを思いやる気持ちに違いない。しかし、手話が上達すれば、私は弟の伝えたいことを理解してあげられるし、弟も自分が伝えたいことを私に伝えられるようになり、すれ違いは減るだろう。

手話は、本当に素晴らしい。自分の思いを伝える術は、声だけじゃない。たとえ声が出なくても、耳が聞こえなくても、相手と話すことができる。手話を自由自在に使える自分になれば、私にはどんなことができるだろうか。思いが膨らんだ。

私は去年、あるCMを見て体に衝撃が走った。画面に映ったのは、難病の子どもを救う看護師の姿だ。それから調べうちに、医療にも様々な職種があり、医師や看護師、薬剤師、臨床工学技士など、たくさんの人が関わって、一人の人間を救っていることに気づいた。私も、その一員になりたい。私の中に、強い思いが湧き起こった。

私が目指すのは、手話ができる看護師だ。耳の不自由さは外から見て分かりにくく、困っていても、まわりに助けを求めにくい。ましてや病気になったとき、自分の体の状態がうまく伝わらなかつたら、その不安や辛さはどれほどだろう。私は、そういう患者さんの心に少しでも寄り添い、力になりたいのだ。

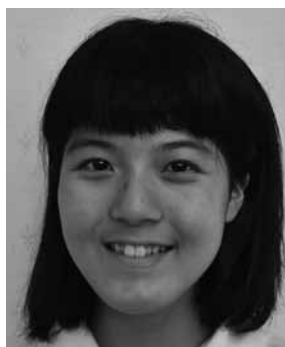
手話の素晴らしさや可能性を知った私にできることはたくさんある。手話を使ってたくさんの人を救う将来の自分を心に描きながら、今日も私は練習する。

「大丈夫ですか？私が助けになります。」

### この作品を書いたきっかけはなんですか？

私は、弟のためにできることを探すなかで手話に出会い、2019年の4月末から家族全員で手話サークルに通い始めました。初めは緊張していましたが、サークルに通うたびに手話が上達していくのが嬉しく、手話だけで参加者の皆さんと話せたときの感動は、今でも忘れられません。その中で、手話の素晴らしさや重要性を強く感じ、それをより多くの皆さんに知ってもらいたいと思い、この作品を書きました。将来は、手話ができる看護師になって多くの人を救いながら、手話の素晴らしさや重要性も伝え続けていきたいです。





国立青少年教育振興機構奨励賞受賞

## 「ひと滴の力」

石川県 加賀市立山中中学校 3年

新家 彩桃

日本で一番長い川は信濃川。流域面積が一番なのは利根川。では、水面が見えなくなるほど、無数の遺体が浮いたのは何川ですか？

今年の五月、私は原爆の被害に遭われた方から、貴重な話をお聴きするため、修学旅行で広島に行きました。事前にある程度の知識をもって臨んだはずなのに、そこでお聞きした被害の惨状や凄絶な内容には、言葉を失いました。それまで知ることのなかった、被爆者の悲しみや怒り、無念さがそこにはありました。

証言者の川崎宏明さんは、当時小学校一年生でしたが、その時の様子を克明に覚えていらっしゃる、説明もとてもわかりやすいものでした。原爆の被害が及ぶ範囲を、単なる数字で表すのではなく、私たちの住む町の大きさをたとえてくださったことで、しっかりイメージが持てました。また、「石川県は比較的空襲の被害が少なかったけれど、二万数千人が戦争で亡くなりました。」とも教えていただき、広島県民の川崎さんの方が、石川県のことをよくご存じで、この講演のために、よく準備をされていたことに驚きました。と同時に、川崎さんの思いの強さを感じました。「この子たちに、今のうちに、できるだけのことを伝えよう。少しでも多くの子に平和の大切さを理解してもらおう。」という、必死の願いと焦りのようなものでした。

川崎さんは現在八十一歳で、この先、何年も講演を続けていくことはできません。だから、今しかできない活動を、懸命にされているのだと思います。

先日、「戦争は二度としちゃいかん。」という「魂の叫び」を語ってくれた私の曾祖母が九十六歳で他界しました。また一人私たちは、戦争の悲惨さを伝えてくれる人を失ったのです。これまで私は、今しか聴けない戦争経験者の話にしっかり耳を傾けることが大切です、と訴えてきましたが、川崎さんの講演の途中から、これはもうただ聴いて終わりだけではいけない、という思いに駆られました。近い将来、既に戦争経験者の肉声を聴けなくなった世代に、平和への強い思いを引き継いでいくことが、現在の私たちに与えられた使命ではないか。またそうすることが、既に亡くなられた方々への供養にもなるのではないか、という思いです。

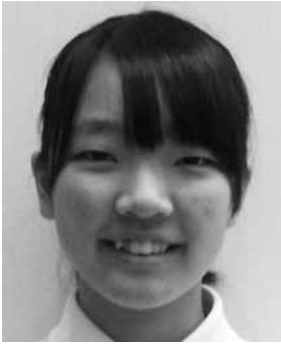
でも、戦争を知らない私たちに、その使命は務まるのか。戦争体験者の必死の訴えを本当に受け継ぐことができるのか。そんな悩みの中で講演は終わり、その後、原爆資料館の見学となりました。本当は、持ち主が乗り回して遊ぶはずだった三輪車。本当は、お昼に子どものお腹を満たしてくれたはずの黒焦げになったお弁当。いったい何千度の熱線がガラスの瓶を溶かすのでしょうか。いったいどれほどの光の強さが、人の影を地面に焼き付けるのでしょうか。それら物言わぬはずの展示物は、何を語るよりも雄弁に、当時の状況や苦しみ、悲しみを語っていました。ただ静かにおいてあるだけなのに、こんなにも伝える力がある。そこに、先ほど抱いていた悩みを解決してくれる糸口があると気づきました。何も雄弁に語り継ぐ必要はなく、「話」を聴いて感じたことを率直に語ったり、戦争の足音が聞こえるものには決して賛同しない、という姿勢を示したりするだけでも、十分使命を果たしていると言えないでしょうか。

川崎さんは講演の最後にこうおっしゃいました。「はじめに述べた信濃川も利根川も、多くの被爆者が水を求めて亡くなった元安川も、その源は、岩から滴り落ちるひと滴から始まっています。それは、『平和』という途方もない大きな川でも同じこと。たったひと滴でも、この世から戦争をなくす力を持っているのです。そのひと滴に、みんながなってほしい。」と。

川は世界をつなぐ海に注がれます。戦後七十四年、平和の川は令和という時代になっても脈々と続いています。この流れを決して途絶えさせてはいけません。他の誰かではなく、私と、あなたでひと滴の力となり、平和な世界をつないでいきましょう。

### この主張をどんな人に届けたいですか？

戦争を経験し、今なおその記憶や後遺症に悩み続けている方々や平和の大切さを精一杯訴え続けておられる方々。また、戦争の悲惨さを知らずに育ってきた私たちを含めたこれからの世の中を生きていく全ての人たち。そして、できることなら、戦争によって尊い命を奪われた方や辛い思い出を持ちながら既に亡くなっていかれた方々に心を込めてお届けしたいと思います。



国立青少年教育振興機構奨励賞受賞

## 殺処分のない未来に向けて

三重県 鈴鹿市立平田野中学校 3年

石田 晴香

「四万三千」

みなさん、この数字が何を表しているか、分かりますか。これは、平成二十九年度に殺処分された、犬や猫たちの数です。

私は今、動物愛護活動の一つとして、「預かりボランティア」という活動をしています。このような、動物の殺処分の実態を知り、その悲惨な現実をなくさなければいけないと思ったことが、私が「預かりボランティア」に携わるようになったきっかけです。

「預かりボランティア」は、飼い主のいない犬や猫を、新しい飼い主が見つかるまでお世話するボランティアです。私は、このボランティアに参加してから約二年半になります。今までに、三十四匹以上の猫たちを預かりました。その中でも、特に印象に残っている猫がいます。生後二週間で五匹の兄弟といっしょに捨てられていた、「あやめ」です。「あやめ」は、生まれつき右の前足がありませんでした。でも、兄弟と寄り添って暖をとる、ミルクを必死に飲み、こけても何度も何度も立ち上がり、生きることに一生懸命でした。そんな「あやめ」の姿に、私は生きることの素晴らしさや、あきらめない心を教えてもらいました。同時に、「あやめ」を捨てていった人に対する怒りなど、いろいろな感情があふれ、涙がこみ上げてきました。

増えすぎたから、なつかないから、保健所や動物愛護団体に送られてくる犬や猫は、そんな理由で捨てられる子がほとんどです。人間の勝手な都合だと思いませんか。

では、殺処分をなくすために、私たちができることは何でしょうか。私が今まで動物愛護活動をしてきて、学んだことをもとにみなさんに提案したいと思います。

まず、これから動物を飼うことを考えているみなさん、一番初めに、その子を本当に幸せにしてあげられるのかを考えてください。家族みんなが動物を飼うことに賛成していますか。命を預かる責任はありますか。動物は飼い主を選べません。だから、もう一度よく考えて、飼わないという選択肢があることを忘れないでください。

次に、動物を飼っているみなさん、野良猫の世話をしているみなさん、その子の避妊・去勢手術は済んでいますか。不幸な命を増やさないために、早めに手術をしてあげてください。そして、その子にたっぷりの愛情を注いであげてください。

最後に、殺処分の実態を知って、少しでも心が苦しくなったみなさん、その気持ちを絶対に忘れないでください。動物愛護活動をしている人たちは、意外とみなさんの近くにいます。その人たちに、使わなくなったタオルや服を渡してください。ケージやトイレの掃除に使ったり、犬や猫の布団の代わりに使ったりして、たくさんあると、とても助かります。動物と直接関わらなくても、動物愛護活動としてできることは、いっぱいあると思います。

私の夢は、獣医師になって動物の命を救い、殺処分ゼロの社会をつくりあげることです。この夢の実現のために、私はこれからも獣医師になるための勉強に励もうと思います。

最初にお伝えしたように、平成二十九年度は、四万三千匹の犬や猫が殺処分されたと環境省は発表しています。二年前の平成二十七年度と比べると、半分近くに減少しました。

この結果からも分かるように、殺処分をなくす取り組みは今、私たちの社会の中に浸透しつつあります。また、ニュースでも動物の虐待が取り上げられ、動物愛護の意識が変わってきていることが感じられるようになりました。でも、殺処分の数は、まだまだ多いですね。

殺処分をなくすために、みなさんも一度、動物たちの暗く悲しい現実を知り、命の大切さを真剣に考えてください。そして、一つでも多くの命を救う行動をして、人も動物たちも幸せに暮らせる、明るい未来を実現しましょう。

### この主張をどんな人に届けたいですか？

できるだけたくさんの人に私の主張を届けたいです。殺処分という悲惨な現実を多くの人々に知っていただき、動物の命も人間の命も同じ重みであることを伝えたいです。

私の主張が、聴き手の皆さまの動物とのかかわり方や命に対する考え方を見直すきっかけとなり、動物の命を救うために日々、奮闘しているボランティアの方々に協力してくれる人が一人でも増えたらうれしいです。



国立青少年教育振興機構奨励賞受賞

# ネット社会における『見る』ということ

京都府 亀岡市立南桑中学校 3年

堤 菜々

私はツイッターユーザーです。ツイッターには色々な人がいます。素敵な作品を投稿する人、面白い写真や動画をアップロードする人、日々の何気ない出来事を呟く人と様々で、見ていて本当に飽きないSNSで、個人的にはとても好きなサービスです。しかし、そのツイッターを見ていて、とても不快になったことがあったのです。

少し前の休日のことでした。久しぶりにゆっくりできるのをいいことに、いつものように私は、だらだらとツイッターを見ていました。そして、そこに「自殺」という文字がトレンド入りしているを見つけました。その日は私はニュースを見ていなかったで、「何かあったのか」と知りたくなってページを開きました。どうやらその日大阪で、ビルの屋上から転落した人がいたらしく、大きな話題となっていたようでした。「現場を見た。」「びっくりした。」「何があったんだ？」等、呟きが多々寄せられていました。私は人が死んでしまう瞬間を目の当たりにしたことがないので、少し怖くなりました。スマホの画面から目が離せなくなり、下へ下へとスクロールしていくと、そこには、目を疑うような光景が広がっていたのです。

「消されてしまったので再掲します笑」という短い文章と共に、添付されていた動画。実際の現場で撮られたと思われるその動画は、私の「本当は見たくない。」という気持ちなど構うことなく、勝手に再生されてしまいました。人が転落していく映像が目飛び込み、「パン！」という破裂音のような爆音が、イヤホンから流れこんできたのです。私は気分が悪くなって、イヤホンを耳から外し取りました。心臓がばくばくしていました。「この人は一体、どういう気持ちでこの動画を撮ったんだろう」そう思いました。そのツイートのリプライ欄には、「おい、今すぐ消せ。」「わざわざ載せるな。」と、投稿者を批判する声がたくさんありました。しかし、「こいつ、バカじゃねーの。」「自殺とかアホだろ。」と面白がり、自殺した人を馬鹿にするようなリプライも同じくらいたくさんあって、私はとても残念な気持ちになりました。

命は、どの人の命も尊く、大切なものです。何があっても、馬鹿にされて良いものではありません。自ら命を絶ってしまった彼女のことは、私には何一つわかりませんが、彼女の命も、かけがえのないこの世にたった一つの宝物であったはずで、その大切な命を、自らの決断で終わらせなければならなかった彼女。その決断に至るまでには、相当な苦悩と葛藤があったに違いありません。彼女は、ビルの屋上を自らの死に場所を選びました。もしかしたら彼女は、「自分の生きた証」を残すために、「不特定多数の人が見ている所」を選んだのかもしれませんが。そんな彼女の苦悩や葛藤、生きた証が、好奇の眼、無機質なカメラのレンズに捉えられ、インターネットの冷たい海に放り出され、人目に晒され、叩かれ、嘲笑われている。「いいね」やリツイートの反応稼ぎのため、投稿者のちっぽけな承認欲求のために、一人の命が、さもエンターテインメントであるかのように扱われている。目の前で起きているネット社会の惨状に、私はとても酷く憤りを感じました。

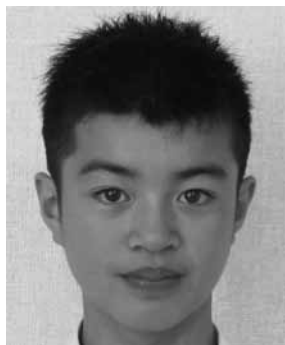
SNSは、ここ数年で一気に私たちの生活に浸透してきました。あると便利で重宝するSNSですが、最近は多くの人が不快になるような投稿も多いように思います。公共施設での悪質行為を動画で投稿したり、虚偽の内容を投稿して、それが拡散され、大きな混乱を招いたり、今や、社会全体の問題となっています。急速に情報化が進み、ネット社会になった今だからこそ、SNSの本質を見極め、あり方を見直していく必要があると、私は思います。

普段の日常生活の中で起こる面白いこと、楽しいこと、嬉しいこと、悲しいこと、腹の立つこと、驚いたこと、それらのこと全てに、まず合わせるの、あなたの「目」、「心の目」です。カメラのピントではありません。「目」を合わせ、「心の目」で見極め、しっかりと判断していくことが大切です。何でもまずは、「目」を合わせて物事を見ていきましょう。一件の「いいね」、一件のリツイートよりも大切なことが、きっと見えてくるはずだと私は思います。

## この主張をどんな人に届けたいですか？

私は、この主張をTwitterだけでなく、SNSを利用している全ての人へ届けたいです。だれでも世界中に自分の思いや考え、情報を発信できるようになり、SNSの普及によって、私たちの生活は便利なものへと変わっていききました。しかし、その匿名性を盾に人を傷つける行為をする人も後を絶ちません。どんなに技術が進み、世界が発展しようと、人の心の根底にある互いを大切に、尊重する気持ちを忘れてたくないし、忘れてほしくないと思って書きました。





国立青少年教育振興機構奨励賞受賞

## 泥の中から見つけたもの

島根県 江津市立桜江中学校 3年

矢萩 勝希

2018年7月。西日本豪雨の影響で江の川が氾濫し、僕たちの家は床上1メートル20センチまで水に浸かりました。水が引き、避難していた祖母の家から僕たちの家に戻ると玄関には泥まみれになった通学用のバックが転がっていました。廊下には水を吸い込みパンパンになった教科書。中の物が取り出せなくなったランドセル。仏間の仏壇は水に浸かり、畳も山のように立ち上がっていました。台所の冷蔵庫も倒れ、家の中は元の様子が想像もできないほどぐちゃぐちゃになっていました。いつも強気な祖父もその状態を前にため息をつくほどでした。

家の片づけは、泥出しから始まりました。かき出してもかき出してもなくなる泥。最初は嫌だなと思いながらの作業でした。しかし、落ち込んでいる祖父や祖母の様子を見てみると自分ももっとやらなくてはと思うようになりました。

ある日、泥出しが終わり、祖母の家に戻ると妹たちがいました。妹たちは災害に遭う前と変わらず、はしゃぎ、大笑いしていました。その姿を見て、僕も父も母も思わず一緒になって笑いました。ずっと張りつめていたものがほぐれ、肩の力もすっと抜けるような不思議な感覚でした。その瞬間だけは水害のことを忘れられました。僕はそのとき初めて笑うということが前向きに生きるために大切だということを知りました。次の日からは作業中もなるべく笑うように心がけました。すると、あまり辛さを感じず、一日がとても速く過ぎるようになりました。水害から一週間ほどして、水に浸かってしまったものを全て家の外に出し、家の床もはがし、骨組みだけにすることができました。

水害から3カ月ほど経ったころから、自分たちで家の修理をすることになりました。父も祖父ももちろん僕も、大工仕事などやったことはありません。でも3人で直すしかないのです。それまで僕はものづくりが好きではありませんでしたが、父や祖父と家を修理していくうちにその作業を楽しく感じるようになりました。骨組みの上に座板を置き、その上に床を張るなどして妹たちの部屋が完成したとき。壊れた押し入れに化粧板を張って直したとき。そういうときに大きな達成感を感じました。そして、それを喜ぶ家族の顔を見ると嬉しさはさらに大きくなりました。家が少しずつ修理され、完成に近づくにつれて、僕のものづくりに対する興味も膨らんでいきました。家の修理が終わるころには将来は大工になって、誰かのために家を建てたいと強く思うようになりました。これまで一度も大工になりたいなどと思ったこともなく、将来の夢もなかったので、水害も悪いことばかりではないなど少しだけ思いました。

僕は水害にあってつらいことがたくさんありました。恐怖も感じました。ただ、その中でマイナスの出来事であっても自分がその出来事をどう受け止めるかが大切だということを知りました。落ち込んでばかりではなく、笑顔でいればマイナスもプラスになるということも分かりました。僕が水害の片づけから将来の夢を発見できたのはいつも笑顔でどんなことも楽しんですることができたからだと思います。

この水害をきっかけにできた大工という将来の夢を、「いつも笑顔でどんなことも楽しんでする」ということを大切にしたいです。

### この主張をどんな人に届けたいですか？

この主張を昨年の西日本豪雨の被害に遭われた方に届けたいです。また、全国各地で起きている自然災害に遭われた方など、落ち込んでしまい、笑うことを忘れてしまった方にも、笑うことや楽しむことの大切さを伝えたいです。





国立青少年教育振興機構奨励賞受賞

## ぎゅっと「ありがとう」

愛媛県 今治市立近見中学校 2年

水口 藍

私の家には誕生日の朝の行事があります。

「藍、誕生日おめでとう！」と言いながら母は、まだ布団の中にいる私に駆け寄り、ぎゅっとするのです。そしてもう一度ぎゅっと力を込めながら「藍、生まれてきてくれてありがとう。」そう言ってくれます。今年、私は十四回目の“ぎゅっ”をもらいました。

母は小児科の看護師として働いています。私は、幼い頃から働きながら私たち四人の子どもに寄り添ってくれる母をずっと見てきました。そして家族で少しずつ家事を分担してきました。自分の時間が欲しくて逃げ出したくてもいちばん忙しい母から「忙しいのにありがとう。」と感謝されると笑顔になるしかなかったのです。「ありがとう。」は母の口癖です。笑顔は母の優しさと強さです。

近見中は、全校生徒が「ありがとうカード」を持っています。学校の中で感じた友達の優しさを書き留め、「ありがとう。」と伝えられたらハートマークも書き加えます。ある日、担任の先生がカードの中からこんな言葉を紹介してくれました。「藍さんが『いただきます。』の前に給食台を拭いている。」「運動会のときに『頑張ろやね。』とハイタッチしてくれた。」「……ぐっときました。「私に『ありがとう。』を贈ってくれた人がいる」走り出したくなるくらい心が明るくなりました。そして私ももっと友達の優しさを感じられる人になりたい」そう思うようになりました。今、私のカードにはどんどんありがとうが貯まっています。「Aさんがバケツを片付けてくれた」「Bさんが毎朝、おはようと笑顔で言ってくれる。」「C君が『総体ががんばれ。』と励ましてくれた。」「……。一日は書き切れないくらいのありがとうで溢れている。そのことに気づいただけで、私の毎日は豊かになりました。

生きていくことは大変です。努力が報われなくて落ち込むときもあれば、やらなければいけないことが多すぎて押しつぶされそうになるときもあります。でも、そんなときも私は友達や母の「ありがとう。」に救われ、励まされてきました。

去年の夏休みの夕方のことです。二人の散歩道で母は話してくれました。「ねえ、藍。今日ね、二歳の子がね、『看護師さんありがとう』いうて言うてくれたんよ。ええよねえ。ありがとうって言ってもらえるんは幸せよね。言える子も幸せよねえ。」と。

私の夢は教師になることです。ぼんやりとしたあこがれは、中学生になってはっきりとした輪郭をもつようになりました。「ありがとう。」を伝え合える子どもたちを育てたい。そんな子どもたちが大人になったとき、どんなに明るくて温かい社会ができるだろう。そう考えるだけで夢は確かなものになっていきました。

私は、出会った子ども一人一人を心でぎゅっと抱きしめられる教師になります。母のように、「ありがとう。」が口癖の人になります。

### この作品を書いたきっかけはなんですか？

毎年、私の誕生日に母がプレゼントしてくれる「ありがとう」という言葉の温かさを伝えたいと思ったことです。また、近見中学校の生徒全員が持っている「ありがとうカード」を通して、私に「ありがとう」を伝えてくれた友達がいたことやそのときの嬉しさも伝えたいと思いました。母の「ありがとうと言ってもらえる子も言える子も幸せよね。」という言葉もきっかけの一つです。



国立青少年教育振興機構奨励賞受賞

## 自分らしく

大分県 竹田市立直入中学校 3年

**森田 翔輝**

「なあ、お前、悩み…ある？」

友だちは、ゲームの画面を見つめたまま、突然、聞いてきました。ゲームの音だけが響く部屋で、僕たちは長いこと黙ったままでした。

みなさんには、コンプレックスがありますか。字が下手なこと、徒競走で一番になれないこと。勉強が苦手なこと…。周りから見れば気にならないような小さいなことでも、他の人よりも自分は劣っていると思いこんでしまう「コンプレックス。」僕にも以前コンプレックスがありました。それは見た目のことです。小学校のころ、みんなよりずいぶん小さかった僕は、

「ちび」

「ちっさ」

「あ～ごめん見えなかったわ」

などと、からかわれていました。言い返すことも出来ず、笑いながら、心の中はずっともやもやしていました。

「また言われた…。なんでこんなに辛い思いせんといけんの。好きで小さいわけじゃないのに…」

からかわれるたびに、僕は自分のことがどんどん嫌いになっていきました。

楽しいはずの昼休みも、僕にとっては苦痛な時間でした。最初は僕も、グラウンドに出てサッカーをしていました。でも、パスをもらっても、僕より体の大きな友だちにすぐ取られてしまって、チームの役に立たない。僕には、パスがこなくなり、僕は昼休みにサッカーをしなくなりました。昼休みになると学校の中をあてもなくぐるぐる歩き回って時間を潰す。そんな毎日が続いたある日、僕は、学校をズル休みしました。家族に心配させたくないと思ったけれど、それよりも、「学校に行きたくない」という思いは強いものでした。その日の夕方、友だちが見舞いに来てくれました。見舞いといつても僕は病気でなくてもいい。二人でゲームをしていると、友だちが聞いてきました。

「なあ、お前、悩み…ある？」

突然の問いかけに、心が見透かされてるような気がして、僕は驚きました。長い沈黙の後、僕は今までの思いを少しずつ打ち明けました。昼休みに一人ぼっちでいること。友だちにからかわれて、隠れて泣いたこと。「大きくなりたい」その一心で、気持ちが悪くなるぐらい、いっぱいご飯を食べたこと。「僕はここです」とジャンプをしながら先生に返事をしたこと…。友だちは何も言わずに僕の話の最後まで聞いてくれました。その優しさがとても嬉しくて、ありがたくて、僕の気持ちは、少し楽になりました。別れ際、友だちは、

「明日からまた一緒に遊ぼう」

と言ってくれました。友だちが帰ると、プロ野球中継が始まっていました。中継を見ながら父が僕に言いました。

「この選手は、他の選手より上手くボールをさばくやろうが。人より上手いっっちゃうことは、それだけきつい練習をしよるっちゃうことや。プロの人でも真剣ががんばらんと試合には出られんのぞ。」

いつもは素直に聞けないような言葉でも、その日は違いました。「何かを変えるために努力している人はたくさんいる。だから僕も少しがんばってみよう」と素直に思えました。僕は、次の日から、少しでも行動を変えました。速く走れるように、毎日坂ダッシュをしました。ボールをうまくとれるように、壁にあてたボールを取る練習を続けました。休み時間のサッカーも、素早く相手かわしたり、誰よりも先にボールに向かっていったりしました。すると、前よりも少しだけ足が速くなりました。今まで取れなかった相手からボールを取れました。ほんの少し自信がついて、いろいろな遊びができるようになりました。

「ちび」

と言われても、「それが自分」と胸をはれるようになりました。そして僕は、学校が、楽しいと感じられるようになりました。

あの日、「僕もがんばってみよう」と心が動いたことで、僕は、大切なことに気づき、自分の居場所を見つけることができました。僕はみんなよりも小さいけれど、みんなのおかげで「小さいこと」はコンプレックスではなく、今の僕のチャームポイントに変わりました。

### この主張をどんな人に届けたいですか？

誰もがもっているコンプレックスを僕は友だちや家族のおかげでチャームポイントに変えることができました。コンプレックスと向き合うことは、怖いけれど、自分の心のもちょうで、自分らしく生きるきっかけになることもあります。コンプレックスに悩み苦しんでいる人に、自分らしく生きることの素晴らしさを伝えたいと思い、この作品を書きました。

## 努力賞授与式

全国大会へ推薦された47都道府県の代表者の内、惜しくも全国大会発表者に選考されなかった35名（以下、努力賞受賞者）へ、全国大会の中で努力賞の賞状が授与されました。また、全国大会当日は努力賞受賞者の作文をホール前に掲示し、ご来場いただいた多くの皆様に観覧いただきました。



努力賞授与式



努力賞受賞者

## 努力賞受賞者のプログラム

努力賞受賞者が互いの考えや思いを語り、新たな視点や考え方を身に付けていただくことをねらいとして、全国大会前日から国立オリンピック記念青少年総合センターへ宿泊し、交流プログラムを実施しました。

1日目はレクリエーションを行った後、事前に用意していたグループメンバーの発表作文に対する自分自身の考えや質問等をグループ内で共有し、意見交換を行いました。

2日目は、グループでの意見交換を踏まえ、各自の作文に記載されている個人目標や目指すべき社会を実現するため、今日から取組む具体的な行動目標を考え、メンバーの前で宣言しました。努力賞を受賞された皆さんの、各地域、学校での活躍を期待しています。



意見交換



行動目標の発表



交流プログラムを終えて

## 少年の主張全国大会努力賞受賞作品

### 【北海道・東北ブロック】

北海道 北海道登別明日中等教育学校 3年  
小路 藍花 『「命をいただく」ということ』

青森県 青森市立東中学校 3年  
山本 成 『私は「生きる」』

岩手県 宮古市立第一中学校 3年  
小笠原 凜 『自由にはばたける社会へ』

秋田県 にかほ市立仁賀保中学校 3年  
浅井 陽菜 『私を隔てたもの』

山形県 山形県立山形聾学校 3年  
佐藤 美華 『夢に向かって』

### 【関東・甲信越静ブロック】

茨城県 筑西市立下館南中学校 3年  
福田 遥生 『地球の反対側にあったもの』

栃木県 下野市立南河内第二中学校 3年  
星 優莉香 『姉が教えてくれたこと』

群馬県 前橋市立第五中学校 3年  
伏木 和香 『壁のその先に』

埼玉県 八潮市立八潮中学校 1年  
バホラ アフシン アシフ 『私の力でできること』

千葉県 白井市立南山中学校 3年  
佐藤 葉琉 『輝くために』

神奈川県 横浜市立上永谷中学校 3年  
山下 大良 『ビッグな大人になる』

新潟県 新発田市立第一中学校 3年  
和田 かな子 『命さえあれば。』

長野県 高森町立高森中学校 3年  
塩沢 歩花 『「それしかないわけない」未来』

### 【中部・近畿ブロック】

富山県 富山市立堀川中学校 3年  
田中 良明 『笑顔』

福井県 南越前町立南条中学校 3年  
伊藤 星音 『誰も傷つかない世界』

愛知県 豊田市立井郷中学校 3年  
平松 真依 『前向きに生きる』

岐阜県 学校法人西濃学園西濃学園中学校 3年  
池田 翠 『私に見える世界』

滋賀県 近江八幡市立安土中学校 3年  
奥田 実里 『私と本物の夢』

大阪府 茨木市立西陵中学校 3年  
森本 健太 『Stand By !』

兵庫県 新温泉町立夢が丘中学校 3年  
稲垣 沙耶香 『私は日本人！?』

奈良県 香芝市立香芝東中学校 3年  
内田 愛莉 『光』

和歌山県 湯浅町立湯浅中学校 3年  
宮本 崇行 『「壁」を超えよう』

### 【中国・四国ブロック】

鳥取県 米子市立福米中学校 3年  
石原 晴花 『あなたの勇気が誰かを救う』

岡山県 岡山県立倉敷天城中学校 2年  
堀野 桃花 『目には見えない大切なもの』

広島県 東広島市立西条中学校 3年  
西村 悠 『生きる意味』

山口県 萩市立萩東中学校 2年  
後藤 遙香 『自分が自分でいられる環境』

徳島県 三好市立山城中学校 3年  
正口 和 『恩送り』

香川県 観音寺市立中部中学校 3年  
豊浦 愛理 『少しの勇気で広がる笑顔』

高知県 南国市立香長中学校 3年  
永森 真尋 『片付けから始まる大きな一歩』

### 【九州ブロック】

福岡県 久留米市立田主丸中学校 1年  
山岡 由愛 『強い人』

佐賀県 学校法人東明館学園東明館中学校 2年  
佐藤 ひかる 『私に〇〇はいないけれど…』

長崎県 長与町立高田中学校 3年  
ハント 雅 『私のお話』

宮崎県 宮崎市立生目中学校 3年  
鹿嶋 優来 『新しいことを知る喜び』

鹿児島県 南さつま市立万世中学校 3年  
藤田 二誓 『心豊かな令和を願い』

沖縄県 豊見城市立長嶺中学校 3年  
新垣 悠 『気付けなかった幸せ』





国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 「命をいただく」ということ

北海道 登別明日中等教育学校 3年

**小路 藍花**

私が今まで育ってきた環境は、科学技術が発達している今の時代ではめずらしいかもしれない。有機農業を営んでいること。無添加の食品しか食べないこと。そして「肉」は飼育している鶏や父が山で捕った鹿を解体して食べる。食卓に並ぶものは全て自分達で育てた有機のもので、それが私にとっては当たり前で普通のことだった。だから、小学校の遠足のおやつはみんなが持って来るようなカラフルで交換し合えるようなものではなく、当時の私は戸惑うこともあった。しかし、そこには両親の強い願いが込められていたのだ。「環境と体にできるだけ負荷をかけない暮らしをしたい」「未来の子供のために、自分の体も遺伝子も傷付けないようにしたい」そんな願いを持って両親は私を育ててくれた。この環境で育ってきた私だからこそ、強い思いを持って主張したいことがある。それは、私たちの命は多くの命で成り立っているということだ。

私が初めて鶏の解体をしたのは小学生の頃だった。両親や兄が解体するのを見てきたし、私も羽むしりなどを手伝ってきた。食べるために命をいただくこの光景は当たり前だと思っていた。しかし、鶏を実際に自分の手で殺し、解体するのは命の重さを直接に感じるものだった。首に包丁を当て、切ったときに硬直する鶏の筋肉。流れる真っ赤な血。死ぬ直前に必死でもがく姿。この全てが私に命の重さを突き付けてくる。五分前まで生きていた鶏が私の手によって、私の手の中で死んでいく。命の重さは計り知れない。

だからこそ、私たちはその命を少しも無駄にはしない。私には分かるのだ。命は繋がっているということが。肉となった鶏は私が食べることで血や肉になり、私という命を支えている。この経験が私に、繋がっていく命の重さ、食と命の密接な繋がりに気付かせてくれた。だから、みんなにも気付いて欲しい。命の重さ、食との繋がりに。

さて、コンビニエンスストアやファストフード、二四時間営業のスーパーやレストラン。食べたい時に、食べたいものが手に入る。そんな豊かさの一方で食品ロスの問題は深刻だ。今、日本全国で約六三二トンもの命が無駄になっている。その約半数は家庭から出たものだ。つまり、私たち一人一人が意識し合って生活できれば、捨てられるだけの命を減らすことができるのだ。その意識を持つために、忘れてはならないことがある。それは、私たち人間が自然と共に生きているということだ。豊かさの中で、このことはつい忘れがちだ。だから、平気で食べ物を残したり、美味しくないと食べてくと言って簡単に捨ててしまう。もし、食卓に生きている鶏をそのまま出されたら、きっと誰もが食べるのを躊躇するだろう。そして、きっと誰もが簡単には捨てられない。なぜなら、生きているからだ。

しかし、想像して欲しい。普段食べている肉も魚も、命あるものだったのだ。形を変えただけで、その命の重さは変わらない。生きていたという事実は変わらないのだ。誰かが命を育て、そしてその命を奪うという行程の上に私たちの命は成り立っている。それを理解して欲しい。大切にしたい。

だから、私は「いただきます」「ごちそうさま」を欠かさずに言う。命をいただいているという立場で命を大切にしたいから。命に感謝したいから。

私は忘れない。私たち人間が自然と共に生きているということ。私は忘れない。私たちは多くの命に支えられ、新しい命を育てていく存在なのだということ。

### この作品を通して、これからどんな人生を作り上げて行きたいですか？

「毎日の食と命を大切に」そんな人生を私は作り上げていきたい。育ってきた環境の中で学んだ、命の重さ、食の大切さを忘れずに向き合い続けることで、感謝の気持ちを持って毎日を過ごしていきたい。そして将来は「食と命」のつながりや大切さを社会に伝えることができる仕事に就きたいと思う。これからも私は、日々、命と向き合い、その重要性を社会に発信していく。そんな人生を私は歩みたい。



国立青少年教育振興機構努力賞受賞

# 私は「生きる」

青森県 青森市立東中学校 3年

**山本 成**

「なる、お花あげないの？」

大勢の人がきれいなお花をもって、父を囲んでいました。父は、真っ白なお花に囲まれて、棺桶の中にいました。世界でたった一人の父と、最後のお別れをしたあの日、私は、小学二年生でした。

父は、土木関係の会社を営む社長でした。仕事に熱心で働き者でしたが、気が荒く、家では母に声を荒げ、時に暴力を振るうことも少なくありませんでした。しかし、まだ幼かった私には優しく、母や姉たちをかわいそう、なんとかしたい、と思いつつも、私にとっては大切な存在でした。

時が経ち、私は中学生になり、母達の心の傷も癒え、悲しみから立ち直ったころだろう…と、世間の人は思っていたことでしょう。

しかし、私の心は、まるで正反対でした。思春期になり、小さなことで落ち込むことが増え、いつしか負の感情に陥っていました。

父の暴力、そして、早すぎる死。父の代わりに会社を切り盛りして忙しい母。自立して家を離れた姉たち。どうして私の家族はみんなと違うのか…と、日に日に寂しさが募りました。なぜ人には、始まりと終わりがあるのか。生きる理由は何なのか。考えれば考えるほど孤独を感じて「現実から逃げ出したい」、「死んでしまいたい」と思ったことさえありました。

でも、死ぬことはできませんでした。なぜなら、大切な人たちの顔が思い浮かんだからです。私が心を閉ざし、何度倒れても、こんな私を見捨てることなく、心配して声を掛け、一生懸命寄り添ってくれた友達、先生、姉、そして母がいました。その人達の思いを裏切ることにはできない、私は、決して一人ではない…。ようやくそれに気づいたのです。

長く暗い、孤独なトンネルから抜け出した私は、「死」を見つめながら、同時に「生きる」ことを考えていました。何度も「死」を考えた私だからこそ、皆さんに伝えたいことがあります。

まず、あなたの周りに、元気のない人、ひとりぼっちの人、自分自身を傷つけている人、そして、「死にたい」とつぶやいている人はいませんか。思い当たる人たちに伝えます。決して、目を反らさないでください。その人は、たった今、あなたを必要としているのです。そのサインを、決して見逃さないでください。

今、心身共に元気な人も、いつ、どうなるかは分かりません。誰にでも、元気な時もあれば、心が弱り、自暴自棄になることもあります。でも、必ず、立ち直ることができるのです。そのためには、一人でも多くの方がその存在に気づき、声を掛け、時間をかけて、その人の「心に寄り添う」ことが必要です。誰かに大切にされている、という自覚があれば、人は生きる希望を取り戻せるのです。迷わず、ためらわずに、その人に伝えてください。

今、「死にたい」と考えている人に伝えます。自分を責めないでください。そして、辛いときは、誰かに頼ってください。あなたは、絶対に一人ではありません。必ず、あなたを大切にしてくれる人がいるのです。だから、絶対に命を絶たないでください。

未来は、変えることができます。「生きる幸せ」、「生きる辛さ」は、全て自分自身の成長と、人生のストーリーに大切なことなのです。

私も、いつか最高の人生だったと言えるように、「今」を、そして「これから」を大切にします。

最後に。一天国のお父さん。お父さんのおかげで、私は強くなれました。大切にしてくれて、ありがとう。私は今日も、そしてこれからも、自分らしく生きていきます。

## この主張をどんな人に届けたいですか？

何もかもいやだ……。誰かに助けてほしい。と現実に苦しみ、悩んでいる人。そして、その周りにいる全ての人に伝えたいです。世の中には、私のように身近な人の死、暴力などに悩む人、その他にもいじめや差別など、様々な悩みや心の傷を抱えている人がいます。でも、「未来は変えることができる」のです。あきらめず、人を信じて、もっと頼ってほしいと思います。そして、その人たちのサインを周りにいる全ての人が気付き、手を差し伸べてほしいと心から願います。



国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 自由にはばたける社会へ

岩手県 宮古市立第一中学校 3年

**小笠原 凜**

「夢を叶えるために、大学へ行きたい。」

私が何度も、練習している言葉です。高校生になったら、必ず父親に言おう。母と離婚してしまった父親に。私はそう心に決めています。

私が小学生の頃、両親は離婚をしました。様々な事情が重なり、母は私と兄のために離婚を決意したのです。

しかし、母一人で私たちを育てていくということは、想像以上に大変なことだったと思います。母は元々体が弱いの、私たちのために仕事も家事も頑張ってくれています。そんな忙しい生活の中でも、母は、私が学校に行くときには、必ず「行ってらっしゃい」と笑顔で送り出してくれます。

母は、私が「シングルマザーの家庭の子」と偏見の目で見られるのではないかと、いつも心配しています。そんな心配がいらぬくらい、誰からも認められる人になりたい。私はそんな思いで、学習や生徒会活動に全力で取り組んでいます。

そんな私たち親子には、私の目標である大学進学に向けて、越えなければいけない壁があります。

「高校を卒業したら、就職すればいいよ。」

久しぶりに会った父の何気ない一言に、目の前が真っ暗になりました。自分の進路を考えたとき、この父の言葉がいつも頭をよぎります。父からすれば、「大学進学」という私の進路選択はあまり良いものではないかもしれない。反対されてしまうかもしれない。そう思うと、とても不安で、なかなか伝えられずにいました。しかし、私の夢をかなえるためには、父の支えがどうしても必要です。私の夢にかける思いを、父にも理解してもらいたい。そう強く思っています。

そんな思いを抱えた私のすぐそばで、

「塾に行かなきゃ。めんどくさい。」

「適当な高校に入って、将来はとりあえず働けばいいかなあ。」

よく友達はこの言葉を零します。その言葉に、いつも複雑な気持ちがぐるぐると巡ります。塾に行かせてもらえる、好きな学校を選択できる。どれほど幸せなことでしょうか。

進路学習で夢を見ても、家に帰れば現実に立ち返る。「なんでこんなに苦しい思いをしなければならないんだろう。精一杯頑張っているのに。理不尽だ。」といういらだちもあります。でも、「迷惑はかけたくない、仕方ない。」とすべて飲み込んで、折り合いをつける。きっと、そんな葛藤を抱えているのは、私だけではないはずで。

みなさんは知っていますか。今や18歳以下の子どもたちの10人に1人が「一人親家庭」で育てていることを。私が抱えている悩みは、決して特別ではないのです。そして、「一人親家庭」の子どもの大学進学率は、一般家庭より3割も低いのです。

好きなものが手に入る、自由な進路が選択できると言われる世の中ですが、本当にそうでしょうか。

私は、置かれた環境によって、夢をあきらめなければならないような、この世の中を変えていきたい。私は大学に進学することができたら、法律や政治を学び、将来は窮屈な思いをする子どもをなくしていけるような仕事をしたいと考えています。

「自由に未来へ羽ばたける」のは、当たり前ではないこと。それができない子どもが、たくさんいること。その現状を知ってください。そしてその上で、自分がどう生きたいのか、改めて考えてみませんか。自分で考え、道を選び、自分の意志でその道を進む。それが、社会を変える第一歩となるはずで。

自由にはばたける社会へ今踏み出しましょう。

### この主張をどんな人に届けたいですか？

今、将来への迷いや不安を抱えている人に届けたいです。私と同じように、それぞれが置かれた環境の中で苦しんでいる人が多い現代社会。でも、それを「仕方ない」と飲み込んでいても何も変わりません。私の声で、誰かの背中を押すことができたらと思います。そして願わくは、私の主張がたくさんの人に届き、今大切なものを手放そうとしている人の踏みとどまる理由となれば幸いです。



国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 私を隔てたもの

秋田県 にかほ市立仁賀保中学校 3年

浅井 陽菜

「……because you’ re Japanese!」私の脳裏に焼き付いて、消えることはありません。

小学2年生のとき、父のアメリカ転勤が決まりました。父が単身赴任をするという選択肢もありましたが、私たち家族は全員で移住することを決めました。

澄み渡る青空、ひしめき合うビル、行き交う人々、自由の国アメリカのスケールの大きさに圧倒されるとともに、これからの日々大きな不安を感じたことを覚えています。

程なくして、私は現地の小学校に通うようになりました。そこには、中国人や韓国人、メキシコ人、インド人、アフリカ系のアメリカ人など、様々な人種の子たちが通っていました。彼らは、まったく英語を話せなかった私のことも、家族のように受け入れてくれました。そのおかげで、アメリカでの生活にすんなり溶け込むことができました。

4年生にもなると仲良しの友達もでき、学校生活が楽しく感じられるようになっていました。そんなある日、そのうちの一人が笑いながら私にこんなことを言ってきたのです。

「You look like a fox because you’ re Japanese. (日本人ってきつねみたいだね)」

目に映るすべてのものが、色をなくしました。あの衝撃は、今でも決して忘れることはありません。「きつねみたい」と嘲笑われたことよりも、「日本人」という言葉が、私の心に深く突き刺さりました。

それからというもの、私についての根も葉もないわさが広まり、仲良くしていた友達も私から離れていってしまいました。

そのとき初めて、私は差別を受けているのだということに自覚しました。そして、今までわからなかったことの答えが、すべてはっきりと見えるようになったのです。スーパーマーケットで店員さんにわからないことを聞いても無視されたこと、街中を歩いていたらすれ違いざまに中指を立てられたこと……日常の中にあっただこれらの「どうして？」の答えは、すべて私が「日本人だから」だったのです。私が「日本人だから」、たったそれだけの理由で遠ざけられ、忌み嫌われ、憎まれていたのです。

次第に、私は差別の眼差しを感じるようになりました。どこにいても、何をしても。

「……because you’ re Japanese!」

頭の中で、いつも誰かの声がします。そんな私に声を掛け、救ってくれたのは、アメリカ人の親友でした。

「日本人って、礼儀正しいよね。」

日本人には日本人のよさがあるのだという当たり前のことですら見失ってしまうほど、人種差別はひどく恐ろしいものでした。

日本人である私がアメリカで差別されたのは、一体なぜでしょうか。肌の色？言語？それとも戦争？しかし、それらは私たち人間を差別するものではないはずです。人間が、同じ人間を差別する必要なんて、いったいどこにあるのでしょうか。

人種によって、その人間に違いが生まれることはあり得ません。あるとすれば、生まれ育った文化や環境に違いがあるだけです。それらの違いをきちんと理解し、受け入れた上で、一人一人の人間を尊重していく——そのことが、すべての人々が平等に暮らし、人種差別をなくす唯一の方法です。

現在、日本で暮らす多数の外国人も、差別の対象になり得ます。つまり、私たち日本人が、知らず知らずのうちに人種差別の加害者となり、人間を傷つけてしまうかもしれません。他人事ではいられないのです。

人種差別は、自分の心がつくり出すものです。その心を変え、みんなの手でこの世界を変えていきましょう。人種差別の犠牲者を、私と同じ思いをする人をこれ以上増やさないために。

### この主張をどんな人に届けたいですか？

私は、日常の中で「〇〇人ってこうだね」や「〇〇人は嫌い」などと考えている人たちに、この作品を読んでもらいたいです。現在、日本はグローバル化の波に直面しています。これから、オリンピックなどの世界的なイベントを開催するにあたり、今までとは違う柔軟な対応をしていかなければなりません。多文化社会をより過ごしやすい社会にするために、私たちは互いに協力し合い、人種差別をなくしていかなければならないのです。





国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 夢に向かって

山形県 山形県立山形聾学校中学部 3年  
佐藤 美華

皆さんの夢は何ですか。私の夢はパティシエになることです。

私は、お菓子を作ることが大好きです。そして、私の作ったお菓子を家族や友達が食べて、「おいしい」と言って笑顔になるのを見るのが何よりうれしいです。「お菓子を通してより多くの人を笑顔にしたい」、そんな思いから私はいつしか「パティシエになる」という夢をもつようになりました。

しかし、私には障がいがあります。耳が聞こえにくいという障がいです。ですから私は、幼い頃から新しいことにチャレンジしようと思っても、「失敗したら周りの人からどう思われるのだろう」、「こんなことならやらなければよかった」と後悔することが嫌で自分から何かをすることから避けることが多かったと思います。パティシエになるという夢も、「大変ならいや」とあきらめようと思ったことも何度もありました。

そんなとき、「自立活動」という社会自立に向けた授業を担当してくださった先生が、「あきらめていいの、大丈夫、美華さんならできる」と私の背中を押してくださいました。そして、一緒に私がパティシエになるための方法を、親身になって考えてくださいました。実際にパティシエをされている方の体験談を伺ったり、聾学校の卒業生の進路に詳しい先生にインタビューしたりして、聴覚に障がいのある私が、パティシエになるためにはどうすればよいのか、何が必要なかを調べました。調べれば調べるほど、パティシエになりたいという思いが募る一方で、「困った時、悩んだ時はどうすればよいのだろう」、「心を打ち明けられる友達はできるのだろうか」と、現実の厳しさに負けそうになる自分の弱さに悩むことも多くなりました。しかし、「あきらめたら終わる」のです。

私は、小学六年生の時に読んだ『マララ』という一冊の本を思い出しました。それは、非暴力による抗議活動の世界的なシンボルとなり、2014年に史上最年少でノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんを描いた本です。彼女は、女の子が学校に通う権利を唱え、タリバンの銃撃を受け重傷を負います。それでも、彼女は暴力に屈することなく、自分の信念を貫きました。私は、その力強い生き方がすごいと思いました。それに比べて私はどうだろう。いつもあきらめてばかり。地域の中学校との交流学習だってそう。いつも受け身。話をしてみたいと思っても、「もし話が通じなかったら」と考えてしまい、自分から話しかける努力をしないできました。そんな自分に終止符を打つのは自分しかいないと、今年の交流学習では、思い切って自分から相手校の生徒に話しかけました。すると、思いがけず彼女からは、笑顔で「久しぶり」という声が返ってきました。そこから話がはずみ、気づいたらいつの間にか私は、数名の女子生徒に囲まれていました。そして沢山話しました。「うれしい、勇気を出して話しかけてよかった」という気持ちでいっぱいになりました。最初はあんなに不安でいっぱいだったのに、最後はその不安が、全部吹き飛んでいました。

このことで私は、自分改革の道を一步踏み出せました。不安や恥ずかしさはまだまだあります。しかし、私には「パティシエになって、私の作ったお菓子で一人でも多くの人を笑顔にする」という大きな夢があります。マララさんのように自分の命を顧みずとは、私にはできません。しかし、「聴覚に障がいがあるから」「失敗が怖いから」とチャレンジもせずあきらめてしまうのではなく、まずは実現に向け、気負わずに、私らしく一歩ずつ前へ進もうと思います。そして、パティシエを目指そうと思います。「あきらめたらそこで終わる」を心に刻んで。

### この作品を書いたきっかけはなんですか？

国語担当の先生から「新しいことに挑戦してみない？」と言われたことが、弁論大会に出ようと思ったきっかけです。私には障がいがあり、今まで自分から新しいことをするのを怖がっていました。でもマララさんのことと、中学校交流で自分を少し変えられました。「昔の自分と今の自分は違うんだ！」ということを作品に表しました。弁論大会に出たことも一歩前に進むことができた一つだと思います。夢を実現するために頑張ろうと改めて思えました。



国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 地球の反対側にあったもの

茨城県 筑西市立下館南中学校 3年

福田 遥生

ハロー。オラ。ボンジュール。ボンジョルノ。ニーハオ。アニョハセヨー。ナマステ。私がアメリカで知り合った友達のおいさつです。

私は、昨年一年間、アメリカで生活していました。

「アメリカでの生活を通して、経験したことはなんですか？」

よく友人からこの質問をされますが、私は、いろいろな国の人と出会ったことが、最も大きな経験になったと感じています。

アメリカに行った当初、友達ができるか、これからここで本当に生活していけるのか、不安でいっぱいでした。しかし、アメリカでの生活を通して、英語を学んだことに加え、さまざまな国の人と出会い、さまざまな文化について学ぶことができました。このことは、私の経験値を高め、とても充実した一年間になったと、今改めて感じています。たった一年間でしたが、得たものがたくさんありました。そこで、私が感じた日本とアメリカの大きな違いを二つ挙げたいと思います。

一つ目は、人種や文化の違いです。アメリカの学校は、顔、目、髪の色がさまざまな学生が共に学校生活を送っています。アメリカは、「人種のサラダボウル」と呼ばれるくらい、多種多様な人々がいます。歴史の授業でアフリカ系の人を差別したり、ユダヤ人を迫害したりと、人種差別の実態があることを知りました。そして、その人種差別はきっと、今もなお、この世界のどこかで続いていることなのでしょう。しかし、私の通っていた学校は見た目の異なる人同士が差別をしたり、偏見をもったりすることせず、互いを仲間として認め、笑顔で接していました。また、食事のときには、母国の料理を食べていたり、あるいは母国の文化を重んじ、手でつかんで食べていたり、食生活だけでも大きな違いがありました。そんな環境で生活しているとき、私はある詩人の言葉を思い出しました。「みんなちがって、みんないい。」これは、一度は誰もが耳にしたことがある言葉でしょう。金子みすゞさんの作品に出てくる一文です。その作品にもある通り、私たちは同じ顔、同じ声をしている人などいません。みんながみんな、違った特徴や個性をもっています。みんな違っていいけれど、それでいい、ということをおはアメリカでの生活を通して、身をもって感じることができました。

あらゆる人と接し、触れ合い、異なる文化を知り、認め合うことで、差別をすることのない素晴らしい人間関係を築くことができるのではないのでしょうか。そうすることで、自分の視野も広がり、さらには今まで知ることのなかった新たな世界を知るきっかけにもなることなのでしょう。この世界から見た目や文化、思想などの違いから生じる差別がなくなり、誰もが堂々と生きることで、平和な世界が実現されることを願っています。

二つ目は、人との接し方です。みなさんは、スーパーなどに買い物に行ったときに、顔見知りでない人に話しかけられたことがありますか。恐らくほとんどの人は「ない」と答えることなのでしょう。しかし、アメリカの場合、バスや野球場などでたまたま隣に座った人、スーパーなどでたまたま後ろに並んだ人など、みんなが気軽に話しかけてくれます。アメリカの人たちはみんなフレンドリーで、顔見知りでない人とも気軽に会話を楽しむことができます。日本でも、そのようにさまざまな場所で、さまざまな人と関わる機会をせば、交友関係が広がり、助け合ったり、励まし合ったりする関係を築くことができるのではないのでしょうか。

地球の反対側にいるだけで、こんなにも文化や考え方、生活の仕方が変わるのだということを知り、他国の人々を理解し、認め合うことの大切さに気付く、実りの多い一年となりました。

日本とアメリカに限らず、この世界には、たくさんの国、人々、文化が存在しています。自分が生まれ育った国の良さを感じつつ、他国の良さにも目を向け、誰もが互いに尊重し合うことのできる、明るく幸せな未来になることを心から願っています。

### この作品を書いたきっかけはなんですか？

私がアメリカでの生活を通して学んだことを、少しでも多くの人に知ってほしいと思ったからです。今、世界で問題になっていることに目を向けることができました。地球の反対側にいるだけで、文化や考え方、生活のしかたなどが違い、いろいろな人がいるということを伝えたかったからです。このような経験を生かし、多様性を受け入れ、他者を理解し合い、誰もが堂々と互いに尊重し合うことのできる世界にしたいと思ったからです。



国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 姉が教えてくれたこと

栃木県 下野市立南河内第二中学校 3年

**星 優莉香**

皆さんには、兄弟はいますか。私には、8歳年上の姉がいます。彼女は、笑顔の素敵な優しい人です。でも、その笑顔の裏で、私たちには想像もできない、過酷な人生を生きています。

私の姉は、膠原病という病気を抱えています。姉は、4歳のときに、42度の高熱に襲われました。熱は40日間続き、そのうち、姉の手足は動かなくなりました。姉は、4歳という若さで、膠原病とともに生きる人生を突きつけられたのです。

姉は、身体障害者です。手足は自由に動かせないので、車椅子で生活しています。視力も弱いので、これを補うために人工レンズを入れています。それから、服用する薬の副作用で、身長は105センチしかありません。骨ももろくなってしまいます。薬には抵抗力を抑える効果があるので、姉の体は感染症にかかりやすくなっています。発達障害もっており、苦手なこともたくさんあります。たくさんの生きにくさを抱えながらも、姉は毎日笑顔で生活しています。

姉の話をする時、同級生や他のおうちの方から「かわいそう」と言われることがあります。確かに、彼女はたくさんの生きにくさを抱えています。「かわいそう」と言われるのも、無理はありません。でも私は、この「かわいそう」に違和感をもっています。「かわいそう」という言葉の奥には、自分の方が優れている、自分の方が豊かである、というような、人と人とを比べる意識があるように思うからです。

私は、姉との暮らしを通して、姉が強く生きていて、生きることを素晴らしいと感じていることを知っています。姉は、「かわいそう」な人ではありません。どんな困難にも笑顔で立ち向かい、生きることに希望をもっている「強い人」なのです。病や障害とともにあるからこそ、姉は強い人になったのだと思います。そして、そんな姉と生きているからこそ、私は人の強さを知ることができたのだと思います。

今から2年半前のことです。姉はMRSA感染症になりました。大学病院に入院しましたが、日に日に病状は悪化していき、入院期間は6か月にも渡りました。

そんなある日、病院を訪れた母に、医師はこんなことを告げました。

「明日、明後日がやまです。最後かもしれません。ご家族を、お呼びください。」

まるで、ドラマのワンシーンのようだった、と母は言いました。医師の言葉を聞いて、母は、声を上げて泣きくずれたそうです。

当時小学6年生だった私は、その日、学校で授業を受けていました。母からの連絡を受け、担任の先生に手を引かれて、姉の病院へ行きました。姉は様々な臓器を病み、意識を失っていました。「お姉ちゃん、死なないで。生きて。」と心から願いましたが、その日は目を覚ますことはありませんでした。

2日後、姉はハッと意識を取り戻しました。「峠は越えました」という医師の言葉に、家族みんなで胸をなで下ろしました。私たち家族の「生きてほしい」という願いが、そして何より姉自身の「生きたい」という願いが、病を退けたのだと思います。

姉は、人の支えなしには生きられません。しかし、支えられているからこそ、感謝の気持ちと誇りをもって生きているのだと思います。幸せそうに生きている姉を、私は誇りに思っています。

姉の姿を見て育ち、私は医師になりたいと思うようになりました。難病と戦う人の心の支えとなれる医師になって、一生懸命に生きる人々を励ましたいと思っています。諦めない心、周囲への感謝の心、そして、人としての力強さ。私にたくさんのことを気づかせてくれた姉に感謝しながら、私も力強く生きていきたいです。

### この主張をどんな人に届けたいですか？

私は、この社会に生きる全ての人に、この主張を届けたいです。私は、日常生活で「障害者だから」という偏見や差別をよく見聞します。姉の強い生き方を知ってもらうことで、世界から障害者への偏見や差別がなくなってほしいと思っています。また、この主張が、障害を抱える方々に勇気を与え、その周りの方々を温かい気持ちにするものになれば、と思います。障害者・健常者という区別がなくなり、同じ一人の人間として認められる社会になることを願っています。



国立青少年教育振興機構努力賞受賞



## 壁のその先に

群馬県 前橋市立第五中学校 3年

伏木 和香

「自分にはできない。」自分で自分の限界を決め、諦めてしまうこと、皆さんはありませんか。私は生まれた時から聴力がほとんどありません。「難聴」という障害です。日々の生活には補聴器が欠かせません。

今まで私は「難聴」という壁が立ちはだかった時、物事への挑戦を恐れ、逃げてしまうことがありました。その一つがスイミングです。補聴器は水に濡れると壊れてしまうため、外さなければならず、コーチの指導は私の耳にほとんど届きませんでした。最初は良かったもののレベルが上がるにつれ、習得が困難になっていきました。他の人が易々とこなしているのを見ると悔しさがこみ上げてきましたが、「自分には到底無理だろう。」という気持ちのほうがかんたんと大きくなってしまいました。そして、「限界だ。」と諦めて、幼稚園から四年間続けたスイミングを辞めてしまったのです。

中学二年のある日、学校からの案内を見て、二泊三日のイングリッシュキャンプへ参加したいと思いました。なぜなら、英語が好きだったこともありますが、「自分を変えたい。諦めない強い心をもてるようになりたい。」そう思ったからです。しかし、その挑戦は私にとって容易なことではありませんでした。初日から「リスニング」という壁にぶつかりました。難聴の私には聞き分けが困難な発音が多くあります。覚悟していたとはいえ、私の耳は英語の指示についていけないことが多かったのです。「今、何て言ったの?」「どうしよう。分からない。」そう思ったことも一度や二度ではありません。そんな私を救ってくれたのは、「大丈夫? 分からなかったら何でも聞いて。」という同じクラスになった仲間の言葉でした。その仲間はその日初対面だったにもかかわらず、私を気遣い、声をかけてくれたのです。私が聞きとれず何度聞き返しても嫌な顔一つせず説明してくれました。この時手を差し伸べてくれた仲間のおかげで、「リスニング」という壁を乗り越えることができました。「ありがとう。」という言葉は私はこのキャンプで何度言ったことでしょうか。私は今まで助けられることに後ろめたさを感じて、「迷惑をかけるから。」と挑戦することを躊躇してしまうことが多くありました。しかし、その仲間をはじめ、周りの人が手を差し伸べてくれました。その温かい心に支えられ、私は無事キャンプの全日程を終えることができました。

私にとって、「人の支え」とは欠かせないものです。私が今ここに立ってられるのも今まで沢山の人の支えがあり、壁を乗り越えられたからです。私だけではありません。皆さんもそうではないでしょうか。人は誰でも一人では生きていけません。生まれてから今まで必ず人と関わり合いながら生きています。誰かに支えられ、時には自分が支え、その中で成長し強くなります。

人生には幾多の壁があります。もし越えられそうにない壁が現れた時、自分の限界を決め、諦めてしまうのは勿体ないことだとキャンプでの経験を通して学びました。越えられそうにない壁が立ちはだかった時、人はそれを越えられない理由、つまり言い訳を探します。その言い訳で心が一杯になっていては、この先前進することはできません。壁と向き合ってこそ、成長した自分に会えるのです。

だから私は、「難聴」を理由にもう逃げることはしません。時に、人に支えられながらも挑戦し続けたいと思います。そして周りの人への感謝の気持ちを忘れず、今まで沢山の人の支えられてきた分、将来はそれ以上に人の役に立てる人間になります。これからの人生でも色々な壁が私の前に現れることでしょう。それでも挑戦を恐れずに、一つ一つ壁を乗り越え、自分らしく歩んでいこうと思います。壁のその先にある未来へと向かって。

### この作品を通して、これからどんな人生を作り上げて行きたいですか？

私には「宇宙開発に携わる仕事をする」という夢があります。その夢を叶える為にも、これからの人生において壁に直面しても「障がい者だからできない」と諦めるのではなく粘り強く壁と向き合っていきたいです。そして常に、支えてくれる周りの人や環境に対し、感謝の心を忘れず、社会の発展に貢献できる人でありたいです。そして私と同じように障がいをもつ人たちに希望を与えられるような生き方をしたいです。





国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 私の力でできること

埼玉県 八潮市立八潮中学校 1年

バホラ アフシン アシフ

「マネ ジャウチェ パル マウナティ ジャワートユ」これはグジャラティ語で「学校に行きたくても行けないよ」という意味です。これは、私がインドにもどった時に友達から言われた言葉です。この言葉を聞いた時、私は大きな衝撃を受けたのを今でも鮮明に覚えています。

『二億六千四百万』みなさんこの数字が何を表しているかわかりますか。これは、世界で学校に行きたくても行けなくて苦しんでいる子供たちの数です。私たちには当たり前に見える学校も、その子供たちにとっては、行きたくても行けない特別な場所なのです。私は、この現実を知った時、とても信じられませんでした。どうして同じ子供なのに・・・

始めは、「なんとかならないのかな」と思いました。しかし、段々と気持ちが変化し、「自分がなんとかしたい」「私がその子供たちの元に行って勉強の面白さを教えたい」という強い気持ちが心の底からこみ上げてくるのを感じました。このことが、私の目指すべき「夢」となりました。私の夢は、「小学校の先生になる」ということです。

それからというもの、毎日毎日勉強を頑張る日々です。ときどき答えが分からず、くやしくて、泣いたこともありましたが、でも、「自分は毎日学校に行き、勉強ができる環境の中で生きている幸せ者なんだ」そう思うといつも自然と力がわいてきて私の背中を押してくれました。もし先生になることができれば、日本だけではなく、世界中を飛び回ってどの子供にも学ぶ機会をつくりたいです。たとえ、校舎や机、イスがなくても、私の教えたい、伝えたいという思いと、子供たちの学びたいという思いがあれば学びは成立すると思います。もちろん、言葉で言うほど簡単なことではないということも分かっています。だから、私にそれが本当にできるのかどうか、不安になる時もあります。しかし、そこでなにもせず立ち止まったままでは現実は何も変わりません。小さな一歩かもしれませんが、それが、学校を知らない子供たちに希望と勇気を与えることにつながるのなら、私は前に歩み出し、挑戦し続けたいと思います。私の力で、世界の子供たちが変わるのなら、どんなに難しいことや辛いことにも耐えて乗り越える覚悟があります。学びたくても学べない子供たちを一人でも多く救うことを一つひとつ積み重ね、仲間を増やしていけばきっと世界だって変えることができると信じています。だから私は、これからも一日一日を大切に生き、人として大きく成長して先生になる夢を必ず実現させます。そしてこれからの未来が、子供たちの笑顔であふれ、夢や希望を語り合えるそんな素敵な世の中になるために「確かな足跡」を残していきたいです。

### この作品を書いたきっかけはなんですか？

この作品を書いたきっかけは、インドに戻った時に、顔見知りの友達に、「学校に行きたくても行けないよ」という言葉をかけられたのがきっかけです。そこではじめて、学校に行けない子供がたくさんいることを知り、「何とかしてあげられないのか」と思いました。それで、そういう子供たちがいること、助けてあげたいと思ったことをみんなに伝え、もっとそのことについて知ってほしくて、協力してほしいと、この作品を書きました。この作品によって、どの子供も学校に行けるようになることを願っています。

国立青少年教育振興機構努力賞受賞



## 輝くために

千葉県 白井市立南山中学校 3年

**佐藤 葉琉**

僕が四才の時のホームビデオ。カメラに向かって幼い僕は話しかける。

「み、み、みて。ウルトラマン。」

幼稚園の頃ウルトラマンが大好きで、いつもソフビ人形で遊んでいたのを覚えている。

僕は吃音症だ。吃音症とは話す時に言葉がつかえたり、音がのびたり、音が出ない症状のことだ。幼稚園で友達と遊んでいるとよく聞かれた。「なんで変な喋り方なの。」ただ気になり質問したのだろうけど、僕の心は傷ついた。なんで傷ついたのかはわからなかった。母は、

「これはね、葉琉が輝くための個性だよ。」

と笑顔で言った。当時は言葉の意味が理解できなかったけれど、不思議と心が温まった。それからは吃音のことを言われても傷つかなくなった。小学校に上がって最初に行く自己紹介で吃音のことを話した。自分の個性なのだから隠す必要が無いと考えたからだ。しかし初めのうちはからかってくる人もいた。だが僕の吃音を気にしない姿勢がつまらなかったのか、少しずつ減っていった。高学年になると周りの誰もが僕の吃音を認めてくれていた。

中学一年の九月、僕は生徒会本部役員に立候補した。まわりの大人は心配した。吃音なのに大丈夫なのか。僕自身とても不安だった。吃音というだけで自分の思いを聞いてもらえないかもしれない。思考がマイナスに傾いていた僕を前向きにさせてくれたのはまたしても母の言葉だった。

「葉琉にしか伝えられないことがある。悪い方に考えているうちは良いことないよ。前向きにね。」

心に火が点き、やる気があふれてくるのを感じた。そして無事に当選することが出来た。生徒会本部の仕事は大変で人前に出ることも多かったけれど、とてもやりがいがあった。

僕は吃音症を持って生まれたおかげで様々な経験をする事が出来た。その中で大切だと学んだことがある。それは「個性を認める」ということだ。僕は自分の吃音という個性を認めている。人によって顔が違う、身長が違う、声が違う。当たり前のことだ。それと上手く話せないことの何が違うというのか。何かが出来なかつたり人とは違うことも個性だ。個性を隠したり恥ずかしがる必要もないし、人の個性をバカにしていはいはずがない。自分の個性も人の個性も認めるべきだと思う。自分の個性を嫌う人とたくさん出会った。だが嫌う必要なんてない。自分の個性は自分しか持っていない唯一無二のものなのだから。

あいつ皆と違うぜ、と人を笑う人がいた。そんな間違っていると思う。人と違う個性を持っているのは当然のことなのに何故笑うのだろう。僕は皆が個性を認めるようになればどれだけ良いかと、いつも考えている。

僕が大切だと学んだことはもう一つある。それは「臆さずに挑戦する」ということだ。生徒会本部役員選挙は自分にとってとても大きな挑戦だった。つかえながら演説しても皆真剣に聞いてくれた。頑張っってねと応援してくれた。人の温もりを感じて目頭が熱くなったのを覚えている。この経験はあの時臆さず挑戦したから得ることが出来たものだ。もしも挑戦していなかったのなら、今の自分は無いと言い切れる。挑戦して上手くいかなくてもそれは失敗ではない。その経験が将来への糧となると僕は信じている。

これからの人生、僕の吃音を笑う人がいるかもしれない。そうしたら、笑顔でこう言ってやる。

「吃音は僕の個性だ。僕の宝物だ。」

個性を認めて生きていく。これを僕は貫き通す。そして、何事にも臆さず挑戦し続ける。挑戦し続けて、強くまっすぐな人間へと成長したい。

### この主張をどんな人に届けたいですか？

僕は吃音症を持って生まれました。吃音によって辛い事もたくさん経験しましたが、「自分の個性」と認める事でそれ以上に素晴らしい経験をする事が出来ました。僕は吃音のお陰で様々な事を学び、自分の武器にする事が出来たのです。世の中にはハンディキャップを背負っている方がたくさんいます。その人たちに僕の思いを届けたい。それだけではありません。僕は、自分の個性を嫌う人や他人の個性を嘲笑う人にも、思いを届けたいのです。



国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## ビッグな大人になる

神奈川県 横浜市立上永谷中学校 3年

**山下 大良**

中学受験で希望校に合格。好きな勉強に没頭し、一流の大学を出て一流の企業に就職する。これが僕の思い描いた未来でした。

しかし、現実には受験に失敗。プライドがずたずたになった僕は、地元の公立中学校に入学し、無気力、無関心そのもので生きていました。それまで周りの人間に「大学を出ろ」だの「学歴が大事」などと言われ続けてきました。当時は人間の価値は、合格・不合格で決まるものだと考え、砂の中から砂金を探すよりも、砂金の中からよりよい砂金を探す方が簡単だと勝手に思い込んでいました。

そんな悶々とした日々明け暮れる中、中学校に入学したばかりの僕の目の前に一枚のポスターが飛び込んできました。そこには、「起業家育成プロジェクト」の文字がありました。小学校の卒業アルバムに「ビッグな大人になる。」と書いた僕は「これだ。」と思い応募しました。グループワークで自分の考えを積極的に語り、無事プロジェクトへの参加が決定しました。

僕は二期生。これは未来のステイブジョブズを目指すプロジェクトです。二十名の中学生が、一年間にわたり活動します。パシフィコ横浜や、横浜国立大学での講義や実践で、会社経営の楽しさやスキルを学びました。最後はアメリカのシリコンバレーでの海外視察がありました。ここでは、人種・民族に関係なく実力こそがすべてであるということ。学歴や職歴は、あってもなくても人の価値は変わらないのだと気がつきました。

最後のビジネスプランの発表会で、十年後に世界のトップ10に入る企業を考えました。僕のグループは、なめらかに動く新しい車椅子を考えました。その実現に向けて、福祉施設の見学。利用者の生の声。話し合いや実験を四カ月繰り返ししました。地面への接触部分と座る部分を別々に作ることで階段をスムーズに上り下りできることに気がつきました。今話題のワイヤレス充電を利用し、家に入ったら充電できる仕組みも考えました。経営方法やロゴまで制作しプレゼンをしました。これは、社会貢献へのビジネスとして、実現への可能性が大きく膨らみました。僕が起業したら、一番に実現させると決意していることです。

その中で、希望を持たせてくれた言葉がありました。それは一期生ですでに人材派遣会社を起業している先輩からの言葉です。彼曰く、「このプロジェクトでの、起業家とのつながりをもとにして起業した。」この言葉で僕のエンジンは動き始めました。今僕は、起業に向けて、様々な企業の方からアドバイスを受けています。そして、着々とクラウドファンディングの準備を進めています。

起業のために必要な力とは、何事もまずは、やってみることです。積極的に自分の意見をいうことから始まります。衝突を恐れず、物事を冷静に見つめる観察力や実験力も必要です。その上でネットワーク力を駆使して行くことが大切です。このすべてを関連づける力を持つことが今、自分に課せられた課題です。

僕は、将来理数系の情報の分野に興味があるので、IT企業の経営者になるつもりです。そして何より、僕は起業するだけでなく、未来の起業家を応援する人間になりたいと考えています。

僕の志は、「会社の経営者となり、起業を目指す子どもたちのために、そのノウハウを教えたり、起業を実現する手助けをすることです。」

起業家育成プロジェクトは、挫折してすべての自信をなくした僕に、志を持って生きることを教えてくれました。

「中学受験失敗」で始まったこの三年間。この失敗がなければ、現在の自分に辿り着くことはできませんでした。僕の志は、世界にそして宇宙に広がりを見せています。このプロジェクトは僕に空を飛んで羽ばたく楽しさを教え、僕の人生の道しるべとなりました。

僕は近い将来、世界トップ10に入る起業家となり、それに続く未来の起業家を育てていきます。

### この作品を通して、これからどんな人生を作り上げて行きたいですか？

私は、プロジェクトで学んだ、「人種・民族・学歴・職歴などで人の価値は変わらない。」ということを中心に置いて、今後自分の前に立ちはだかる壁を乗り越えて行きたいと思います。そして、将来は、自分が起業するだけでなく、未来の起業家を応援する人間になり、人に勇気を与えられる人生を歩んでいきます。

国立青少年教育振興機構努力賞受賞



## 命さえあれば。

新潟県 新発田市立第一中学校 3年

和田 かな子

「かな子ちゃん、一緒に遊ぼう！」

「ウノしようよ！」

と、話しかけてくれる小児病棟の子供達。その子達はいつも点滴に繋がれていました。けれど、明るくて、無邪気なその笑顔は、いつも私を癒してくれました。

中学一年の秋、私は悪性リンパ腫という病気になりました。病名を聞いたとき、目の前が真っ暗になりました。「眠ってしまったら明日の朝目覚めないかもしれない」と、夜眠ることすら怖くて仕方がありませんでした。少し前まで普通の生活をしていたのに、何で私がこの病気になったの？どこにもぶつけようのない苛立ちや苦しみに押し潰されそうでした。

初めて子供達に会ったとき、皆楽しそうに遊んでいるのが、私には不思議でなりません。点滴に繋がれて治療を受けているのは私も同じなのに、どうして元気なのだろう。こんなに小さな子供達が頑張っているのに、私は……と自分が恥ずかしくなりました。そして、「私も強くなりたい。たくさん笑って病気を治したい。」と前向きに思うようになりました。小さな子供達のたくさんの笑顔が生きる希望をくれたのです。この日を境に私の心のもやは晴れていきました。

また、ある日のこと、同じ病室の女の子が主治医の先生をこう呼びました。

「先生はね、神様先生なんだよ！」

神様先生——、素敵な呼び方ではありませんか。優しいその先生にぴったりです。ああ、私は何て素晴らしい先生に出会えたのだろう、そのとき気付いたのです。私がたくさんの人達にどれ程支えられていたのかを。優しい先生や看護師さん、明るく可愛い小児病棟の子供達。院内学級の先生。勉強しているときは、普通に学校にいるような気分になりました。それから第一中学校の先生や友達の励まし。そして一番身近な両親の大きな愛。たくさんの人達に支えられ、助けてもらったおかげで、私は笑顔で退院することが出来ました。

今、私には夢があります。入院を通して医療関係の仕事に興味を持ち、臨床心理士という仕事を知りました。様々な社会的要因により心の問題を抱える人へ、心理学的立場から援助を行う仕事です。

この夢への思いが強いのは、看護師さんの言葉がきっかけです。少し人が減った病棟を見て「寂しくなりましたね」と話しかけると「でもここが空っぽになるのが私達の夢だからね。かな子ちゃんが退院出来る日が来るのは、先生も私達もとっても嬉しいよ。」と。病棟が空っぽになるなんて想像したこともありませんでした。「病棟を空っぽにしたい。そうになったら幸せだな」と思ったのです。臨床心理士は病気を直接治す訳ではありません。けれど、辛い入院生活を乗り越えるためには、私が受けたようにたくさんの支えが必要です。病気を持つ方も支える方も悩みやストレスを抱えないことは難しいでしょう。だからこそ、臨床心理士としてその辛さをさらけ出せる心の居場所になりたい。今度は、助けていただいたこの命で、誰かの支えになりたい。そのために私は、この仕事を目指します。

小児病棟で病気と闘っている子供達はたくさんいます。そして、その命は今も懸命に輝いています。生きたくても生きられない人がいるという現実を私達は決して忘れてはならないのです。当たり前の日常がどれ程幸せなことか。命を無くしてからではもう取り戻せません。

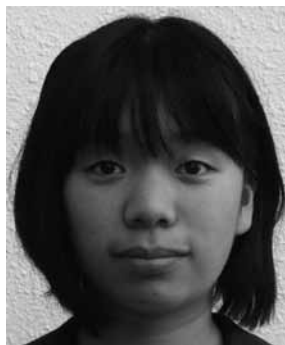
だから、誰もが一つずつ与えられているこの宝物を大切にしなければ。失敗したって大丈夫。何度でも挑戦出来ます。少しの失敗を恐れなくて。命さえあれば何だって出来るのです。臨床心理士になることが容易でないことは知っています。けれど私は精一杯生きて、夢を叶えます。それはとても贅沢なこと。生きるということ。

「命さえあれば。」希望の光は常にあります。

### この主張をどんな人に届けたいですか？

私を支えて下さったたくさんの人達に、この主張を届けたいと思います。人の心の温かさ、生きている喜び、病気になったことで深く感じる事ができました。明日をも見えなかった日々から、将来の夢を持てるようになった今、生きていることの感謝の気持ちでいっぱいです。失敗を恐れず、毎日を大切に、私は生きていきたいです。





国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 「それしかないわけない」未来

長野県 高森町立高森中学校 3年

塩沢 歩花

「将来の夢は何ですか。」

これが私の一番嫌いな質問でした。

私は昔からころころ将来の夢がかわって来ました。ピアノの先生、モデル、声優に漫画家…。現実味のない夢ばかり抱いてきました。そしてその時はどんなに輝く職業に見えても、そのうちに迷いが生まれてしまうのです。

今私に与えられた試練、高校選びではまわりの人から必ず

「あなたが将来なりたいものを頭に入れて決めなさい。」

と言われます。その都度私の胸にひっかかっています。どうして夢を一つに決めなければならないのですか、もっと可能性を知ってからではダメですか、と。

私が将来の夢を決められない理由は、興味があることを一つにしぼる勇気が出ないからだ、進路の授業の時に分かりました。何か一つに夢中になり、歩いていく道を選ぶみんながとてもまぶしかったです。そして同時に「将来の夢」という言葉に不安を抱き、自分に自信がもてなくなっていました。

そんな悪循環を断ち切ってくれたのは、私の大好きなヨシタケシンスケさんのこの絵本、「それしかないわけないでしょう」です。

絵本の中で主人公とおばあちゃんが会話をしているシーンがあります。おばあちゃんはほほえみながら言います。

「それしかないわけないじゃない。」と。「おとなはすぐに『みらいはきっとこうなる』とか『だからこうするしかない』とかいうの。でもたいていあたらないのよ。あと、おとなはよく、『コレとコレ、どっちにする？』とかいうけれど、どっちもなんかちがうなーっておもったときは、あたらしいものをじぶんでみつけちゃえばいいのよ！みらいはたーくさんあるんだから！」

そんなおばあちゃんの言葉から、まだなりたい職業がない私も一つにしぼらず広い視野で決めていけばいいんだ、と救われました。

明日すぐすごく好きな何かができるかもしれない。来年、本当になりたい憧れの職業に出会えるかもしれない。未来は、「それしかないわけない」から、何でもできるんだ、と不安が広がっていた私の未来に新しい希望を与えてくれました。

それから私は、進路を考えると、こんな考え方で選ぶようになりました。

それは、いかにたくさん経験ができるかそして、それはどれだけ自分をわくわくさせてくれるか。やりたいことが見つかるまで、未来のための部品を集めることにします。

この世で一つだけの私の人生です。選びきれずに迷ってしまうこともあります。それならそれでやりたいことを何でもやる、たくさん経験をつむ、そうやって集めた部品から一つの道を決めればよいのではないのでしょうか。

それは、決められないことに目を背け、開き直っているわけではありません。「夢」がはっきりしていないことに引け目を感じているわけでもありません。一度しかない人生の、無限にある未来の選択肢を広げるのです。

今、私は未来がとても楽しみです。少しずつ自信がもてるようになってきました。もし今将来について聞かれたらこう答えるでしょう。

「これから決めていきます。」

と。たくさんある、私だけの「それしかないわけない」未来とまっすぐに向きあっていきたいと思います。

では、最後にみなさんに質問をします。

「あなたの将来の夢は何ですか。」

### この作品を通して、これからどんな人生を作り上げて行きたいですか？

私は「未来はそれしかないわけない」ということを主張しました。これから、将来や進路のことで悩んでも自分の可能性をあきらめず、やりたい気持ちから目を背けず素直に生きていきたいです。そして、子どもの夢を心から応援できる大人になりたいです。いつか人生を振り返った時、後悔しないで「楽しかった」と笑えたらいいなと思っています。どんな人生だとしてもこれらがとても楽しみです。



国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 笑顔

富山県 富山市立堀川中学校 3年

**田中 良明**

僕は普段から「笑顔」を大切にしています。僕にそう思わせてくれたのは母です。

去年の十二月、僕が大好きだった母が亡くなりました。原因はがんでした。医師から病名を告げられ、「もう長くはないかもしれない」と言われました。それからは日に日に病状が悪化していきました。

それでも母は、毎日僕に「笑顔」を見せてくれました。本当は痛くて辛くて苦しいはずなのに、それを隠して、亡くなるまでずっと笑顔でした。

僕が病名を聞いてから、二週間後、母は亡くなりました。僕は、あまりの悲しさに何もやる気が起きず、ただただ一人で泣いていました。

そんな僕を救ってくれたのは、仲間や友達、先生方でした。お通夜にはクラスや部活動の仲間、たくさんの友達や先生方が来て下さいました。僕はそれが言葉にできないほど、とてもとてもうれしかったです。お通夜が終わった後、「学校で待っとるぞ」「頑張れ」など、温かい励ましの声をたくさんもらいました。

僕は、「友達は財産だ」ということを初めて実感しました。今までは何となく毎日と一緒に過ごしているという感覚でしたが、友達は、何にも代えられない宝物だということを知りました。

葬儀を終え、しばらくして学校へ行った時、クラスの皆がたくさんの「笑顔」を見せてくれました。その「笑顔」を見た僕も自然に「笑顔」になっていました。

僕は、なぜ母が痛くて辛くて苦しくても「笑顔」でいたのかが分かりませんでした。「痛いなら痛いつて言えばいいのに」「辛いなら辛いつて言えばいいのに」とずっと思っていました。でも、母がずっと「笑顔」だった理由が分かりました。それは僕との限られた時間を楽しく過ごし、僕を笑顔にして、僕の笑顔を見たかったんだと思います。僕は、母が「笑顔」を大切に、最期まで一生懸命生きた姿を思い出し、「笑顔」を大切にしようと思い始めました。僕自身が「笑顔」に助けられたからです。

一人が「笑顔」になれば、皆が「笑顔」になれる。もちろん逆もあります。一人が怒っていたり、悲しんでいたりしたら、周りの人も暗い気持ちや、嫌な気持ちになってしまいます。だから、僕は皆さんに「笑顔」を大切にしてほしいのです。

世の中には、いじめや差別、うまくいかないことなど、自分にとって辛いことや苦しいことがたくさんあります。でも、そんな時こそ笑ってみて下さい。必ず誰かが寄り添ってくれます。必ず誰かが助けてくれます。必ず誰かが一緒に笑ってくれます。どんな時でも「笑顔」で過ごしてみてください。きっとマイナスがプラスに変わります。

辛くても苦しくても、いつも「笑顔」。母は大切なことを教えてくれました。

お母さん、ありがとう。

僕は「笑顔」を大切に、これからの人生をたくさんの仲間とたくさんの笑顔で生きていきたいです。

### この作品を通して、これからどんな人生を作り上げて行きたいですか？

僕はこの主張を通して、あまり笑顔になれない人に笑顔を届けられる存在になりたいです。僕が友達の笑顔に助けられた分、次は僕が笑顔を届けたいです。亡くなった母も僕のことをずっと見てくれていると思うので、母にも笑顔を見せられるようにしたいです。これからは、たくさんの笑顔にあふれる人生を作り上げていきたいです。



国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 誰も傷つかない世界

福井県 南越前町立南条中学校 3年

**伊藤 星音**

差別。この世界は差別であふれています。人種、国籍、年齢、性別など種類は様々です。その中でも私が声を大にして言いたいことは、発達障害による差別です。

私は小学校中学年の頃まで、特別支援学級へ通っている人に対し、嫌悪感を抱いていました。どうしてこんなことができないのか、どうして教室に来ないのか、そんなひどいことを考えていました。しかし、ある人物により、そんなことは考えなくなりました。ある人物とは、弟です。

弟は昔からお遊戯が苦手でした。運動会のダンスはただ立っているだけ。一度保育所から逃げ出して家まで帰ってきたこともありました。そんな弟が自閉症だと知ったのは、小学校五年生の頃でした。自閉症とは、精神発達障害の一つで、強いこだわりを持ち、他の人とのコミュニケーションが苦手、ことばの発達に遅れが出るなどの特徴があります。弟は、私が小学校六年生の時に、一年生として特別支援学級へ入りました。何も恥じることはありません。しかし、自分の弟が特別支援学級へ通っている、という事実を目を背けたくくなりました。もちろん弟に罪はありません。その頃の私は弟までも差別していたのかもしれませんが。

弟の入学からしばらく経ったある日、弟の特別支援学級の友達に挨拶をされました。

「星音ちゃん、こんにちは。」

今まで関わってこなかった子と、弟を通して関わるとは思ってもみませんでした。初めてふれた弟以外の発達障害を持つ子。その子は、とてもあたたかかったです。その日から、弟の友達に声をかけられるようになりました。

「星音ちゃん、弟くん頑張ってるよ。」

「星音ちゃん、今日は弟くん怒ってたよ。」

弟のことをたくさん教えてくれました。たくさんの人たちとふれあって気がつきました。

「どうして、こんなに優しい人たちを差別していたんだ。」

「差別して何になるのさ。」

と。確かに、容姿は少し違うかもしれませんが。ことばも伝わりにくいかもかもしれません。でも、同じ人間ではありませんか。同じ人間として生を受け、同じ世界に生まれた仲間ではありませんか。ただ少し他の人と違うだけで、仲間を捨てるのですか。それは違う。世界は自分を基準にして成り立っているのではないのです。誰だって誰かと何かが違います。全く同じ人がいるわけではないのです。

私たちには皆、得意なこと苦手なこと、長所短所があります。それは「こんぺいとう」のようにでこぼこしていて、それぞれに良さがあります。形や味が魅力のこんぺいとうのように、私たちもそれぞれに違うから魅力があるのです。味があるのです。

弟の友達からのたった一つの挨拶で、私の考え方は大きく変わりました。だから、今、発達障害に対し、嫌悪感を抱いている人、差別している人もよく考えてほしいです。誰だって何か違っているということ。その中で、たまたま発達障害を持って生まれてきただけだということ。そして、彼らはとてもあたたかいということ。これが本当に大事なことです。私もふれるまで気がつかなかったあたたかさ。そのあたたかさを、ぜひ知ってほしいです。

また、家族に発達障害がある人がいる皆さんにも伝えたいことがあります。私は弟のことを誇りに思っています。だから皆さんも彼らのことを誇りに思えるようになってほしいです。

そして、この先も必ず問題になるであろう差別。ずっとなくならないかもしれませんが。でも、誰かに私のメッセージが届いたら、少しでも考えてほしいです。誰も傷つかない世界にするために。

### この作品を書いたきっかけはなんですか？

この作品を書いたきっかけは、中学2年生のときに特別支援学校に行ったときのことで。同級生が、特別支援学校の人たちをばかにするようなどころがあったことが私には許せませんでした。しかし私は勇気が出ず、同級生たちに直接自分の考えを言うことができませんでした。だから今回、少しでも私の考えや気持ちが伝わればいいと思い、この作品を書きました。





国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 前向きに生きる

愛知県 豊田市立井郷中学校 3年

平松 真依

「あなたのお母さんはどんな人ですか。」

と聞かれたら、私はすぐ

「とにかく明るい人です。」

と、答えます。

母はとても好奇心が旺盛で行動力があり、どんなことにも積極的に挑戦しています。できるか、できないかを考える前に、まず全力を尽くしてみよう、という人です。私はこんな母が大好きです。私の自慢の母です。

しかし、母にも一つだけ、できないことがあります。それは、音楽を楽しむことです。そして、私の声を聞くことです。私の両親は二人とも、耳に障害があり、何も聞こえません。生まれてから、ずっと音のない生活をしてきました。でも私は、両親に愛情いっぱい、何も不自由することなく育てられたので、これが当たり前の普通の生活だと思っていました。

しかし、小学校に入学してからは、両親の障害を隠すようになりました。手話をすることも恥ずかしくなりました。「どうして、真依のお父さんやお母さんは、耳が聞こえないの。」

友だちは、私の両親の障害を知ると、みんなこの質問をしてきたのです。私はそれまで、なぜ聞こえないのか、なんて考えたことがありませんでした。私の両親は、音のない世界かもしれないけれど、母は、家事は何でもできるし、ご飯もとてもおいしいです。父も、一生懸命仕事をしています。みんなのお父さんやお母さんと少しも変わらないのに、私は何も答えることができず、両親のことを聞かれるのが、とても嫌でした。

私はだんだん友達を避けるようになり、暗い性格になっていきました。学校が楽しくなく、学校でも家でも、あまり話さなくなりました。母にも、学校からの手紙や連絡を伝えるだけで、ほとんど話しませんでした。

そんなある日、私は母とけんかをして、母にひどいことを言ってしまいました。

「どうして、お父さんとお母さんは耳が聞こえないの。お母さんが聞こえないから、私は友達を家に呼べないよ。」

母は、とても傷ついたと思います。とても悲しそう顔でした。でも、その時の、母の言葉を、私は今でも忘れません。「どうして真依は耳が聞こえるの。お母さんは、たまたま耳が聞こえないだけ。もしかしたら、あなたも、その子も、耳が聞こえなくて生まれてきたかもしれない。たまたま耳が聞こえて生まれてきただけだよ。何も違いはないんだよ。」

母が、必死に声を絞り出すようにして、私に伝えようとした言葉。その言葉の意味を、今なら理解できます。母は障害を特別なこととは、思っていないのです。もちろん不便なことはいっぱいあるけれど、母にとっては音のない世界が普通の生活なのです。しかし、そう言い切る母の言葉には、私の想像をはるかに超える母の努力や苦労があることに、気づかされました。

そのことがきっかけで、私はもっと母とわかり合うために、手話を真剣に学ぶことにしました。障害のある人もない人も一緒に手話を学ぶ中で、私はたくさんの人と出会い、たくさんの人話を聞き、だんだん視野も広がり、手話で話すことに喜びを感じるようになりました。そして障害を乗り越え、常に前向きに一生懸命生きている人たちの姿に、とても勇気をもらいました。

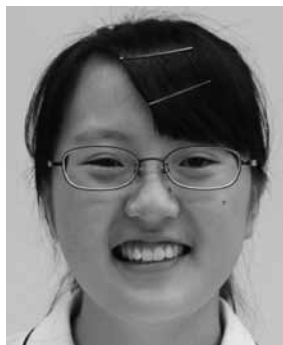
母は、仕事でも、ジュニアクラブや父母の会の役員でも、障害を隠さず、積極的にみんなの中に入って活動しています。もちろん、周囲の人たちの温かい理解や協力のおかげです。私も今年初めて、評議員として活動しています。私にとっては大きな挑戦です。

人は誰でも苦手なこと、できないことがあります。身体のハンデに悩むこともあります。でも、そのことだけをネガティブに考えていると、明るい未来は見えてきません。母のように自分の可能性を信じて、一歩踏み出し、挑戦してみることが大切だと思います。

私も今年、義務教育を修了し、新たな旅立ちをしなければなりません。まだ見ぬ世界に不安はありますが、大切なことを教えてくれた母の言葉を胸に、未来へ進んでいきたいと思っています。

### この作品を通して、これからどんな人生を作り上げて行きたいですか？

作文の題名「前向きに生きる」のように生きていきたいなと思います。これからの人生、たくさんの壁や大変なことがあると思います。でも、母のように、自分の可能性を信じて、前向きに生きていきたいです。また、同じような悩みや、苦勞を抱えている人はいると思います。なので、今度は、私がたくさんの人に勇気づけられたように、困っていた人がいたら、手を差し伸べられるような人になりたいです。



国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 私に見える世界

岐阜県 学校法人西濃学園西濃学園中学校 3年

池田 翠

赤や黄色の色鮮やかな花々。雲ひとつない青空。この言葉を聞いてみなさんはどんなことを想像しますか。彩りに溢れた美しい景色が浮かびませんか。でも、もしその景色から色が無くなってしまったら、あなたはそんな世界、想像することができますか。

私は幼い頃から周りに合わせて動くことが苦手でした。みんなが鞆に荷物を片付けている横で、まだ次の日の予定を書いているなんてことはよくあることで、気付けばいつも置いてけぼりでした。

遅れた時間を取り戻そうと急いで片付けて帰ったある日、自宅で鞆を開けると隣の子の教科書が入っていることに気付いたのです。『しまったあ。どうしよう。』気が動転しましたが、次の日謝って返しました。しかし私の生活テンポは相変わらずで、こんな失敗を何度も繰り返してしまいました。

「いつも間違えてゴメン。」

《また？ワザとじゃない？もう、人の物を盗っていく子だってみんなにも言うから。》

「お願い、そんなこと言わないで…。」

《じゃあ、私の言うこと何でも聞いて！》

要求は荷物持ちから始まり、掃除場所を一人でやらされたり宿題を押し付けられたり学年が上がるにつれエスカレーターしていきました。《私の物を盗れたんだから、あの子の物も盗れるでしょ。》そんな言葉で強く脅されたこともありました。『もう嫌だ！』叫びたくなることもありましたが仕返しされる恐怖が頭をよぎりました。苦しいだけの日々を過ごすうちに『何も考えず言いなりになろう…。』そう思うようになっていました。楽しい、面白い、辛い、苦しい、私を彩っていた一つ一つの感情が、一つ一つの色が無くなっていき、私に見える世界は白と黒だけになってしまいました。でも傷つけられる痛みや恐怖に耐えるよりはずっとマシでした。

その後だんだん朝起きれなくなり、登校を渋るようになって、とうとう学校へ行けなくなってしまいました。顔を伺い怯えた様子で生活する私を心配した母は環境を変えることを提案し、中学二年の九月、地元、神奈川県を離れ不登校で悩む生徒たちが通う全寮制の中学校へ転校しました。

それから半年が経った頃、生徒会から早朝のボランティア清掃のお知らせがありました。一人の生徒がいくつかの場所を担当していることや女子トイレでさえ男子生徒にやってもらっていることを知り『せめてトイレくらいは私がやるう。』そう思い参加してみることにしました。

始めた頃は寒いし眠いしもうやめようと思う日々が続きましたが、毎日続けるうちにその思いは変わっていきました。それは廊下、ゴミ箱、トイレ、階段がいつも当たり前のように綺麗だったのは、自主的にやっていた人たちのおかげだと気付いたからです。

またすれ違う先生や一緒に参加している仲間たちから掛けてもらった「おはよう！いつもありがとうね！」「お疲れ様。」というあたたかくて優しい言葉は、トイレが綺麗になったかどうかではなく、自主的に取り組んだ私の気持ちを認めてくれる、そんな人たちがいるのだということを教えてくれました。

刺さるような冷たい言葉で命令され否定され続けた私に見えた白と黒の世界。その中で聞こえたあたたかくて優しい言葉。今、私の中には様々な色が、様々な感情が溢れ出そうとしています。

今の私に見える世界。それはこの主張を聞いている皆さんと同じ『未来へ拓かれた世界』です。私はやっとスタートラインに立てました。もし、あなたも色のない世界で彷徨うのなら、私は伝えたい。必ずあなたに寄り添ってくれる仲間がいることを。じっと待つだけでなく関わるきっかけを見つけることが大切だということ。

私はまだ顔を伺って伝えることをためらうときもありますが、私に見える世界がもっと拓かれ、もっと色鮮やかになるように自分の気持ちと素直に向き合って生きていきます。

### この作品を通して、これからどんな人生を作り上げて行きたいですか？

少年の主張に取り組む以前の私は、自分の気持ちを抑え込み、相手に合わせては顔をうかがうような毎日を過ごしていました。この大会に参加し過去から現在に至るまでの出来事を何度も何度も振り返り、そのときの思いや考えをまとめることを通して、仲間との関わりが今の私の礎になっていることやこれから歩んでいきたいと思う路を見つけることができました。寄り添ってくれた仲間感謝しながら、もう二度と色を見失わないように、もっと色鮮やかな世界で生きていけるように、私は自分の気持ちを素直に表現していきたいです。



国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 私と本物の夢

滋賀県 近江八幡市立安土中学校 3年

**奥田 実里**

「だから、絶対になる！」

私は発達障害をもって生まれました。診断を受けたのは、小学校二年生のときでした。小さいころから他の人よりもできないことや苦手なことが多く、生きにくさも感じていました。例えば、今は少しずつできるようになっていますが、自分から人に話しかけることや、自分の気持ちやしたいことを声に出して伝えることが苦手でした。苦手なことに直面すると、動けなくなりました。周りの人は困っている私をいつも助けてくれました。気がつけば、数え切れないほど多くの人に助けられていました。しかし当然、全ての人がそうというわけではありませんでした。周りの人たちの中には、私や他の障がいをもつ人の言動を笑ったり、陰口を言う人もいます。私は自分が障がいを持って生まれたことよりも、障がいがある人を馬鹿にする人がいることが、何百倍も何千倍も悲しいです。

そうして悩んでいた私に手を差し伸べてくれた人がいます。スクールカウンセラーの先生です。私が相談室に行くと、いつも優しい笑顔と声で迎えてくれました。カウンセラーの先生とは、悩みの相談以外にも、小さいころの話や、当時の夢の話をしました。カウンセラーの先生と話していると、気持ちが軽くなって、自分も生きていてもいいんだと思うことができました。学年が上がると、学校の先生とうまくいけなくて、一人で悩んでいました。誰にも相談せずに一人で悩みをかかえ込むと、解決するどころか、気持ちも考えも悪い方へばかりに進み、ひどい時では死にたいとまで思うようになっていました。そんなときでも相談室でカウンセラーの先生と話していると、自分の悩んでいることがどんなに小さなことだったかやそしてそんなことで死にたいなんて考えた自分の愚かさに気づかされ、また「生きつづけよう」と思えました。カウンセラーの先生との出会いがなければ、今の私はいなかったと思います。先生は私の「第二の母」だと思っています。

夢を見つけました。スクールカウンセラーになることです。私を救ってくれた先生のように、悩みをかかえる人を自分が救うことです。周りの人に助けられてばかりの私は、いつかそれを返さないといけなから、「人を助ける人」にならないといけません。この夢も先生からもらいました。私の今までの夢は自分がやりたいだけの自己満足なものばかりで、人の役に立つことなんて全く考えていませんでしたが、今の夢は人のためにも社会のためにも働ける、私の「理想の自分」になれる、「本物の夢」だと思います。本物の夢を見つけると、「生きる意味」も、「努力をする意味」も見つかって、辛いことを乗り越える力になりました。投げ出したいことが目の前に現れると、同時に「夢を諦めるか諦めずに努力をするか」の二択も現れます。中途半端な夢なら、選択をどれだけ迷っても、最後には諦めるを選んでいましたが、本物の夢を見つけてからは、絶対に諦めたくないという気持ちが生まれ、立ち上がることができました。本物の夢を見つけてることが本当に素晴らしいことだと、心の底から実感しています。

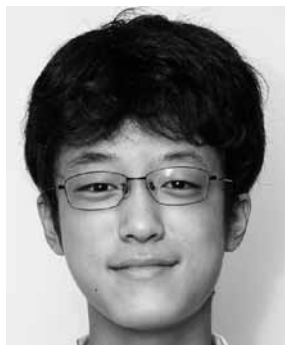
私も先生のように、誰かに夢を与えたり、誰かから「第二の母」と思われたり、いつでも優しい笑顔で、いつのまにか相手も笑顔にしている、そんな人間になりたいです。一人でも多くの人が笑顔で生きられるようになる社会を作ることに関心したい、そう思っています。

「だから、絶対になる！」

### この作品を通して、これからどんな人生を作り上げて行きたいですか？

1年生、2年生と作文を書き終えることができず、3年生の今年こそは書き終えたいという思いを持ってこの作文を書きました。人前で発表することが苦手で、作文を発表するたびにとても緊張しますが、これを乗り越える力をまわりのみんなに分けてもらいました。私はこの作文で、これまで私を支えてくれた先生や友達に、感謝の気持ちを伝えることができたとおもっています。夢をかなえて社会に貢献できる人になりたいです。





国立青少年教育振興機構努力賞受賞

# Stand By !

大阪府 茨木市立西陵中学校 3年

**森本 健太**

皆さんは、いじめに関わったことがありますか。こう言われて「ない」と答える人もいると思いますが、本当にそうなのでしょうか。

いじめに関わる人には、四つのタイプがあるとされています。一つ目は、いじめをされて、心や体を傷つけられる被害者。二つ目は、被害者を傷つける加害者。三つ目は、その様子を見てはやしたてる観衆。

そして四つ目は、その様子をただ何もせずに見ているだけの、傍観者です。

僕は、傍観者でした。

不安と期待を抱きながら始まった新しいクラス。しかし、僕の心は不安に包まれていきました。なぜなら、そこでは何か他と変わっていたり、気に入らないことがあったりすれば悪口を言う「言葉のいじめ」がされていたからです。

僕はとてもそれが怖かったです。いじめのターゲットにはなりたくない。その一心でいじめられにくい自分を作りました。でしゃばりすぎず、他の人と積極的に話すことで、いじめのターゲットになることを防ぎました。

そんなある日、僕はこう話しかけられました。

「なあ、あの子って顔がキモくて臭くてマジでウザいよなあ。」

僕はとても驚きました。なぜこんなにも笑顔で人を傷つける悪口が言えるのか。なぜこんなに息を吐くように人の悪口を言えるのか。

しかし僕は「あー、ね。」と曖昧な返事をするしかできませんでした。いけないことだと分かっている反論できませんでした。

僕はこの瞬間、傍観者となり、いじめに関わったのです。

観衆と他の傍観者、そして僕は、いじめを止められませんでした。いじめはいけないことで、自分たちのすべきことはやめるように言うか、先生に相談してやめるように言うてもらわなければならないはずでした。それでもいじめを止められなかったのには、いじめをする加害者とそれを見ている傍観者と観衆との間に「見えない力関係」があったからです。

この「見えない力関係」は最近「スクールカースト」と呼ばれています。僕はいじめとこのスクールカーストには深いつながりがあると思います。なぜなら、どちらも自分よりも地位の低い人を作り出すことで自分の立場を肯定しようとしているだけだからです。

しかし、このままでは被害者が傷つくばかりです。

そんなときに、傍観者は、僕は、どのようにして被害者を守ればよいのでしょうか。そのヒントを僕にくれたのは、英語の参考書でした。「傍観する」を英語で言うと Stand By になるそうです。この Stand By の他の意味に「味方する」「そばにいる」という意味があるそうです。僕はこの二語の英語にここまで深い意味があるなんて、とても驚きました。

このように傍観者は Stand By することが大切だと思います。

Stand By! 被害者の味方をする。

Stand By! 被害者の心のそばにいてあげる。無理に優しい言葉をかけなくても大丈夫です。テレビのこと、勉強のこと、部活のこと。何でもいいので話しかけられるだけで安心できると思います。その少しの勇気で被害者の心、体を守ることができるのです。

もし加害者と面と向かってやめようよと言えないならば、加害者の見ていないところでそっと、これらの Stand By をしてあげてください。

今、いじめを見ている人も、いじめをされている人も負けないでください。

I will Stand By you.

僕はあなたの味方です。

## この作品を書いたきっかけはなんですか？

いじめの認知件数は年々増加しています。つまり、心や体を傷つけられる人も増加しており、中には自ら命を絶つ場合もあります。いじめへの関わり方として一番多いのが「傍観者」だと思います。いじめを無くすためには、「傍観者」の動きが大切です。そこに注目することで、より具体的に簡単ないじめへの対策を考えました。これを発信して、多くの人が実行して1人でも多くのいじめの被害者を救いたいという想いから、この作品を書きました。





国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 私は日本人！？

兵庫県 新温泉町立夢が丘中学校 3年

稲垣 沙耶香

「私は何人ですか」

今年の春、私が担任の先生にした質問です。

私は、日本人の父とフィリピン人の母をもつハーフです。日本で生まれ育った私ですが当然フィリピンのしきたりや言葉、文化も受け継いでいて、フィリピンには友達や大切な家族もいます。私は母の国、フィリピンが大好きです。でも、私は自分のことを日本人だと思っています。ただ、人は私のことをどう思っているのでしょうか。私にはいまだに理解できない小学校の時の体験があるのです。

小学校1年生の1学期、掃除をしているときでした。「お前ってハーフだろ。」「外人は帰れ。」といきなり上級生たちに声を投げつけられました。私は突然のことで訳が分からずただ立ち止まっていました。その後、上級生たちはニヤニヤしながら立ちさり、呆然とした私だけが取り残されました。たったこれだけのことかと思えるかもしれません。でもこんな幼いころの思い出を、私は今でも鮮明に覚えているのです。そして、思い出すたびに、胸が苦しくなるのです。

また、小学校3年生の時、妹と私が歩いていると、畑仕事をしていたおじさんがふいに「お前ら、外国人か？」と尋ねてきました。妹は不安げな目をして凍り付き、私も頭が真っ白になりました。その後、家に帰って、家族に見つからないように布団に隠れて、一人で泣きました。おじさんは悪意があったわけではなく、軽い気持ちで尋ねたのでしょう。けれど、その一言で私と妹の心は深く傷ついたのです。

私は中学生となりハーフのいじめに関する人権問題を調べた中で、目に焼きついて離れない言葉がありました。「ばい菌、外人菌が来たぞ、外人は外国へ帰れ。」これは、ハーフだからちょっとからかってみたで、すませられるレベルではありません。第一、一体どこへ帰れというのでしょうか。ハーフであっても日本で生まれ育った私に父は「お前は私の子どもだから日本人だ。」と言います。両親が日本人の子どもたちと、いったい何が違うのでしょうか。

そんな私は国語の授業で「握手」という作品の、ある言葉に出会いました。「日本人とかカナダ人とかアメリカ人のようなものがあると信じてはなりません。一人一人の人間がいる、それだけのことですから。」というものです。その人を決めるのは、国でも、肌の色でも、目や髪の色でもない。この世には誰一人として同じ人間は存在せず、一人一人が尊重されるべき存在なのだ。それぞれ違った文化を持つ者どうしでも、お互いに認め合って、尊重して、助け合って生きていくことが大切なんだと思いました。

現在、日本にはたくさんの外国人観光客が訪れるようになり、また日本で生活する外国人も増えています。日本における国際交流は押し寄せる波のように進んでいます。でも、それに対応する心の準備が今の社会にはできていないのでしょうか。たとえ興味本位の軽い気持ちの行動であっても、私のように傷つく人間がいます。そして、心の傷はなかなか癒えることがありません。「私は何人なんだろう。」と自問自答しなくてもいい社会、一人が一人として尊重される世の中、私はそんな社会を目指す一人として生きていこうと思います。

### この作品を書いたきっかけはなんですか？

今年の5月、元号が平成から令和になることを受けて、私の中学校では、3年生全員が総合的な学習の時間に「新しい時代を考える」というテーマで意見文を書くことになりました。世の中がどう変わるか具体的には考えられませんでした。平和で差別のない社会であってほしいと思いました。そして、今こそ幼いころから抱えてきた私の疑問に対して、自分自身も真正面に向き合い、たくさんの人にも考えてもらいたいと考えてこの文章にまとめました。



国立青少年教育振興機構努力賞受賞

# 光

奈良県 香芝市立香芝東中学校 3年

**内田 愛莉**

出来事をよい経験として捉えるか、過去として割り切るか、それだけで自分への影響が大きく変わると私は考えます。私は八年前幼稚園の年長のとき東日本大震災を経験しました。その出来事をどう捉えたら正解か分からず、ずっと目をそらし続けてきました。当時私の住んでいた場所は福島県南相馬市、震度六の地震と津波、放射線の影響で人が住めない状態になってしまいました。避難生活は、「食べたいものを食べられない」「常に共同生活」「物を買えない」「携帯が使えない」「病院が無い」などとても過酷な生活でした。大人は子供に言いました。「大丈夫だからね。」と。警報が鳴る中正直説得力はありませんでした。でも私達子供が頼れるのはお母さんただ一人だったので。地震が起きる一秒前までと違いすぎる現実、一瞬で変わってしまった世界に私は絶望しました。避難生活の後、県外に引っ越し家族以外の全ての交友関係を失いました。この出来事で私の友達はリセットされてしまいました。いつも一緒にいて、小学校も一緒のはずだった友達は、さよならも言えずに一瞬で全国に散らばりました。「また明日ね。」って言ったはずなのに。あれから八年が経ちました。きっともう会うことはないでしょう。友達を作り直すのはとても大変で、何度もセーブを行わずリセットされるゲームのように時間だけが過ぎていきました。できることなら消したい過去です。この出来事さえ無ければ、もっと違った人生を送っていたのかもしれないから。

でも中学生になって考えが変わってきたのです。学校の授業で「自然災害」について考える機会がありました。その時友人は言っていました。「結局はなんとかなる。」「さすがに死ぬことはないでしょ。」「起きてみなきゃわかんない。」と。私にはその言葉がとても軽い考えに聞こえたのです。「起きてからでは遅いこと。」「人間が自然災害を敵にすれば簡単に命を落とすこと。」「しっかり、深く考えてほしい。」そう心から思ったのです。その時、「東日本大震災」が私の考えに大きく影響を与えていることによろやく気づいたので。この出来事はいらぬ過去ではなく必要な経験だったのではないかと。そこから学べることを、生かせることを一つずつ考えていくことが大切なのです。過去を経験という言葉に置き換えることでその意味が大きく変わります。だから私はこの出来事を経験として受け入れ、そこから初めて見えた光でこの今を照らしていこうと思います。「放射線を受けた福島県民」その肩書きが未来のための経験へと変わりました。私はこの経験を人生の教訓の一つとして心の奥にしまえます。そしていつか役に立つ時が来れば引き出しから取り出そうと思います。私と同じようにどうしようもない出来事を経験した人に伝えたい。その経験は決して意味の無いものではない。そしてあなたの心がナイフに刺され続ける必要も無いということ。無理に割り切らなくてもいいのです。誰かが経験しなければ真実はわかりません。もし深い傷を負ってもその傷が癒えるときがきたら自分なりに、少しずつ前を向く、それだけでいい。その経験はきっと未来で光となり、心の闇に明るさをくれる。そう信じて今日も私は前を向いて生きています。

## この作品を書いたきっかけはなんですか？

2017年、私の先輩が少年の主張を書いて県大会に出場しました。学校の体育館でその主張を聞き、自分のことを理解してどう今を生活しているのか堂々と全校生徒に発表していた先輩にとっても心を動かされ、今回この主張を書くことを決めました。先輩のように自分と向き合い、この少年の主張の経験もまた、どこかで生かせたらいいなと思います。



国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 「壁」を超えよう

和歌山県 湯浅町立湯浅中学校 3年

**宮本 崇行**

「ほら、音がなるだろう」。

そう言って、コーチは足で壁を蹴ってみせる。ゴンツと、大きな音が鳴る。その足は、「義足」だった。そんなコーチに、僕は、一つの「生き方」を学んだのだ――。

二年生の秋。僕は、先輩の知り合いの人に、卓球を教えてもらうために会いに行った。その人は、中学生や高校生に親身になって卓球を教えてくれる、熱いコーチだった。先輩もその人に教えてもらっていたので、僕も行くことにしたのだ。

ある日のこと。僕は、コーチの右足が義足であることを知った。コーチは三歳の頃、交通事故に遭った。その時、右足を激しく打ちつけ、足の切断を余儀なくされたそうだ。

信じられなかった。その時のショックの大きさは、言葉では表現できないと思う。そんなに小さい頃から足がないなんて。しかし、その後、コーチがこんなことを話してくれた。

コーチは中学生の頃、高跳びで百六十五センチのバーを跳んだというのだ。僕でも百二十センチが限界だというのに、片足が義足という不利な状態で、どうすればそんなに高く跳べるのか、不思議だった。でも、コーチが障がいと言いつけず、堂々と跳び切った様子が、僕にも伝わってきたのだ。

もし、僕の足が義足になったらと思うと、先が暗くなったような感覚がする。しかし、コーチが下を向くことはなかった。コーチの挑戦は、高跳びだけにとどまらない。若い頃は工事現場で働いていたし、障がい者国体の卓球競技で全国二位を獲得したこともある。その功績は、僕には到底真似できない。コーチは確かに、自分のしたいことをやり遂げたのである。

しかし、その反面、まるでコーチの夢を打ち消してしまうような出来事もあったそうだ。足の障がいを理由に、小学校の運動会に出場させてもらえなかったというのだ。自分も走れるのに、自分も跳べるのに、自分だけ出られない。そんな悲しさを胸に、ずっと観客席から運動会を眺めていたという。また、遠足に行く時でも、自分は歩きたいのに、先生の車に乗せられ、友達と話すこともなく移動していたそうだ。当時は、それが障がい者に対する配慮だったのだろう。しかし、コーチの思いと先生の考えは、食い違っていたのだ。

足以外にも様々な障がいがあり、人によって程度も違うため、障がいは非常に幅が広い。そんな障がい者にも、したいことや目標がある。ただ、障がい者の中には、自分一人でそれを達成できない人も、数多くいる。その後押しや手助けをするのが、僕達の努めなのだと思う。しかし、コーチの場合、周りの配慮のために、「自分でしたい」という自身の目標を達成できなかったのだ。この配慮が決して良い方法だったとはいえない、というのが、僕の考えである。

誰にでも、得意なこと、不得意なことがある。僕は絵を描くのが苦手だ。短距離走も少し苦手だ。苦手なことなんて、誰にでもあるだろう。義足のコーチにとっての苦手なこと、それは、歩くことや、階段を上り下りすることだ。しかし、内容は僕と違って、コーチにとってそれは「苦手なこと」なのだ。そう考えたとき、みなさんの障がいに対するイメージも、少しは変わるのではないだろうか。

苦手なことがあっても、人がもつ個性は変わらない。したいことは、したい。なりたいものには、なりたい。僕自身も、コーチのように、目の前に立ちはだかる壁と正面から向き合い、それを超えていくという「気概」、そして、人としての「芯」をもっていたいと思う。また、障がいがあっても、それが自身の「個性」だと障がいのある人自身が思える社会づくりが大切だと思う。僕も、そんな社会を創る一員でありたい。

### この作品を通して、これからどんな人生を作り上げて行きたいですか？

最近、日本でも世界でも、問題視されていることがたくさんあります。今回、僕が作品に書いた「障がい者の問題」もその一つです。しかし、これらの問題を他人事として見てはいけないということを、この作品を通して伝えていきたいと考えています。国際的な問題、日本が抱える問題、また、僕たちの身近にある些細な問題を「自分の問題」として受け止め、どうすれば解決するか、自分ができることは何か、それらのことをじっくり考えられる人でありたいと強く思います。



国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## あなたの勇気が誰かを救う

鳥取県 米子市立福米中学校 3年

**石原 晴花**

「こっちこんで。」始まりは仲良くしていたはずの子のそんな一言でした。

次の日から、クラスメイトに無視されるようになりました。すぐに、元に戻るだろう。そう思っていました。いやがらせはエスカレートしていく一方でした。大声で言われる悪口、勝手につくられたひどい噂。しまいには、指を窓ではさめました。

もう涙も出ませんでした。私は限界でした。「明日は、学校に行かなくても良いかな。」何度も、何度もそう思いましたが、一日休むと二度と行けなくなる気がして、毎日通い続けました。

しばらくすると、私へのいやがらせはピタリと止まりました。「これで、嫌な思いをせんですむんだ。」しかし、それは、ただターゲットが変わっただけでした。

しだいに私も、いじめグループが言う悪口を何も感じず、黙って聞くようになりました。ただ傍で観ているだけの「傍観者」その人たちもいじめているも同然だと、分かっていたはずなのに。

ある日、ふと我にかえり、いじめの恐ろしさを知っているにも関わらず、何もしなかった自分を恥じました。「いじめとる本人が、自分からやめるのは難しい。いじめられとる本人が、助けを求めることも難しいかもしれん。今、いじめを止めることができるのは、傍観者である私たちしかおらん。」そして、これ以上、いじめの加害者、被害者を増やさないためにも、次の悪口は絶対に止めると誓いました。

「あの人、むかつくけん嫌い。」私が決心した直後でした。いざ止めようとする、嫌なことばかり思い出し、なかなか言葉が出ませんでした。でも、「今言わんと、もう勇気が出んかもしれん。」そう強く思い、言いました。

「そうかな。私、けっこう話すよ。」

悪口を言った人が、何かを言おうとしましたが、他にも悪口を止める声が上がったため、話題が変わりました。他の人にもいじめがなくなってほしいという思いがあったのかもしれない。この日を境にいじめや悪口は減っていきました。

「傍観者にならない」これは、福米中学校で「誰もが安心して楽しめる学校」を築くために大切にしている、四本柱の一つです。みなさんも「いじめを見て見ぬふりをするのはやめよう」などをよく耳にすると思います。

しかし、みなさんの中に、本当にこのことを意識している人はどれくらいいますか。言葉だけを聞いて、分かったつもりになっていませんか。本当に行動できますか。

最後に、今、傍観者である人に伝えたいことがあります。

いじめは加害者には大きな十字架を、被害者には大きな傷を残します。加害者の、いじめた人の幸せな時間を奪った罪は一生消えません。たとえ、それを忘れても、他の人からの「いじめっ子」というレッテルは変わりません。そして、被害者は自分が何をされて、どう思ったのか。それを忘れることはありません。いじめに耐えきれず、自ら命を絶ってしまう人もいられるかもしれない。

そんな事態を防げるのは、傍観者であるあなたしかいません。

「いじめを止めたい。」「いじめなんてなくなれば良い。」少しでもそう思う気持ちがあるのなら、ぜひ行動にうつしてください。あなたの勇気で、「生きるのがつらい。」「もう死にたい。」そう思っている人を救えるかもしれません。

あなたの勇気で未来は変わります。それでも、まだあなたは、ただ傍から観ているだけの「傍観者」でいますか。

### この作品を書いたきっかけはなんですか？

私がこの作品を書いた大きなきっかけは、生徒会執行部に入ったことでした。「心から安心して誰もが楽しめる学校」を築くための、福米中の四本柱を深く考えたとき、そのうちの一つである、「傍観者にならない」に強く心を揺さぶられました。なぜなら、私自身、傍観者になったことがあったからです。そのため、この主張を通して、一人でも多くの傍観者に私の経験を伝えたい。そして、いじめに苦しむ被害者を救い、人を傷つけている加害者を止めてもらいたいという思いで書きました。





国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 目には見えない大切なもの

岡山県 岡山県立倉敷天城中学校 2年

**堀野 桃花**

よかった、悪かった。人は最後にたどり着くこの2つの結果で物事をまとめてしまいがちです。私ももともとそう考えていました。今でもそう考えてしまうことが多くあります。

私は幼稚園の年長から小学6年生までピアノのコンクールに出ていました。もちろん、成功ばかりではなく失敗もたくさんありました。コンクールでは、6人の審査員の点数の平均が合格ラインに達しているかどうかで、合否が決まります。何時間も何日も何カ月も練習を重ね、本番に挑みます。それだけの時間をかけても、審査員はたった5分程度の演奏で点数をつけてしまいます。審査員には私がコンクールに出るまでの過程は分かりません。たった5分で決められる合否。それは本当に大切なものなのでしょうか。私は、小学生の私なりに疑問を抱いていました。

そんな時、私はノートルダム清心学園理事長を務めた渡辺和子さんが残したある言葉に出会いました。「学歴や職歴よりも大切なのは苦歴」苦歴とは苦労した歴史のことです。履歴書には、必ずとっていいほど学歴や職歴が要求されます。しかし、それよりもっと大切なのは最終的な学歴や職歴などの結果にたどり着くまでにどんなことがあったのかということ。どんな苦労をしてきたのかということです。この言葉に出会い、悔しいこと、苦しいこと、辛いこと、結果にたどり着くまでのそのすべての経験に意味があるのだと私は思えるようになりました。

小学1年生不合格。2年生合格。3年生不合格。4年生合格。このように結果を一言で表すのは簡単です。しかし、私がコンクールに出て学んだことは、合格、不合格という単純な結果ではありません。本番前の舞台裏。失敗したらどうしよう、今までたくさん練習してきたことがたった一音のミスで無駄になってしまう、そんなプレッシャーに押し潰されそうになりながら自分の出番を待ちます。そして、ステージに立ち大勢のお客さんを目の前にすると頭が真っ白になってしまうこともありました。それでも、自分の力で最後まで弾ききります。そうすることで身についた緊張、不安、プレッシャーに負けない力は良い結果も悪い結果も含めた7年間の経験によって身についたものです。学歴や職歴は他の人と同じものを書くことは可能でも、7年間の経験は他の人と同じものを書くことは不可能です。これは、文字に表すことのできない自分だけの価値あるものなのです。

私が7年間で学んだこと。それは結果の他に大切なものがあるということ。渡辺和子さんの言葉にもあるように結果にたどり着くまでにどれほど苦労を乗り越えたのか、それが何よりも大切なのだと気づくことができました。私はこれから、結果だけに目を向けるのではなく、そこにたどり着くまでの様々な出来事、自分だけの価値ある経験という人生の宝物を大切に、今日から一步、また一步と新たな経験を積み重ねていきたいと思います。

### この主張をどんな人に届けたいですか？

なんでも結果だけに目を向けてしまう人、結果がすべてだと考えている人に届けたいです。結果が悪ければいくら頑張っても意味がないと考えてしまう人が多くいると思います。しかし、結果にたどり着くまでに積み重ねてきた経験は他の人にはないその人だけの特別なものです。私の主張で、結果ではなく、結果にたどり着くまでの経験が何よりも大切なのだと気づいてもらえればいいなと思います。



国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 生きる意味

広島県 東広島市立西条中学校 3年

**西村 悠**

皆さんにも大切な人がいますね？もし、その大切な人の「人生の最後」が近づいてきたら、皆さんはその大切な人に何がしてあげられるでしょうか。

私は幸せなことに、ひいひいばあちゃんに会ったことがあります。100歳以上の天寿を全うした人でした。私が幼い頃、よくおばあちゃんの家に来て行ってもらいました。おばあちゃんの家に行くといつもお煎餅がたくさん入った缶が置いてあり、おばあちゃんは海苔で巻かれた醤油味の煎餅をくれました。私はその煎餅が大好きでした。私が何かでぐずっていると、決まっておばあちゃんは「おや、まあまあ。」

と言って、煎餅をくれました。おばあちゃんは編み物も得意で、時間さえあれば編み物をしていました。私の家にはジンベエやひざ掛など、おばあちゃんの編み物であふれていました。私はおばあちゃんはずっと笑顔で、ずっと編み物をして、ずっと元気である人だと思っていました。

しかし、私が小学1年生の時、突然、おばあちゃんは天国へ旅立ってしまいました。私はお別れを言うことさえできませんでした。私は、私が海苔巻き煎餅を食べている絵を描いて、棺の中に入れました。そしてしばらく、布団の中にもぐって泣きました。

お葬式の日から、私は「死」について考えるようになりました。死ぬのは怖いのだろうか、痛いのだろうか。死ぬ前はどんな気持ちになるのだろうか。私もおばあちゃんみたいに100歳以上まで長生きできるだろうか。明日、死んでしまったらどうしよう。

怖くなって母に相談しました。その時母はこんなことを言いました。「長生きって幸せか、不幸せか、どっちなんだろうね。ひいひいばあちゃんはね、もうあの年になるとお友達も減ってくるんよ。自分の娘のほうが病気で先に死んでしまったりね。それって辛いことだよね。」

私はそれを聞いて、ああ、そうだなと思いました。生きる事は「幸せ」「不幸せ」と隣り合わせなんだと思い、しばらく怖くて、同時にスッキリしませんでした。

そんなある日、私はネットで見たあるCMに心を奪われました。皆さんもきっと知っているでしょう。「たったひとつのたからもの」。小田和正さんの「言葉にできない」の歌声に合わせて、お父さんが6歳の幼さで亡くなった息子の秋雪君を懸命に抱きしめている写真が流れてきます。

心を引きつけられた私は、早速図書室で本を借りて読みました。秋雪君はダウン症という障害があり、また心臓の病気もあって、生まれてすぐに1年もいきられないだろうと告げられてしまいます。お母さんは頭の中が真っ白になったそうです。でも「ぼくは生きてるよ」と訴えてくる秋雪君の存在に、お母さんは秋雪君の命を守る戦いを始めたそうです。秋雪君は6年間生き、そして亡くなります。本にお母さんはこう書いています。「人の幸せは、命の長さではないのです。」この言葉で私は何年も抱えていた悩みが一気に解けたように感じました。人生の長さに関係なく、ひいひいばあちゃんも秋雪君も、与えられた日々を全力で生き、家族を助け家族に助けられ、周りの人に笑顔を与えました。もちろん誰だって長生きはしたい。でも、どれだけ生きたかではなく、どのように生きたか。それこそが生きる意味なのだと。

私は今、中学3年生です。日々死を意識して生きることは出来ませんが、いつか自分にも死が訪れるのだということのを忘れずに、与えられた時間を、夢を追って、全力で挑戦し充実した日々を送っていきます。そして、おばあちゃんや秋雪君のように家族を笑顔に出来るよう生きていきます。それこそが私の「生きる意味」なのです。

### この主張をどんな人に届けたいですか？

私は私と同世代の人に届けたいです。私の書いた文章は100歳以上の命と6歳という幼さの命を比較しています。6歳という短い命は私たちがみたら悲しいイメージをもちます。では100歳以上生きた人はどうでしょう。長く生きられて幸せと思うかもしれませんが100歳まで生きるのには相当の苦勞がいるのです。どちらの命も何もない毎日が続いたら、たとえ100歳以上生きた人も楽しくないと思います。日々死を意識するということは死を体験したことがないのだから難しいと思います。でも毎日に感謝して生きることはできます。私は同世代の人に毎日が充実した生き方をしてほしいです。

国立青少年教育振興機構努力賞受賞



## 自分が自分でいられる環境

山口県 萩市立萩東中学校 2年

後藤 遙香

「歌を歌うのが恥ずかしい。」

そんな言葉を聞いた生徒総会。それを聞いて、私はこのままではいけないと思いました。

これは、先日の生徒総会で、「校歌の声を大きくするには」という議題について全校で話し合っていた時のことです。

私の学校では、毎月の生徒集会で校歌を歌います。最近、全校生徒で歌うときの声が小さく、先生に声をかけていただいたり、生徒会役員を中心に何度もやり直しをしたりして、やっと声が出るという状態でした。そこに課題を感じた生徒から、今年の生徒総会の議題として提案されたのです。

そもそも校歌とは、その学校の象徴であり、在籍した生徒一人ひとりが、世代を超えてつながることのできる貴重な歌です。

校歌を歌うのは生徒なら当たり前のこと。そう思う人がいるかもしれませんが、私には「恥ずかしい」と思う人の気持ちがよく分かります。それは、私の心の中にも、体裁を取り繕い、本来の自分を隠してしまいたくなる気持ちが潜んでいるからです。

私は小学生の頃から、人の前に立つことが好きでした。ところが、そんな私のことをよく思っていない人がいました。その人たちからすると、ぼっちゃりで、自分よりかわいくなって、運動もできない。そんな私が学校で数人しか選ばれない生徒会役員に選ばれたことに納得いかない気持ちがあったのでしょうか。それを知り、私は何度も落ち込みました。逃げ出したい気持ちにもなりました。

それでも、私が今も人前に立つことを好きでいられるのは、仲間と共に挑戦する楽しさ、仲間と一つのことを達成する喜びを体験する機会に恵まれたからです。だからこそ、その楽しさや喜びを、「歌うのが恥ずかしい」と声を出せずにいる人たちにも感じてほしい。そう思いました。

学校とは、互いを認め合い、一人ひとりが成長していくところです。しかし、「声を出すこと」を怖がるというのは、「失敗したら恥ずかしい。」そんな「自分の声を出すこと」に不安をもって過ごしているということです。歌が上手ではなくても、私は誰もがのびのびと声を出すことができる学校にしていきたいと思います。「みんなと違う」と自分を隠してしまうのではなく、むしろ一人ひとりの違いを活かし合える。一人ひとりの声が響き合う校歌。一人ひとりの声で作られる学校。こうして、色とりどりのカラフルな「個性」が生まれてくるのではないのでしょうか。

私は、性格だけでなく、その人の境遇や思いも個性だと思います。現在、髪を伸ばし、メイクをしてモデルをしている男性がいます。その人は、中学生くらいの頃から、女の子の格好が好きだったそうです。しかし、同級生の男子に「気持ち悪い」と言われ、髪を切ったり、男らしくしたりして、周りの男子に追いつこうと必死だったそうです。そんな時に母親から言われた言葉。

「自分のやりたいことをやりなよ。」

この言葉で自分らしく生きていけるように変わることができたそうです。このエピソードから、自分を認めてくれる環境や仲間には、自分自身を変える力があることを感じました。

私は、生徒会役員という貴重な体験をしています。友達や家族、先生、生徒会役員の仲間が、成功すれば共に喜び、課題が見つければ、解決に向けて自分のことのように悩んでくれます。だからこそ私は、自分のできることを精一杯実践していくことができるのです。

今、私が心がけていきたいことは、「みんなで楽しむ」ということです。緊張していたり、怖がっていたりする人に無理に自分たちの思いを押しつけても、理解してはもらえません。楽しむ姿を見てもらい、私たちの学校を誰もが一緒に楽しめる空間にしていきたいのです。先日の生徒集会では、生徒会役員が手をつなぎ、校歌を楽しんで歌う姿を見てもらいました。その後の校歌斉唱では、これまでに聞いたことがないくらい、大きな歌声が体育館に響き渡りました。でも、これは第一歩です。安心して自分の声が出せる場所に。自分が自分でいられる場所に。誰もが自分を認め、互いの個性を活かせる環境づくりに、仲間と共に、私は挑戦していきます。

### この作品を書いたきっかけはなんですか？

校歌とは、その学校で過ごした、すべての人をつなげる貴重な歌です。生徒総会で校歌の音が小さいことが課題として挙げられ、話し合った際に「歌うことが恥ずかしい」という意見を聞いたことが学校を変えていきたいと思った出発点です。生徒会で知恵を出し合いそれを実践していく中で学校全体の雰囲気が変わりました。以前の私のように、自分の性格や容姿で悩み、自分自身から逃げ出したいようになっていた人、なかなか自分を出せない人は少なくなっていると思います。けれども、ありのままの自分を認めてくれる環境や周りの人と課題を乗り越えることを楽しむことで一人ひとりの個性を活かし合える集団が生まれるということを多くの人に伝えたいです。



国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 恩送り

徳島県 三好市立山城中学校 3年

正口 和

「恩送り」。皆さんはこの言葉をご存知ですか。江戸時代には当たり前に使われていた言葉だそうです。受けた恩を直接返すのではなく、他の誰か、周りの誰かに送る行為です。私は、道徳の授業でこのすてきな言葉に出会い、その後間もなくして、象徴的な出来事に出会いました。

昨年の豪雨災害。降り続く大雨にうんざりしていた七月六日の夜、裏山の土砂がごう音とともに覆い被さってきたのです。

「バキ、バキッ、パリン、ドンドン」

「何、雷、地震、……… ねえちゃあん。」

「早う、準備せえ。」

私たちを呼ぶ父の声を頼りに、暗がりの中、わずかな着替えとパンを持って飛び出した私は、言葉を失いました。幸い、難を逃れた車で家を出た時、すでに十時を回っていたでしょう。

避難所探しも容易ではありません。指定された場所への道は、土砂崩れや冠水で通れません。やっとの事で、たどり着いたもう一つの避難所は、すでに満員。家族五人が入る隙はありません。

「車で、寝るの？」

時間は午前零時を迎える頃です。

「こんな夜中に………」

ダメ元で電話したのがお寺さんです。

「一晩だけ」という頼みに快く応じてくださり、到着したときには、五人分の布団が用意されていました。翌日には、「作り過ぎちゃって、よかったら………」

と温かい食事までいただきました。大人五人分の料理が、そうそう残るはずもないことくらい、私にもわかります。気兼ねしないようにという、お気持ちが嬉しくて、お腹にも心にもしみ渡りました。

お寺さんだけではありません。仮住まい探しでは、市役所の皆さんが、休日返上で奔走して下さり、おかげで、月曜から無事登校できました。

あれから一年余り、まだ仮住まいです。多少の不便はありますが、安心して暮らしています。

この災害で失った物はたくさんあります。でも、人の温もり、優しさ、絶望しない心、たくさんいただきました。だから、いっぱい「ありがとうございます」を言いました。すると決まって、返ってきた言葉があります。

「こちらこそ、いつも正口さんにお世話になって………」

母に聞けば、父はこれまで地域のお世話や面倒な作業を進んでやってきたようです。だから、きっと巡り巡って、みんなが助けてくださるのでしょ。

「あっ『ありがとう』が繋がってる。これが、あの『恩送り』かもしれない。」

そう実感しました。そして、

「私も『恩送り』につながりたい」

そう思い、今年の職場体験で、迷わずお世話になった市役所を希望し、大雨の中でもゴミ収集を精一杯頑張りました。地域の方々、市役所の皆さんへの、ささやかな、ささやかな「恩送り」です。受けた恩に比べたら、ほんのわずかです。でも何分の一でも誰かに送れば、その誰かが他の誰かに送って、巡り巡って相手にお返しできる。そう思っています。

「恩送り」。みんなが幸せになる、このすてきな言葉と心を、私は、新しい時代へとつなげていきます。

### この作品を書いたきっかけはなんですか？

きっかけは二つあります。一つは、土砂崩れで被災した私たち家族に親切にしてくださり、心身共に救ってくださった地域の皆さんに感謝の思いを伝えたかったことです。もう一つは、「恩送り」というすてきな言葉・心・行為を多くの人に知ってもらいたいと思ったことです。受けた親切をそのままの形で直接本人にお返しすることは難しくても、自分の身近なところで、自分ができる範囲で助け合えたら、きっともっと温かい社会になると思います。私はこの作品を書きました。





国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 少しの勇気で広がる笑顔

香川県 観音寺市立中部中学校 3年

豊浦 愛理

「ヘルプマークって知ってる?」「聞いたことはあるけどわからん。」私は友人とのこの何気ない会話でヘルプマークの認知度、関心度が想像以上に低いことを知りました。ヘルプマークとは援助や配慮を必要としていることが外見からは分からない方々が、周囲の人に知らせることで援助を得やすくなるよう作成されたものです。そもそも私がこのマークを知ることができたのは兄のおかげでした。

私の兄はダウン症です。昨年五月から私たちの住んでいる香川県でもヘルプマークが配布されることになり、気がつけば兄が持ち歩くかばんにも、ヘルプマークがついていました。そこで初めてヘルプマークを知り、その意味や、マークを持ち歩いている方への対応などを少しずつ調べるようになりました。

ヘルプマークを知ってから、電車に乗って岡山県へ行く機会がありました。観音寺から岡山に近づくにつれて、だんだん乗客も増えてきた中、ヘルプマークをつけた一人の男性が乗車してきました。しかしそのとき、車内は満員で優先席もうまっていました。男性を案内されていた駅員の方はその状況を見て、手すりがあるドア付近に立っているようにおっしゃいました。その瞬間、ずっとその様子を見ていた一人の男性が席をゆずりました。私はヘルプマークの存在も意味も知っていたのに、自分が座っている席がドアから離れているからと自分の中で言い訳をして、気づいていないふりをしてしまいました。席をゆずるべきだというのは分かっていたし、調べたことで得た知識はもちろん、道徳の授業の中でも似たようなシチュエーションの話を学んだにも関わらず、ただ「恥ずかしい」という気持ちがあっただけで行動にうつすことができませんでした。

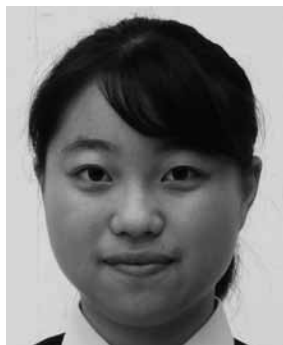
そのあとのヘルプマークをつけた男性の、「ありがとうございます。」という嬉しそうな笑顔と、ゆずった男性の照れくさそうな笑顔で、二人だけでなく、その周りの方々の雰囲気も柔らかく明るくなったように感じました。私はその状況を見て、優しい気持ちになったと同時に、自分のとった行動をとて後悔しました。もしあの日自分もゆずれていれば、あの笑顔の輪はもっと広がっていたかもしれない。もしあの日自分がゆずれていれば、困っている人を助けることは何も恥ずかしいことではないと、今ここで胸を張って言えただろう。あの日々の後悔もなかっただろう。今でもときどきあの日々の出来事を思い出すことがあります。

あの男性はヘルプマークを知っていたから助けることができたのかもしれませんが。しかしヘルプマークを知らない人も多くいます。一度後悔するような行動をしてしまった私がヘルプマークについて話しても、説得力がないかもしれません。しかし、あの日々の経験から得られたことは本当にたくさんあります。何よりも、後悔したからこそ、これからは自分も・・・と前向きに思えました。

私が、兄がいたことでヘルプマークを知って関心を持たないように、私のこの話が、まだヘルプマークを知らない方々の一つのきっかけになればと思います。ヘルプマークを持つ方も持っていない方も、全員が幸せになれる世の中をつくるのは難しいことです。しかし一人の行動で少しずつ変えることができると信じています。もう、あの日助けられていたら・・・あの日協力できていたら・・・という後悔はしたくありません。勇気がいるのはたった一瞬で、行動にうつすと笑顔が広がっていきます。これからは私自身がその笑顔の発信所になれるよう、少しの勇気を大切にしていきたいです。

### この作品を通して、これからどんな人生を作り上げて行きたいですか？

私はこの弁論を通して、誰か一人でも多くの人の笑顔の理由になれるような人生を作り上げていきたいです。弁論の中で具体的に示しているヘルプマークを持つ方はもちろん、どんな人にも笑うことというのはプラスになると思っています。私の経験のように笑顔で過ごすことができる方もいる反面、どうしてもつらい思いをしている方もいるはずで。笑顔は誰にでも伝わる一番の幸せの象徴だと思うので、私自身がその笑顔を作っていきたいです。



国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 片付けから始まる大きな一歩

高知県 南国市立香長中学校 3年

**永森 真尋**

最近、私の母はよく怒ります。なぜなら、私が片付けをしないからです。自分の棚や服、リビングの机で勉強した後の勉強道具を私は片付けることができません。でも、私は母に言いたい三つのことがあります。

一つ目は、まず母も片付けができないことです。特に母は服の片付けができません。洗濯された母の服は床に山積みになったことだってあります。なのに、タンスの前に五枚ぐらい私の服があるぐらいで怒るのはおかしいのではないのでしょうか。

二つ目は、私の棚についてです。確かに私の棚は汚いです。でも、私の棚が片付けられてないからといって、誰も困らないのではないのでしょうか。私の服が床にあったら、そこを通る人には迷惑でしょう。リビングの机に私の勉強道具があったら邪魔でしょう。しかし、私の棚を他の誰かが使うわけではないし、棚から物が落ちてくることもありません。それなのに、なぜ棚を片付けろというのか。私には分かりません。

そして三つ目は、私は忙しいので片付ける時間がないということです。学校が終わったら部活をして、帰ってきたら塾へ行き、十時半ごろになってから宿題をして疲れ切って寝てしまうのです。塾がない日、土日もしないといけないことがたくさんあります。だから、片付けなんてしている時間がないのです。

先日、また私が片付けをしていなかったので、母は寝ている私をたたき起こして怒りました。そんな母に、私はどうとう我慢できなくなり、母のお説教が長くなることは承知の上で、これらをすべて言ってしまいました。

すると母は、

「そうやって片付けんための言い訳を見つけようだけやろ！そんなんやき、特に最近のまひはずぼらながよ！」

と声をあげました。

「今の私が良い例やろ。まひも大人になってこんな片付けのできん人になりたいが？今は大丈夫かもしれんけど、外でそのだらしない性格がでて恥ずかしい思いをしたいが？」

私はその言葉に、

「いやだ。」

と答えることしかできませんでした。今は家の中でしかでていないこの片付けができない性格がいつか人前に出て、みんなに笑われているのを想像すると、お母さんがどうか言っている場合ではないということに、やっと中三になって気づかされました。

それから母は、

「あとねー、時間がないがじゃないが。まひが時間をつくれてないだけなが。」

とも言いました。私は、今までの生活を振り返りました。確かに私は、努力して片付けのための時間をつくろうとはしていませんでした。母の言う通り私は片付けをしないための言い訳をつくっているだけでした。

母は私に怒ることで、日常を心地よく生きるための大切なことを教えてくれていたのかもしれませんが。社会に出ても恥ずかしくない様に育ててくれていたのかもしれませんが。

私と同じように誰かから怒られても、したくないことから目をそむけるために言い訳を見つけている人は多いのではないのでしょうか。でも考えてみてください。私たちを怒ってくれた人は私たちのためを思い、そうやって怒ってくれているのではないのでしょうか。たとえめんどくさくてしたくなくても、彼らの言うことを素直に聞いてみませんか。それができた時、私たちは大きな一歩を踏み出すことになるでしょう。

次の日の朝、私は早く起きて片付けをし、その一歩を踏み出しました。

### この主張をどんな人に届けたいですか？

私はこの作品を書くことで、改めて母が怒ってくれていることのありがたさを実感しました。子どもに限らず大人でも、誰かから怒られると「だって～だから」などと言い訳を言っている人はきっと多いことでしょう。私も最初はそうだったように、素直に聞き入れることはとても難しいことです。しかし、その人たちはまだ、私たちを怒ってくれている人のありがたさを知らないのかもしれませんが。そんな人たちにこの作品を届けたいです。



国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 強い人

福岡県 久留米市立田主丸中学校 1年

**山岡 由愛**

みなさんは、「強い人」と聞いてどんな人を思い浮かべるでしょうか。「重い物を持ち上げる人」「何をやっても一位の人」「ケガをしても、グッとがまんできる人」などいろいろ想像できますが、そのような人たちに比べて私の二つ年上の兄は、やせ型で力も弱く、運動も得意ではありません。

「由愛ちゃんは、お兄ちゃんよりしっかりしてて頼もしい。まるでお姉ちゃんみたいだね。」そのように言われることが、幼い頃からよくありました。何度もそう言われるうちに私は優越感を覚えてきました。

「お兄ちゃんより私の方が年上みたい。」

「私はお姉ちゃんやん。」

そんな気持ちを持つようになりました。

兄は、小学生の時、ゲーム機の3DSを持っていないという理由で、仲間外れにされたことがあります。休みの日に野球をしている友達の所に行っても、野球が下手なので仲間に入れてもらえなかったこともあります。何度も仲間外れにされました。兄はコミュニケーションが苦手で落ち着きもありません。先輩にいじめられて、体にたくさんのあざができていたこともありました。そんな兄を私は「もっと強い人になってほしい」「なんでいじめられてばかりいると」といらいらした気持ちでみていました。弱い兄に強くなってほしい。それが私の心境でした。

小学生の時、帰り道で友達が兄を強く押して、兄がお腹を打ちつけてしまったことがありました。兄は、だれにも言わなくていいと言いました。目の前で起きたことの驚きと悔しさとそして悲しみの中、私は親や先生に報告しました。その後兄は、元気に過ごすことができました。ほっとすると同時に気付きました。トラブルを防ぐこともできない私は少しもお姉ちゃんではないということにです。

兄に対する私の気持ちに、大きな変化が起きたのは、今年の五月の体育祭でのことです。体育祭の応援合戦はダンスを踊る場面があります。兄のダンスのペアの相手は、あまり学校に来ていない友達だったので、練習で兄はいつも、一人でダンスを踊っていました。

「体育祭の応援合戦のダンス、一人で踊らないかとよ。」

家で兄は、笑いながら言っていました。私も練習の時、相手が休みで一人でダンスを踊ったことがありました。その時、私は恥ずかしくて、いつも通りには踊れませんでしたし、嫌でした。しかし兄は、一人で踊ることを嫌だとも、ペアの友達のことを悪く言うこともありませんでした。

他のクラスまで探せば兄は新しいペアを見つけることができたかもしれません。しかし、兄が他の人と組んでしまうと友だちが踊れなくなってしまいます。兄は友達の居場所を守っていました。結局、本番も兄一人で踊ることになりました。兄が胸を張って堂々と踊る姿はとてまかつよく、見ていて私は兄を誇らしく、そして頼もしく思えました。こういうものも強さなのだと思います。

「強い人」とは「人のために一人でも頑張れる勇気や優しさのある人」のことでした。私も兄のように、友達を思いやり、友達のために行動できる「強い人」になりたいです。

兄がいじめられることは今は全くなりなくなりました。兄は所属する卓球部で一年生に教えていることもありました。兄はきっと誰にでも優しく接していくと思います。この先、いいことも嫌なこともあると思いますが、大切な家族として一緒に助け合い、協力し合っていきたいです。

人のために一人でも頑張れる勇気や優しさそんな強さを私も追い求めたいと思います。

### この作品を書いたきっかけはなんですか？

私の兄は、小学生の時からいじめられる事が何度もありました。そんな兄が、あまり学校に来ていない友達のための居場所を守りつづける姿を見た時、「強い人だな」と感じたことがこの作品を書いたきっかけです。そして、兄も快く「書いて良いよ。」と言ってくれました。いじめに耐えた兄、友達の居場所を守りぬいた兄、自分の過去を書いて良いと言ってくれた兄をとて誇りに思います。私も兄のように強くなりたくたいです。



国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 私に〇〇はいないけれど…

佐賀県 学校法人東明館学園東明館中学校 2年

佐藤 ひかる

みなさんは、「ひとり親」についてどんなイメージを持っていますか？私には父親がいません。私が1歳のころに父は病気で亡くなりました。我が家は「ひとり親」の家庭です。ですから、私は父とふれあった記憶はないし父がどんな存在なのかもいまいちわかりません。今、日本では子どもがいる世帯の約10%が「ひとり親」世帯であるといわれています。実際、私の知人にも私と同じ家庭環境の子もいます。

ところで、私には新学期になると対応に困る出来事があります。それはクラス替えなどで人間関係が新しく変わり、話の流れで親の話になった時におきます。

「私、お父さんを病気で亡くしたんだよね。」と言うと、「あっ…」と申しわけなさそうな顔をされたり、「ごめんね」と氣遣われたりしてしまいます。それは相手の優しさからくるものということは分かっているのですが私も正直落ちこんでしまいます。氣をつかわせて申し訳ないな、どう言えば氣をつかわせずにするのかなど困惑し、もやもやとします。

私はいつも考えることがあります。「ひとり親」というものはそんなにかわいそうなののでしょうか。ドラマや映画では「暗くて影がある・愛情に飢えている」という存在としてひとり親=かわいそうな子とあつかわれることが多いです。そういうものを見るたびに、私も社会で「かわいそうな子」として見られているのかなどなんともいえない気持ちになります。確かに、社会的問題としてひとり親の貧困問題があるのは事実です。これが根拠となり、ひとり親=かわいそうな子となるのかもしれない。だからといって、愛情に飢えているかわいそうな子とまでは決めつけないください。私は自分をかわいそうな子と思ったことはありません。日常生活の中でも「ひとり親」をいつも意識はしていません。父親がいないことを忘れていた時もあります。確かに、父親がいないことはさみしいです。でも私には母がいて、姉がいて、祖父母がいて、友人がいて、先生方がいます。私は一人ではないのです。父はいませんがたくさんの人に囲まれて、たくさんの愛情をもらって生きているのです。きっと、私のようにひとり親の子でもいろいろな人に囲まれて暮らしている子だっているはずですよ。「ひとり親」だからかわいそうな子と決めつけないでほしいです。

今日の日本社会は家族の形が変化しています。母子家庭、父子家庭と呼ばれる家庭は年々に増えています。日本では、子どもがいる世帯の約10%が「ひとり親」です。その10%の「ひとり親」の子どもたちすべてが「かわいそうな子」とされる社会は嫌です。その10%の中で幸せに生きている子どももいるのです。そのことをもっとアピールできたらひとり親=かわいそうな子というイメージが変わるのではないのでしょうか。今、14歳の私が社会を変えるような具体的な政策を思いつくことはできません。しかし、私自身が夢に向かっていきいきと生きていくことでそれをアピールできると思います。私には将来食品関係の仕事につきたいという夢があります。そのためにいきたい大学もあります。私は今、日々勉学に励んでいます。何よりも私が「今、ここに存在する」のは亡き父がいて母がいて、姉がいて、祖父母がいての私です。これからも夢に向かって進んでいきます。

### この作品を書いたきっかけはなんですか？

きっかけは、2年前に姉が、「少年の主張」の佐賀県大会に出たことです。堂々と発表している姿がかっこいいと思い、尊敬しました。当時、小学6年生だった私は「絶対に中学生になったら主張文を書いてみたい」と考えました。そして今回の最優秀賞を一番喜んでくれたのは姉でした。あの2年前の姉の大会出場がなければ、私が最優秀賞をとることもなかったと思います。姉にとっても感謝しています。



国立青少年教育振興機構努力賞受賞



## 私のお話

長崎県 長与町立高田中学校 3年

### ハント 雅

自分らしさとは、何でしょう。私はよく、このことについて考えます。それは私自身、自分のことをよく理解できていないから。そして、今まで学校生活を共にしてきた友人達のこと、本当はよく分かっていないように思います。皆さんは自分がどんな人なのか知っていますか。友達、家族、そして自分のこと。毎日、一生懸命に考えるけれど、私にはまだ、よく分かっていません。

「私らしさ」を見つけたい。そう考えるようになったのは小学六年生の時でした。当時の私は、周囲に流されることが多く、自分には特徴がないと思っていたからです。自分に自信がなくて、皆に嫌われていたらどうしようと不安でたまりませんでした。そして、自ら皆と距離を置くようになりました。しかし、私が気づこうとしなかっただけで、私のことを気にかけてくれる人はたくさんいました。自分や友達を信じて、心を開いていれば、私はもっと自信を持っていたのかもしれない。自分を好きになれないまま、中学校に進学しました。

もう、ひとりぼっちは嫌だ。皆と仲良くなりたくて、自分を創り、友達の前で違う私を演じました。その結果、ふざけ合える友達ができ、周囲の人たちともコミュニケーションを取れる機会が増えました。

しかし、いつも笑顔でいることは難しく、作り笑いをしたり、周りに合わせて、大好きな友達のことを悪く言ったりして、自分の心に嘘をつくこともありました。自分が言われて悲しかった言葉を、あっさり口に出すことに罪悪感すら感じなくなった私が、こわくなりました。自分を創ることは、楽しくはありませんでした。

私が私でなくなってしまう。自分をいつわり、人と比べてばかりいた私に、母がこんな一言をかけてくれました。「雅は雅なんだから、堂々としとかんね。」

母のこの言葉をきいて気づきました。作り笑いをしなくても、自分を出すことが不安でも、ありのままの私を応援してくれる人はいる。人に合わせて過ごす一日よりも、自分らしく頑張る一日の方がきっと楽しいはずだ、と。それから私は、周りの人のことも一生懸命に考えながら、自分の意見を尊重することにしました。その結果、人とぶつかったり、失敗したりすることもありましたが、もう私は、自分を創ろうとはしませんでした。私は、私のことを、好きになれました。

皆さんには、自分の思いを伝えられず、相手に合わせてしまったり、自分を創って接したりという経験はありませんか。自分の思いを相手に伝えることは、本当に難しいものです。

いつも明るく楽しそうにしている子が、時々心配そうに周りを見てる様子。ポジティブでひたむきな人が一度だけ見せた涙。そんな友の姿が、私と重なりました。誰もが同じような不安を抱いているのかもしれない。そう思いました。

考えても考えても、分からないことはたくさんあるけれど、私なりに一つの答えを見つけました。自ら心を開いて、自分らしくいることが、誰かの不安をなくすことにつながり、人の心を開くことになるのではないかと。

自分らしさとは何なのか。自分の中で、まだはっきりと答えは分かりません。きっと私は、これからも変わり続けるし、悩み続けるのでしょう。でも、どんなに自分が変わっても、大人になっても、大切なことだけは、見失わないようにしたいです。

“人に優しくあること” “自分を好きでいること” この二つのことが、心を開く鍵になり、私の今日を、もっと素敵にしてくれると思っています。私のお話を描くのは、他の誰でもなく、私だから。

#### この作品を書いたきっかけはなんですか？

嫌われることや一人になることが怖くて、自分を作ったこと。多くの人にこの経験があるのではないかと思います。そして、私にもその経験があります。自分を好きになりたくて、自分らしくありたくて、これを書きました。自分の気持ちを、言葉にすることが「私のお話」のはじまりになると思ったからです。それがきっかけで同じように悩んでいる人がいるということに、気がきました。伝えることの大切さを、知ることができました。



国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 新しいことを知る喜び

宮崎県 宮崎市立生目中学校 3年

鹿嶋 優来

「病気を診ずして病人を診よ」みなさんは、この言葉を唱えた宮崎市高岡町出身の偉人を知っていますか。私は、このビタミンの父である高木兼寛先生の功績を学ぶために、昨年度「高木兼寛顕彰事業」に参加しました。

学校外で、このような事業に参加するのは初めてで、私は、大きな期待を抱いていました。「参加するからにはどんなことにも積極的に取り組んで、たくさん発言や質問をしよう」と心に決めました。

まず、高岡町の穆佐城跡を訪ねました。私はこの日まで穆佐城の歴史はもちろん、存在すら全く知りませんでした。初めて目の当たりにする壮大な景色に、自分が今宮崎にいることさえ疑いました。本当に広くて、城内すべてを見ることはできませんでした。顕彰会の方からここにたくさんの方が眠っていると聞くと、「何百年前にもこの地に私と同じように立っていた人々がいたのだな」と生まれて初めて歴史を体で感じた気がしました。教室の授業では感じられない「新しいことを知る喜び」を目に見える色とりどりの景色、小鳥のさえずり、聞こえる音、緑のにおいや少し重い空気から体全体で感じ取ることができました。

東京では、兼寛先生の眠る青山墓地を参拝し、清掃をしました。自分の身内でない人のお墓を訪ねるのも、清掃するのも初めてでしたが、とても新鮮な気持ちでした。墓地には、私たち派遣団だけでなく、医療に携わる人々や、兼寛先生を知り、敬う人々も、手を合わせに来るそうです。ほとんどの人が兼寛先生に会ったことはありません。しかし、たくさんの人々が尊敬し、功績を伝え続け、兼寛先生に会いに来ます。私も兼寛先生のように、たくさんの人に認められる人になりたいと思いました。

兼寛先生は、当時日本で流行していた脚気という病気の原因をつきとめるために、実験航海を行いました。もちろん実験が失敗すれば医学界からの追放だけでなく実験のために自他の尊い命が失われてしまいます。けれども、兼寛先生は命をかけて、人々を苦しめている脚気をなくそうと、大きな挑戦をします。その意志の強さにとても心を打たれました。誰も知らない答えを導き出すには、大変な苦労があったことでしょう。何よりも、他人の命を背負うことなんて私にはできないと思います。兼寛先生はとても勇気のある人だと思いました。

顕彰事業を終えて、私は残念に思うことがあります。それは、このような素晴らしい事業の存在を知らない人が多いということです。未知の世界に足を踏み入れることは人間を大きく成長させてくれます。私はこの体験を通して、全く知らなかったことや全く知らなかった物に触れました。そして、今までは興味のないことには目を向けなかった私が、いろいろな物事に対して、調べてみたり、体験してみたりするようになりました。また、自分が参加できる活動には積極的に参加していくようになりました。新しいことを知る喜びは、こんなにも自分を幸せにしてくれるのだと、とても嬉しくなりました。だから、友達や私と同じ中学生にも、このような体験をしてほしいと思います。

情報社会になっている世の中、誰もがインターネットだけで物事を知る機会が多いと思います。しかし、自分の体で直接体験することは、画面から知るよりもずっとワクワクしてときに感銘をうけるものだと思います。

私はこれから、この体験をいかしているような場面で先頭に立ち周りを引っ張っていける人になりたいです。「知らないから怖い、できないからやらない」そんな自分には別れを告げて、どんな時も希望を持ち続けた兼寛先生のように常に挑戦する心を忘れません。もっと多くの新しいことを知り、挑戦することを諦めて立ち止まってしまった人々の背中を押せるように、誰かの幸せのために努力できる人になりたいです。そして新しいことをたくさん知って、自分の世界を限りなく広げていきたいです。

### この主張をどんな人に届けたいですか？

全ての人に届けたいです。新しいことを知る喜びを、何回でも体感して欲しいです。世の中にはまだ知らない事が多くあり、それに気づかないことは、少し残念な気がします。だから、私の主張を多くの人に聞いていただき、その人が「新しいことに挑戦する」きっかけとなれば幸いです。また、世界には環境に恵まれない人も多くいます。そのような人たちが「新しいことを知る喜び」を体感できる機会を与えてあげられるような人になりたいです。



国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 心豊かな令和を願い

鹿児島県 南さつま市立万世中学校 3年

藤田 二誓

いつもより遅い時間に学校を出た日のことだった。駅に行く途中、大通りの交差点横にあるコンビニの駐車場で、その子を見た。夕焼けの下、赤信号がぱあっと明るく見える。パーカーのフードを被り、ジーンズを履いたその小学生くらいの男の子は店の外で一人、カップ麺を食べていた。仕事で家を空けざるを得ない親が、安否確認のために持たせたのだろうか、ジーンズのポケットにはスマホが見えていた。車が行き交うなか、あの子だけが音のない世界にいるようだった。

前例のない十連休が過ぎ、新しい令和の時代がやってきた。私は今年、立志を迎え、十五歳になる。立志とは、生きる上での目標、志を立て、それを成し遂げようとする事だ。

私は将来、国際交流に関わる仕事に就きたいと考えている。世界中が安心安全な、居心地の良い環境づくりに努めたい。しかし、現在世界の貧困率は上昇し、格差が広がっている。先進国であるこの日本でも、貧困問題は遠い国の話ではない。

平成二十五年、六月、「子どもの貧困対策に関する法律」が国会で成立した。子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることがないように、できた法律だ。バブル崩壊から急速に、社会情勢の悪化が進んだという。少子化や共稼ぎの増加による生活の変化で、現在の日本の社会が最も見えるのは「食」ではないだろうか。家庭の事情や経済的状況もあるが、大人不在の会話のないただ食べるだけの孤独な食事は心が貧しくなる。「食」の世界は便利になり、カップ麺や菓子パン、コンビニ弁当、子どもだけで食べられるものに溢れている。皿洗いも、お手伝いも、コミュニケーションもいらない「食」が便利と言われている。これは、もう一つの貧しさではないか。子どもにとって「食」は大人との大切な関わりだ。今日あの子は誰と何をどこで食べるのだろう。

私の住む地域では、高齢化社会を支える子育て世代への経済的支援を図ると共に、子どもたちが健康でたくましく成長することを目的として、学校給食費の無償化に取り組んでいる。その一方で、この取り組みは給食費未納などの問題を多くの人に知らしめている。私たち世代は、なぜ給食が無償なのか、この給食がどのように作られているのかにもっと関心を持ち、地域が与えてくれた、この貴重な取り組みを次の世代への課題として考えていかなければならない。

都市化が加速し、コミュニティが弱くなるなか、「子どもが一人でも入ると同時に、大人も入っていい居場所」として、各地で子ども食堂が運営されている。全国に約三千ヶ所あるという子ども食堂は、地域やボランティアの応援で「食」の格差を埋める支援を行っている。先月、近くの子供食堂を覗いてみた。そこは子どもたちの笑顔で溢れていた。日本に貧困の子供なんて本当にいるのだろうか。実際にこの子供食堂は、「貧困状態にある家庭向け」では参加し難くなるため、誰もが参加できる食堂づくりを目指している。そうなっていけばいくほど、たくさんの方が食事に来て、食材や資金が足りなくなる。社会貢献をしているという充実感はあるけれども、本当に経済的に支援を必要としている家庭に届いているか疑問を持った。しかし、誰かのために何かしたいと思っている人が私の周りに沢山いる。そして私もその手伝いがしたい。決して他人事ではなく、一人ひとりに影響する自分事だとわかってほしい。問題が深刻化する前にすべての人が声を上げられる地域社会であるか問いたい。私は、私たちが忘れたことさえ忘れてしまっていることを思い出し問題化することの大切さを伝えていきたい。私たち、これからの未来を担う世代は、常に何事にも挑む心が大切だ。新しい令和の時代を豊かにするために。

### この作品を通して、これからどんな人生を作り上げて行きたいですか？

この少年の主張大会を経験したことで私の人生はすでに、変わり始めています。たった1人の中学生の意見でも堂々と発表する場がある、そして私たち未来を担う世代は常に何事にも挑む心が大切だと実感しました。これからも、自分と社会の関わりについて深く考え、将来の夢の実現のためにたくさんのことに挑戦していきたいです。





国立青少年教育振興機構努力賞受賞

## 気付けなかった幸せ

沖縄県 豊見城市立長嶺中学校 3年

**新垣 悠**

「パイの人って、色んな人と恋愛できるから、人生得してるよね。」

母の何気ない一言が、私の殻をぶち破ってくれました。

近頃、様々なメディアで「LGBT」についての特集を目にします。新聞の見出しには「偏見に負けず」とか「ありのままの自分で」などと勇気を称えた記事が多く掲載されており、私はそれらをかじりつくように読んでいました。

私が LGBT に深い関心を持つのは、私自身が性的少数者だと思うからです。私は女性の身体をしていますが、心は女性でもなく、かといって男性でもありません。私は心の性が“中性”の「Xジェンダー」として生きているのです。

私が「Xジェンダー」の存在をインターネットで知った時、真っ先に思い浮かんだのは「自分は周りに差別されるのだろう」というマイナスな考え方でした。それからというもの、私はLGBTの人々の体験談を読み漁るようになり、どんな体験談にもつき物だったのは、やはり「偏見との戦い」です。偏見や差別に苦しむ人を目の当たりにすると、「自分はこうなりたくない」という気持ちが勝ってしまい、私は膨らみ続ける悩みを自分の中に押し込む事しかできなくなりました。

そんな時、あるバラエティ番組で「バイセクシュアルの恋愛観」について取り上げられていました。自分の価値観を堂々と話す画面奥の男性に、私は引け目を感じていました。そんなモヤモヤを消し去るように、私の母は「パイの人って、色んな人と恋愛できるから、人生得しているよね。」と言い放ったのです。その瞬間、私がこもっていた殻がガラガラと音を立てて崩れました。「私を理解してくれる人は、案外近くにいるのかも」、そう思えたのです。

私はすぐに自分の性の事を母に話しました。母は、私が話す前から何となく察していたようで、「そっかあ。」とあっさり受け入れてくれました。殻から飛び出した私は、人目をあまり気にしなくなりました。それからというもの、大きめのメンズ服を着たり、かわいらしいふんわりとしたズボンをはいたり、髪の毛を肩までのばしたかと思えば、うなじが見える程バツサリ短くしたりと私は、自分らしく生きるのが楽しくなりました。私を小さい頃から見ていた人達は皆こう言います。「今の悠ちゃん、すごく変わったねえ。」と。それは引込み思案だった私が、意見をしっかりと持ち、言えるようになったからだと思います。

私が「自分らしく生きている」と初めて感じられた時、それは「周りにどう思われてもいるのだろう」という気持ちがなくなった時でした。好きな恰好、好きな髪形、好きな人、自分の中にある「好き」を隠さずにさらけ出せる事が、私にとっての「自分らしさ」だと思います。

「自分らしさ」を考えると、私は「性」を基準に判断するものではないと思います。性別があるからこそ「女は家事、男は仕事」などという偏見が生まれたのではないのでしょうか。

男女の差別が色濃く出ていた時代を生きた私の祖母は、今では男女関係なく家事をすることを当たり前だと考えています。

祖母の考えを知った時、私の周りの環境はこんなに恵まれていたのに、どうして今まで気づけなかったのだろう、とひっそり嬉し泣きしたのを覚えています。

母や祖母を始め、周りの人々との関わりの中で、私は気付く事ができたのです。私自身の性を否定し、差別して傷付けていたのは、他の誰でもなく、私自身だったのです。

人目を恐れて自分に悩んでいる人がこの社会には多くいると思います。自分の殻を壊すには、少しの勇気と少しのきっかけが必要です。チャンスを見逃さず、強く、自分の殻を叩いてみませんか。そうしたら、殻は思ったよりももろくて柔らかい、殻の外は目がくらむ程明るい事に気付けるはずですよ。私は気付けなかった幸せがすぐそばにありました。

どんな人でも、辛くなったら泣けばいい。楽しかったら大きな口を開けて笑えばいい。自分に正直に生きてもいい世界になれば、周りはずっと明るくなると思いませんか？

### この主張をどんな人に届けたいですか？

自分の「好き」を表に出せない人に届けたいです。「みんな違ってみんないい」とよく言いますが、いざ自分を出そうとするとためらう人が多いと思います。「自分」を主張するのはとても勇気がいることです。差別されないとは言いつても言い切れないこともあります。しかし、私の体験からあなたを理解してくれる人は絶対います。だから、「人と違う自分」ではなく「誰かと分かりあえる自分」を主張できる勇気を私は届けたいです。



# 実施概要

## 第41回少年の主張全国大会 ～わたしの主張 2019～ について

### 全国大会開催要綱

#### 1. 趣 旨

少子高齢化、国際化、情報化が急速に進み、環境が目まぐるしく変化する現代社会において、次代を担う子どもたちには、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められています。

そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などと共に、物事を論理的に考える力や、自らの主張を正しく伝え、理解してもらおう力などを身に付けることが大切です。

少年の主張全国大会は、子どもたちにとって、これらの契機となることを願い実施するものです。

#### 2. 対 象

日本在住の中学生及びそれに相応する学籍又は年齢にあるもの。

※国籍は問わないが、日本語で発表できること。なお、作品は未発表、自作のものに限ります。

#### 3. 発表内容

ア．社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。

イ．家庭、学校生活、社会（地域活動）及び身の回りや友達との関わりなど。

ウ．テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など。

上記のような内容で、心からの思い、考えたことや感銘を受けたことなどを、少年らしい自由でユニークに、飾り気の無い言葉でまとめたもの。また、商業的な固有名詞の使用は極力避けるようにする。

（悪い例：○○県にある○○旅館 良い例：○○県にある旅館 など。）

#### 4. 主 催

国立青少年教育振興機構

#### 5. 協 力

都道府県、青少年育成都府県民会議、全日本中学校長会、日本私立中学高等学校連合会、公益社団法人日本 PTA 全国協議会、全国青少年育成県民会議連合会

#### 6. 後 援

内閣府、文部科学省、東京都教育委員会、日本放送協会、一般社団法人日本民間放送連盟、一般社団法人日本新聞協会、社会福祉法人全国社会福祉協議会

#### 7. 開催日時

令和元年 12 月 8 日（日）13 時～16 時

#### 8. 開催場所

国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟大ホール

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3 番 1 号

### 少年の主張都道府県代表者の推薦（作品の募集）について

#### 1. 都道府県大会の開催

青少年育成都府県民会議等主催により開催し、青少年育成市町村民会議、市町村教育委員会、中学校等の協力を得て、広く作品の募集及び市町村大会、地区大会等を開催し、その選考を経た各代表者の中から都道府県大会において最も優秀な者を選考した。

#### 2. 都道府県大会実施概要 71 ページ参照

### 全国大会出場者選考及び当日審査について

青少年育成都府県民会議等より全国大会推薦要領に基づき都道府県代表 47 名が推薦され、全国大会審査委員会で、都道府県代表者作品を、全国 5 ブロックに分け審査を行い、各ブロック代表として選ばれた計 12 名が全国大会で主張発表を行った。

#### 1. 全国大会審査委員会の設置

作品を審査するため、青少年団体、行政、学識経験者や教育関係団体、マスコミ等、複数の分野から審査委員を選任した。

審査委員長 松本 零士 日本宇宙少年団 理事長

審査委員長代理 西川 龍一 日本放送協会 解説主幹

審査委員 内海 房子 国立女性教育会館 理事長

工藤 和之 日本 PTA 全国協議会 副会長

田中壮一郎 国立青少年教育振興機構 顧問

田村 寿浩 内閣府 政策統括官（共生社会政策担当）付 参事官（青少年企画担当）

林 萌桃 第 36 回少年の主張全国大会 国立青少年教育振興機構理事長賞受賞者

笛木 啓介 全日本中学校長会 生徒指導部長

古沢由紀子 読売新聞東京本社 編集委員

水田 功 文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課長

宮崎 緑 千葉商科大学 国際教養学部教授・学部長

#### 2 審査方法及び審査基準

##### ①事前審査（全国大会出場者選考の為の審査）

事前審査（作文審査・出場者選考審査）は、全国を 5 ブロックに分けて行い、各ブロック代表を選出。

各ブロック代表者合計 12 名を全国大会発表者として選考。

＜作文審査＞（在宅審査）

- [日 時] 令和元年10月11日（金）～10月23日（水）  
 [内 容] 47都道府県代表作文を読み、主に論旨について審査を行う  
 [基 準] 以下の基準について、相対的評価を行う  
 ①鋭い感性で、新鮮な主張であるか（中学生らしさ）  
 ②新しい情報や視点があるか  
 ③個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか  
 ④提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか  
 ⑤論旨が一貫し、構成がしっかりしているか  
 [方 法] ①ブロックごとに審査を行う  
 ②評価  
 全国大会出場者としてふさわしいと思われる作文をブロックごとに5つ選考し、上位から順番に5点、4点、3点、2点、1点を付与する

少年の主張大会ブロック割り及び全国大会出場定数（5ブロック計12名）

| ブロック    | 都 道 府 県                                          | 定数 |
|---------|--------------------------------------------------|----|
| 北海道・東北  | 北海道・青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県                      | 2  |
| 関東・甲信越静 | 茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・新潟県・山梨県・長野県・静岡県     | 3  |
| 中部・近畿   | 富山県・石川県・福井県・愛知県・三重県・岐阜県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県 | 3  |
| 中国・四国   | 鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県              | 2  |
| 九州      | 福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県                 | 2  |

定数（ブロック代表数）…ブロック内で全国大会に出場する者の数

＜全国大会出場者選考最終審査＞

- [時 期] 令和元年11月1日（金）  
 [場 所] 国立オリンピック記念青少年総合センター 大会議室  
 [内 容] 代表者をブロック定数選出し、全国大会出場者12名を決定する  
 [基 準] 以下の基準について、相対的評価を行う  
 ①作文内容が優れており、共感と感銘を与えているか  
 ②説得力のある話し方であるか  
 ③話しぶりに熱意と迫力があるか  
 [方 法] ①ブロックごとに協議を行う  
 ②作文審査集計をもとにした協議により、ブロック代表候補者を絞り込む  
 ③必要に応じ、ブロック代表候補者の都道府県民大会録音を聴き論調の審査を行う

②全国大会審査

- [日 時] 令和元年12月8日（日）  
 [場 所] 国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟 大ホール  
 [内 容] ブロック代表12名の発表を聴き、総合的な審査を行い、協議により、内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞、国立青少年教育振興機構理事長賞の三賞を決定する  
 [基 準] ①共感と感銘を与えていたか  
 ②説得力のある話だったか  
 ③熱意と迫力があつたか  
 ④落ち着いて話していたか  
 ⑤聴衆に感動を与えていたか

③設置された賞

|                                 |                                               |                                                                       |
|---------------------------------|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 全<br>国<br>大<br>会<br>出<br>場<br>者 | （三賞）<br>内閣総理大臣賞<br>文部科学大臣賞<br>国立青少年教育振興機構理事長賞 | 全国大会出場者のうち、優秀な3作品に授与した。                                               |
|                                 | 審査委員会委員長賞                                     | 全国大会出場者のうち三賞のほか、審査委員長の評価が高い2作品に授与した。                                  |
|                                 | 国立青少年教育振興機構奨励賞                                | 都道府県代表として、全国大会出場者選考審査においてブロック代表に選出され、全国大会に出場したことを賞し、全国大会出場者全12名に授与した。 |
|                                 | 国立青少年教育振興機構努力賞                                | 都道府県代表として、全国大会出場者選考審査（ブロック代表選考審査）に推薦されたことを賞し、35都道府県代表者に授与した。          |

少年の主張大会応募者総数等

|            |          |
|------------|----------|
| 応募者数       | 496,492名 |
| 参加学校数      | 4,171校   |
| 都道府県大会来場者数 | 14,981名  |
| 全国大会来場者数   | 556名     |

都道府県代表者学年性別人数

| 学年/性別 | 男子 | 女子 | 計  |
|-------|----|----|----|
| 中3    | 9  | 30 | 39 |
| 中2    | 0  | 5  | 5  |
| 中1    | 1  | 2  | 3  |
| 計     | 10 | 37 | 47 |

# 審査委員の感想



## 中学生の持つ可能性の広がり

日本放送協会 解説主幹

西川 龍一

毎年楽しみな少年の主張全国大会。私事だがいつの間にか審査員として古株となり、前回40回大会からは、審査委員会委員長代理として、講評を述べる役割を仰せつかっている。

さらに今大会は、松本零士委員長が体調を崩されて欠席せざるを得なかったため、私の講評が大会を締めるという緊急事態となった。例年であれば、太平洋戦争を体験し、幼い頃の自然体験から海外に出て重ねてこられた様々な人生体験を語られる松本委員長の重厚な挨拶が大会のクライマックスである。それを聞かせてあげられないのは、残念と考え、松本先生の言葉の中から私がもっとも印象に残っている言葉を贈らせていただいた。「時間は夢を裏切らない。時間も夢を裏切ってはならない。泣くのは恥ではない。諦めるのが恥だと信じて頑張れ！」参加者の皆さんの心に、しかと届いていれば幸いである。

さて、41回大会の審査結果はご承知の通りである。例年のことながら、各都道府県からの全国大会出場者の選抜だけでも大変なことで、審査委員会は苦渋の決断で12人を決めた。そこからの各賞選考の難しさは言わずもがなである。今回の主張をみて感じたことを一言で言えば、「多様化」だろう。内容の多様化もさることながら、数年前まではほぼ女子だった代表が男子の比率が高くなっていること、学年もほぼ3年生だったのが、下級生も増えていること。特に内閣総理大臣賞となった藤田大悟さんは、1年生。主張を書いた数か月前まで小学生だったとは思えない内容だった。ほかの主張を含め、自ら解決策を探ることの大切さといったダイバーシティ社会を生き抜くヒントや、SNSの広がり希薄になりがちな人間社会への警鐘など、我々大人が気付くべきことをしっかり示してくれた。

学校は社会の縮図である。その場を素直に感じ、主張することができる中学生の持つ可能性の広がりを深く認識させていただいたことに感謝したい。



## 心の扉を開く

国立女性教育会館 理事長

内海 房子

冬枯れの抜けるような青空に、美しく色づいた銀杏の葉の舞い散る国立オリンピック記念青少年総合センターにて、「第41回少年の主張全国大会」が開催されました。

内閣総理大臣賞に輝いたのは、東京都代表の藤田大悟さんの作文「心の扉」です。視覚障害を持つ藤田さんとクラスメートとの心のずれは、小学校最後の鎌倉遠足のときに露呈します。どうしたらわかり合えるのかじっくり考えた末にたどり着いたのが、クラスメートに「自分」を伝えることでした。予想以上にわかり合えていなかったことが判明し、クラスメートとの距離はぐっと縮まります。

そして迎えた音楽会当日、藤田さんの演奏するピアノは、不覚にも数小節の音が抜けてしまいました。しかし、そんな失敗にもかかわらず、励ましてくれたクラスメート。自分を受け入れてもらうためには、心を開いて相手を受け入れる必要があるという大事なことに気づかされた瞬間です。そのときの、言葉では言い尽くせないほどの感動、喜びが、押し寄せる波のように読み手の心をも打ちました。体言止めの効果を生かしたリズムカルな文章展開や心の内を細やかに表現した巧みな文章表現も、この作文の魅力の一つです。

受賞には及びませんでしたが、大分県代表の森田翔輝さんの「自分らしく」も中学生らしいすばらしい作品です。背が低いというコンプレックスを見事に克服した話です。学校をズル休みしたある日、見舞いに来てくれた友達が悩みを聞いてくれたこと、思い切って、今までの思いを打ち明けたこと、友達は何も言わず最後まで聞いてくれて、その優しさがうれしかったと綴っています。そして、その同じ日に父親の何気ない励ましの言葉。いつもなら素直に聞けない言葉もその日は違いました。「僕も少しがんばってみよう」と決心するのです。子供らしい素直な文章で、読み手の気持ちまで温かくしてくれました。

二つの作品に共通することは、自分の思いを正直に相手に伝えることによって、立ち向かう壁を崩していったところと、伝えることの大事さ、心の扉を開くことの勇気を教えられたように思います。





## さらなる成長と未来に期待！

日本 PTA 全国協議会 副会長  
**工藤 和之**

今回、初めて少年の主全国大会の審査員を務めさせていただき、12名の中学生の熱い思いの発表を目の当たりにして本当に感動致しました。同時に、これに点数をつけることの難しさを大いに感じました。

一次審査の段階においても、各都道府県を代表して上がってきた作文一つ一つが、自分が体験したことから感じた中学生らしい素直な思いと、そこから自分が目指す将来の夢や目標が感じられるものばかりで、審査委員会でも「(選考が)難しい！」という声が多数あがりました。

全国大会では、当然ながら厳正な一次審査を通過した作文ばかりであり、発表者の一生懸命な姿にも心を打たれ、どれも甲乙つけがたく、審査委員も皆が選考に頭を抱えなければなりませんでした。

しのぎを削る素晴らしい発表ばかりの中で、内閣総理大臣賞をはじめ三賞・特別賞の荣誉に輝かれた皆さんに心よりお祝いを申し上げます。

また、惜しくも三賞・特別賞には届かなかった皆さんについても、全国約50万人の応募者の中から最後まで残った12人の内の1人であるということには、是非とも自信と誇りを持っていただきたいと思います。発表者の皆さん全員に心から拍手を送ります。

昨今は、若者達が夢を見にくい社会になってきていると言われますが、まだまだ少年・少女達はしっかりと「自分」を持ち、「夢」を持っていることを大いに感じました。

子どもたちには今の思いを大切にしながら、但し、決してそれに縛られることなく、これからもたくさんの出逢いと経験を糧にして、さらなる成長の上昇カーブを描いて欲しいと願っています。



## 発信することの大切さ

国立青少年教育振興機構 顧問  
**田中 壮一郎**

第41回少年の主張全国大会は、秋篠宮佳子内親王殿下とともに新たに中学生になられた、悠仁親王殿下の御臨席のもと開催されました。佳子様も中学生時代の三年間、紀子妃殿下とご一緒に御臨席いただいたことを思い出しました。

さて、審査委員2年となった本年も、47都道府県の代表から12名の全国大会出場者を選出することから困難の連続でした。

その中で、本年はSNSが急速に発達する時代を反映した人と人の直接的なつながりの大切さに関する内容が多くみられました。また、例年のようにいじめや障害に関連した内容も多かったですが、本年全国の代表に選ばれた内容はそれぞれ大変具体性をもったものが多かったと思います。

内閣総理大臣賞となられた東京都の藤田君は、自分の視覚障害の状態を自らクラスメートに説明することから、クラスメートとのすれ違いを克服したことを発表されました。また、文部科学大臣賞となられた熊本県の廣岡さんは、祖父をなくし哀しみに沈んでいる祖母と直接話し、一緒に食事を作ることから祖母が元気になったことを、国立青少年教育理事賞となられた山梨県の小松さんは、認知症になられた祖父との交流について発表してくれました。

三賞には選ばれませんでした。大分県の森田君の「自分らしく」にも感銘を受けましたし、島根県の矢萩君には是非立派な大工さんになってほしいと感じました。

多くの中学生が何らかの問題や困難に直面した時に、自ら行動し発信することの大切さを訴えてくれたことに感動しました。



## これからも様々なテーマで積極的に意見発信を！

内閣府 政策統括官（共生社会政策担当）付 参事官（青少年企画担当）  
**田村 寿浩**

「少年の主張全国大会」で審査委員を務めさせていただくことになり、作文審査から審査に加わりましたが、いずれも読み手・聞き手の心にしっかり訴えかけるものばかりでなかなか大変だったというのがまず率直な感想です。審査委員は様々なバックグラウンドの方で構成されており、評価の視点が少し違ってすり合わせが必要な場面もありましたが、作文審査が上がってきた「主張」は全てきらりと光を放つ、個性あふれる素敵な作品ばかりでした。自分の体験や学びに基づいてこうしてしっかり自分の意見を主張できる中学生がこんなにたくさんいて頑張っている、ということを知ることが私にとってうれしい経験でした。

全国大会で内閣総理大臣賞を受賞した東京代表の藤田大悟君の「心の扉」は、自分のハンデを周囲の仲間たちに積極的に伝えることで、お互いにより深い理解につなげることができた、というのですが、彼の勇気ある行動と友人たちのこれに対する前向きな受け止め方を聞いて私もさわやかな気持ちになりました。大人にとっても非常に共感が持てるストーリーでしたし、こうした形で築かれた人間関係はきっと一生の財産になるのではないかと思います。全国大会での彼の主張ぶりもとても「自然体」で好感が持てました。

ここからは今後の期待ですが、多様化する現代社会には様々な新しい課題が日々発生しています。そうした課題に対し効果的な対策を講じるにあたって、若い世代の皆さんのみずみずしい感性に基づく意見が大いに参考になるケースも増えてきていると思います。今回の全国大会でも「ネット偏重社会」の課題を取り上げて論じた主張がありましたし、「起業」というテーマを取り上げた「ビッグな大人になる」という主張なども努力賞を受賞されました。これからも様々なテーマ（社会的な課題）に関して若い皆さんが一層積極的に意見を主張してくれることを期待しています。皆さんの今後一層のご活躍を祈ります！



## 少年の主張でうまれる様々な考えや思い

第 36 回少年の主張全国大会 国立青少年教育振興機構理事長賞受賞者  
**林 萌桃**

第 4 1 回少年の主張全国大会の審査委員を務めさせていただきました。はじめに、今回の大会に審査委員として参加し、様々な中学生の主張を聞いたことを大変嬉しく思います。

4 7 都道府県の中学生の作文を読んだとき、SNS についての発表など、私達ときには問題になることが少なかったものに視点を向けているものが多いなと感じました。だからこそ、大人に近づいている私達では思いもなかった新しい考えや、物事の捉え方をしており感銘を受けました。また、本当にどの作品も新しい視点であったり、感動を与えてくれるようなものばかりで、書類審査で 4 7 人から 1 2 人に絞るといのは、思っていた何倍も悩ましいものでした。

全国大会では、発表者全員から作文だけでは分からない熱意と迫力が伝わってきました。特に、今回は大きな壁を乗り越えてきたからこそ伝える力が大きく、説得力もある方ばかりだなと感じました。また、大勢の聴衆の前で堂々と自分の思いを伝えるというのは簡単なものではないと思います。しかしそれ以上に自分の主張を聞いてほしいという思いが強いからこそ、あの場にいた大人はもちろん、多くの中学生にも多くの感動を与えていたと思いました。

私も中学生の時、少年の主張で出会った発表者には多くの新しい考え方や生き方を学びました。そこから、それまでは考えることのなかったものにも興味を持つようになりました。今、20歳を目前にし大人の仲間入りをする一歩手前ですが、今回のように新しい発見ばかりです。私もまだまだ未熟者ですので、中学生の主張を聞き、これからもどんどん挑戦をしていきたいと改めて考えるようになりました。

最後になりましたが、改めて色々なことに気付かせてくれた中学生のみなさんに感謝いたします。また、今回このような貴重な経験をさせていただいたことに感謝申し上げます。



## 幸せな世界の実現に向けて

全日本中学校長会 生徒指導部長

笛木 啓介

グローバル化や人工知能・AI等の技術革新が急速に進み、予測困難な時代が到来し始めている。これからの時代を生きる子供たちには、自ら課題を見つけ、自ら学び・考え・判断して行動し、よりよい社会や人生を切り開いていく力、「生きる力」が求められているが、第41回「少年の主張」を聞き、今求められる「生きる力」を確実に身に付けた多くの子供たちの存在を実感した。

発達障害のある自分が周りからの偏見や無理解に苦しみながらも、自分自身を冷静に見つめ受け止める中で、周囲へ感謝することのできる自分へと変わった宮城県に加藤海音さんは、自分と同じように苦しんでいる誰かのために、障害は個性であることを語り、個性が輝く社会となるよう発達障害への理解を力強く促した。

京都府の堤菜々さんは、ある動画投稿をきっかけに、ネット社会になった今こそ、SNSの本質を見極め、その在り方を見直す必要があると主張した。また、お祖母さんとの関りを通して、スマホでのやり取りではなく、直接会い、顔を見て話すことの大切さを実感した熊本県の廣岡里奈さんは、限られた時間を相手のために使う、思いやりのある優しい未来を望むようになった。近年爆発的に広まっているSNSの使い方への警鐘を鳴らすとともに、そう遠くない将来の人間とAIのあるべき関係を考えるきっかけをもらったように思える。

全校36人の中学校の生徒会長として、「地域と共にある生徒会」を目指した静岡県望月香琳さんは、少子高齢化が進む地域の中で、中学生である自分たちにできることは何か、地域の一員としてすべきことは何なのかを真剣に考え、議論し、その結果として小中合同体育祭を実現させた。この活動を通して、自分たちの成長を実感し、自信と誇りを持つことのできた中学生の姿に大きな感動を覚えた。

全国大会への出場者に限らず、今大会に応募した全国約50万人の中学生一人一人に心から敬意を表したい。その力を礎に、今後の弛まぬ努力によって、幸せな世界を実現してくれることを心から願う。



## 分断を超えて～一歩踏み出すことの大切さ

読売新聞東京本社 編集委員

古沢 由紀子

これからの時代に求められる力とは何か。様々なバックグラウンドを持つ人々と協働し、正解のない課題を主体的に解決することだ。昨秋、世界の15歳の学力を測る国際学習到達度調査(PISA)について、アンドレアス・シュライヒャーOECD教育・スキル局長にインタビューする機会があった。その時に彼が強調していた教育の在り方は、思考力や表現力を重視する日本の次期学習指導要領の理念とも共通している。

その実例が、ここにあったか、と思われた。第41回「少年の主張」で内閣総理大臣賞を受けた藤田大悟君(東京都代表)は、厳しい状況の中でも冷静にどうすれば級友と分かり合えるのか考え、勇気ある一歩を踏み出した点が、特筆されるだろう。

視覚障害のある藤田君は小学校時代、遠足の山道でひとり遅れて、同じ班のメンバーから責められた。自分をサポートするどころか非難する級友たちに対して、「心ないことだ」と憤ってもおかしくない話である。

しかし、藤田君は解決策を探り、「僕の見え方、配慮してほしいことをみんなに説明すればいいのではないか」と思い至った。スピーチに加え、器具を使って自分の見え方を体験してもらうことで、クラスメートの理解は深まったという。同時に、自身の中にあった「見えない壁」の存在や心を開くことの大切さに気付いたことは、大きな糧になっただろう。本人や級友たちにとって、貴重な学びの体験につながったことも間違いない。

審査委員長賞に選ばれた望月香琳さん(静岡県代表)の発表も、印象的だった。学校統廃合を控え、隣の小学校との合同運動会を生徒会で計画したところ、ほかの生徒から思わぬ反対にあった体験を報告した。異なる意見を理解しながら、話し合いを重ねて解決策を探っていく姿勢が頼もしい。

国内外の社会は多様性を増す一方で、分断も進む。自分と似た環境や趣味嗜好の仲間としかつきあいたがらない傾向も今の若者にはある、と言われる。そんな内向き志向を変えていくためにも、様々な同世代の主張に耳を傾ける場の大切さを思う。



## 「言葉の力」と「つながり」の大切さ

文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課長

水田 功

静まり返った会場内に12名の中学生の熱い主張が次々と響き渡り、あっという間の1時間が過ぎていきました。審査員として全国からの選りすぐりの素晴らしい作品にさらに評価を加えるのは大変困難で、嬉しい悲鳴としか言いようがありませんでした。

発表者の皆さんは、非常に落ち着き堂々と、それぞれの主張を発表しました。日頃から解決策を模索している中でようやく自分なりの答えが出せたこと、ある日の出来事やある人の一言によって問題意識が芽生え自分の思いを整理したことなど、題材は様々ですが、自分の思ったことを如何にして説得力のある形で聴いている人に伝えるか、工夫を重ねて発表していることがよく伝わってきました。作文を読んだだけでも十分に趣旨や気持ちを理解できたつもりだったのですが、実際の発表を聴くと、発表者の言葉が生命を持って伝わってきて、「言葉の力」の大きさを実感しました。

私の担当している社会教育では、これからの社会の中で「つながり」を作っていくことが非常に重要なテーマです。今回受賞された作品についても、一つひとつの中に様々なテーマが盛り込まれていましたが、祖父母との間で、SNSやメールではなく直接コミュニケーションをとることの必要性や、友達に自分の障害について明確に伝えることの必要性など、人と人との「コミュニケーション」あるいは「つながり」といった観点から見ても、大変説得力のある作品・発表だったと思います。

人生の中で、自分の思いを公衆の面前で発表する機会というのは、滅多にあるものではありません。都道府県大会や全国大会で発表する機会があった皆さんは、今回のかけがえのない経験を大きなステップとして、夢に向かって進んでいていただきたいと思います。また、今回参加された全ての中学生の皆さんは、今後も自分の感じたことを言葉にして相手に伝え、人との「つながり」を大切にしていきたいと思います。



## 善く生きるということ

千葉商科大学 国際教養学部教授・学部長

宮崎 緑

「善く生きる」とはソクラテスに遡る哲学のテーマである。ただ生きるのではなく善く生きる。

一見、平易な文面だが、では「善く」の中身は何かと考えるとこれが実に奥の深い命題であることに気づく。価値観が違い、文化が違い、思考経路が違えば、同じ行為でも評価が別れる。例えば、一生懸命勉強してもサボっていても同じ点数がつく方が平等か、努力に対応した点差がつく方が平等か、「沈黙は金」かはっきり意見を表明しないと存在価値を認められないのか、等々。さらに国際社会ではテロや紛争などいずれの側も正義と主張する行為が衝突している。

善く生きる、とは人類の永遠のテーマと言ってもいいのかもしれない。

今年の少年少女たちの主張には、この「善く生きる」というテーマに対する模索がしっかりと下敷きになっていると感じさせられるものが多かった。障害を克服する、というのは簡単ではない。自分の状況を知ってもらうためにシミュレーションを行ったり、恐れず説明をしたりする勇氣には誠に頭の下がる思いがするし、弱点を魅力に転換する勇氣にも感動を覚える。高齢で自分自身を忘れてしまうかもしれない家族に自らの姿を映して深く考える姿勢も素敵だ。学校を中心に地域を活性化させたり、社会全体が善く生きるために戦争の問題を捉える感性も素晴らしい。

そうして一人一人が自分の「善く生きる」を見出ししていくことで、集積された社会が少しずつよくなっていく光になるかもしれない、と力づけられる。

答えは簡単には見つからない。だからこそ、悩んだり、苦しんだりしながら模索する過程に大きな意味がある。このプロセスに、あなた一人ではなく周りの人々も巻き込まれ全体が善く生きる努力につながるのだ。

そして、次の問いにたどり着くかもしれない。人は何故生きるのか、と。

しかし、今年の主張を聞いていて、確信した。この少年少女たちはきっと、この大きなテーマに自分なりの答えを見出ししていくのだろう、と。



## 中学生

---

- 主張を聴いてネット社会の問題や、相手のことを考え、受け入れることを取り組んでみたい。
- 今回のことで、障がいへの対応や今の社会問題に新たに気付く事が出来た。
- スマホも良いが、直接会話をした方が本当の気持ちが伝わるので、今後はそうしたい。
- 自分の命だけでなく、他人を尊重できるようにしたい。
- 命は尊いものであり、人生も一度しかないので人権を尊重していきたい。
- 障がい者に対する固定概念を考え直す必要があると思うので、障がい者や老人に普通に接したい。
- ニュースをよく見て日常の問題についてよく考えていきたい。
- 今回の主張を聴いて私も何かして生活を変えてみたい。
- 自分の生活を見直して今後の日常に活かしていきたい。
- どれも心に残り、障がいのある人の話がとても分かった。
- インターネットを使うときは相手を傷つけないように暮らしていきたい。障がいを抱えている人のつらい思いを理解して生きていきたい。
- 相手の気持ちも理解し、自分の気持ちも理解してもらう事が大切だと思った。
- ツイッターやインスタなどを心の目で判断出来るようにしたい。
- 他の学校の生徒の意見や思いを尊重することで新しい発見をすることができ、自分の新しい尊重の仕方を見つけることができた。
- 今の自分にはない将来の夢について真剣に考える事ができた。
- SNSの正しい使い方、いじめをしない事など、今回の主張を聞いて今後の生活に活かして行きたいと思った。
- 現在猫を飼っているが、家族の責任感と愛情があったから飼えていることを今回の主張で感じた。
- 人のコンプレックスを絶対に笑ってはいけない。現状を伝える事が大事。自分のコンプレックスをチャームポイントに。
- 悪いことだけを捉えるのではなく、その短所を長所に変えることも出来るのだと思った。
- 人との関わりを大切にしていきたい。動物たちを助けたい。
- 人の多様性を感じ、私たちはたくさんの個性や意見を認め合って生きてゆく事に取り組んでいきたい。
- 自分達の地域も人が少ないので、最後の方の発表が良かった。体育祭合同とは違うイベントなどを考えてみても良いと思った。

## 教職員

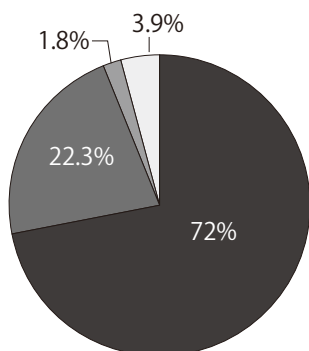
---

- 毎年視聴している。アトラクションが追加されており驚いた。
- このような質の良い主張を多くの少年少女が聴く機会があれば良いと感じた。
- 思った以上に中学生がしっかりとした意見を持っていて感心した。
- 司会については放送コンクール優勝者などの生徒が行った方が適切と感じた。あくまで生徒主体なので。
- SNSや障害関係の内容が多いと思った。中学生らしい素直な内容だった。

## 社会人

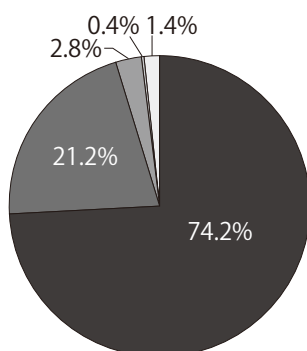
- 設備や衛生環境が良かった。
- すばらしい発表だった。心が洗われ私も頑張りたいと改めて思った。
- どの主張も生活の中で体験したことを豊かな表現力で発表され、とても素晴らしかった。中学生の感受性に心を洗われた。
- 心に響く発表で何度も目頭が熱くなった。特に「ありがとう」と誰にでも出来ることだが、その大切さを再認識させてもらった。
- 3年連続で来ているが、毎回考えさせられる。また来年も来たい。
- 初めてだがとても良かった。普段何気ないところに大切な事が隠れている事に気付かされた。
- 中学生ながらに感じる事、考える事、素直に思っていることの主張が素晴らしかった。
- 自らの言葉でまっすぐ伝えようとする姿勢が素晴らしかった。多くの中学生が見る機会があれば良かった。
- 中学生が色々考えながら日々過ごしている事、大切な事を持っていることを知ることができた。
- 自身の経験に基づいた主張は実感がこもっており、心を打った。社会の現状に目を向け、しっかり発表しており感動した。
- 今回の主張を他の一般の中学生に視聴させたらどう感じるだろうか？個人の主張、個人の夢でこの回が終了するのはもったいない。
- 過去この大会で主張された方の現在を知れたら更に意味のあるものになると思う。努力賞1人1人を壇上に上げてひとりずつ名前を呼ばれるのは素晴らしい。
- 中学生の発表に心を打たれた。
- 大変素晴らしい感動をもらった。ひとりでも多くの方に見てもらえればもっと明るい思いやりのある社会になるのではと希望を感じた。
- 手話通訳がありがたかった。障がいを持った方に分かる主張大会であるためにもこのような配慮を広めて頂きたい。
- 12人の生徒たち全員の主張が良かったと思う。
- 発表者は表現力豊かで表情も素晴らしかった。
- 案内チラシの交通案内はとても分かり易かった。
- 認知症になってしまった祖父の話が自分の祖母と重なり心に響いた。

今回の少年の主張全国大会は全体を通して満足できましたか。



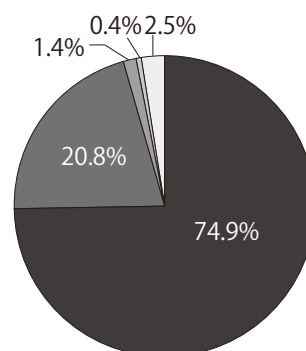
■ 満足  
■ やや満足  
■ やや不満  
■ 不満  
■ 未回答

現在の中学生の問題意識が高いことがわかった。



■ よくわかった  
■ 少しわかった  
■ あまりわからない  
■ わからない  
■ 未回答

少年の主張は中学生の健全育成に役立つと思った。



■ よく思う  
■ 少し思う  
■ あまり思わない  
■ 思わない  
■ 未回答

**少年の主張全国大会を振り返って**  
**<参考資料>**

## 「少年の主張全国大会」応募者数の推移

| 開催年度           | 開催回数   | 参加学校数 | 応募者総数<br>(人) | 中学校在学者数<br>(人) | 在学者数に対する<br>応募者の割合 |
|----------------|--------|-------|--------------|----------------|--------------------|
| 1979 (昭和 54) 年 | 第 1 回  | —     | —            | 約 496 万 7 千    | —                  |
| 1980 (昭和 55) 年 | 第 2 回  | —     | —            | 約 509 万 4 千    | —                  |
| 1981 (昭和 56) 年 | 第 3 回  | —     | 約 50,000     | 約 529 万 9 千    | 0.9%               |
| 1982 (昭和 57) 年 | 第 4 回  | —     | 約 62,000     | 約 562 万 4 千    | 1.1%               |
| 1983 (昭和 58) 年 | 第 5 回  | —     | 約 120,000    | 約 570 万 7 千    | 2.1%               |
| 1984 (昭和 59) 年 | 第 6 回  | —     | 約 250,000    | 約 582 万 9 千    | 4.3%               |
| 1985 (昭和 60) 年 | 第 7 回  | 3,524 | 387,272      | 約 599 万 0 千    | 6.5%               |
| 1986 (昭和 61) 年 | 第 8 回  | 3,649 | 269,518      | 約 610 万 6 千    | 4.4%               |
| 1987 (昭和 62) 年 | 第 9 回  | 4,162 | 536,526      | 約 608 万 1 千    | 8.8%               |
| 1988 (昭和 63) 年 | 第 10 回 | 4,011 | 661,234      | 約 589 万 6 千    | 11.2%              |
| 1989 (平成 元) 年  | 第 11 回 | 4,359 | 774,035      | 約 561 万 9 千    | 13.8%              |
| 1990 (平成 2) 年  | 第 12 回 | 4,103 | 701,183      | 約 536 万 9 千    | 13.1%              |
| 1991 (平成 3) 年  | 第 13 回 | 4,176 | 735,862      | 約 518 万 8 千    | 14.1%              |
| 1992 (平成 4) 年  | 第 14 回 | 4,185 | 846,735      | 約 503 万 7 千    | 16.8%              |
| 1993 (平成 5) 年  | 第 15 回 | 4,166 | 812,370      | 約 485 万 0 千    | 16.7%              |
| 1994 (平成 6) 年  | 第 16 回 | 4,165 | 826,575      | 約 468 万 1 千    | 17.7%              |
| 1995 (平成 7) 年  | 第 17 回 | 4,021 | 757,791      | 約 457 万 0 千    | 16.6%              |
| 1996 (平成 8) 年  | 第 18 回 | 4,333 | 765,071      | 約 452 万 7 千    | 16.9%              |
| 1997 (平成 9) 年  | 第 19 回 | 4,245 | 836,467      | 約 448 万 1 千    | 18.7%              |
| 1998 (平成 10) 年 | 第 20 回 | 4,170 | 858,146      | 約 438 万 1 千    | 19.6%              |
| 1999 (平成 11) 年 | 第 21 回 | 4,213 | 868,574      | 約 424 万 4 千    | 20.5%              |
| 2000 (平成 12) 年 | 第 22 回 | 4,187 | 802,185      | 約 410 万 4 千    | 19.5%              |
| 2001 (平成 13) 年 | 第 23 回 | 4,185 | 790,383      | 約 399 万 2 千    | 19.8%              |
| 2002 (平成 14) 年 | 第 24 回 | 4,059 | 693,114      | 約 392 万 9 千    | 17.6%              |
| 2003 (平成 15) 年 | 第 25 回 | 3,841 | 534,730      | 約 374 万 8 千    | 14.3%              |
| 2004 (平成 16) 年 | 第 26 回 | 3,822 | 551,723      | 約 366 万 4 千    | 15.1%              |
| 2005 (平成 17) 年 | 第 27 回 | 3,944 | 542,032      | 約 362 万 6 千    | 14.9%              |
| 2006 (平成 18) 年 | 第 28 回 | 4,015 | 544,120      | 約 360 万 2 千    | 15.1%              |
| 2007 (平成 19) 年 | 第 29 回 | 4,044 | 510,763      | 約 361 万 5 千    | 14.1%              |
| 2008 (平成 20) 年 | 第 30 回 | 4,018 | 498,029      | 約 359 万 2 千    | 13.9%              |
| 2009 (平成 21) 年 | 第 31 回 | 4,126 | 511,519      | 約 360 万 0 千    | 14.2%              |
| 2010 (平成 22) 年 | 第 32 回 | 4,204 | 515,232      | 約 355 万 8 千    | 14.4%              |
| 2011 (平成 23) 年 | 第 33 回 | 4,142 | 524,061      | 約 357 万 3 千    | 14.6%              |
| 2012 (平成 24) 年 | 第 34 回 | 4,127 | 550,112      | 約 356 万 7 千    | 15.4%              |
| 2013 (平成 25) 年 | 第 35 回 | 4,257 | 565,500      | 約 353 万 6 千    | 16.0%              |
| 2014 (平成 26) 年 | 第 36 回 | 4,172 | 563,777      | 約 350 万 4 千    | 16.1%              |
| 2015 (平成 27) 年 | 第 37 回 | 4,253 | 547,977      | 約 346 万 5 千    | 15.8%              |
| 2016 (平成 28) 年 | 第 38 回 | 4,278 | 555,559      | 約 340 万 6 千    | 16.3%              |
| 2017 (平成 29) 年 | 第 39 回 | 4,188 | 542,236      | 約 333 万 3 千    | 16.3%              |
| 2018 (平成 30) 年 | 第 40 回 | 4,298 | 522,229      | 約 325 万 1 千    | 16.1%              |
| 2019 (令和 元) 年  | 第 41 回 | 4,171 | 496,492      | 約 321 万 8 千    | 15.4%              |

※中学校在学者数は、文部科学省令和元年度学校基本調査（確定値）区分「中学校」を参考にしています。



# 「少年の主張全国大会」への都道府県出場状況

平成 21 年度から：■内閣総理大臣賞 ●文部科学大臣賞 ◆国立青少年教育振興機構理事長賞 ★審査委員会委員長賞

平成 19～20 年度：■内閣総理大臣賞 ●文部科学大臣奨励賞 ▼青少年育成国民会議会長賞

平成 13～18 年度：■内閣総理大臣賞 ●文部科学大臣奨励賞 ▼青少年育成国民会議会長特別賞 ★審査委員会特別賞

平成 12 年度まで：■内閣総理大臣賞 ◎総務庁長官賞 ●文部大臣賞 ★審査委員会特別賞 \*審査委員長奨励賞

※○は、上記受賞者以外の出場都道府県

| ブロック    | 県名      | S54 | S55 | S56 | S57 | S58 | S59 | S60 | S61 | S62 | S63 | H1 | H2 | H3 | H4 | H5 | H6 | H7 | H8 | H9 | H10 | H11 | H12 | H13 | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | 出場回数 | 県名 |     |    |     |     |     |     |      |     |     |      |     |     |     |
|---------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|------|----|-----|----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|-----|
| 北海道・東北  | 1 北海道   | ◎   | ○   | ○   |     |     |     |     | ○   |     |     |    |    |    | ●  | ○  | ○  | ○  |    |    |     | ○   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      | 10 | 北海道 |    |     |     |     |     |      |     |     |      |     |     |     |
|         | 2 青森県   |     |     |     |     |     | ○   |     |     | ○   |     |    |    |    |    | ■  |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     | 3  | 青森県 |     |     |     |      |     |     |      |     |     |     |
|         | 3 岩手県   | ○   | ○   | ○   |     |     | ○   | ○   |     |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    | ○  | ○   |     | ○   | ○   | ○   | ○   | ●   | ●   |     | ○   | ○   | ★   | ○   | ○   |     |     |     |     | ○   | ○   |     |    |      |    |     | 17 | 岩手県 |     |     |     |      |     |     |      |     |     |     |
|         | 4 宮城県   |     | ○   | ○   | ○   |     |     |     |     |     |     |    | ○  | ○  | ○  |    |    |    |    | ○  | ○   | ○   |     | ○   |     |     |     |     |     |     | ○   | ●   | ○   |     | ■   | ○   | ○   |     |     |     |     |    |      |    |     | ★  | 18  | 宮城県 |     |     |      |     |     |      |     |     |     |
|         | 5 秋田県   |     | ○   |     |     |     |     | ○   |     |     |     |    |    |    |    |    | ●  | ○  |    |    |     | ○   |     |     |     |     | ●   | ○   |     |     | ○   |     |     |     | ○   | ○   |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     | 11  | 秋田県 |     |      |     |     |      |     |     |     |
|         | 6 山形県   |     |     |     |     |     |     |     | ★   |     | ★   | ●  |    | ★  | ★  |    |    |    |    |    |     |     | ■   |     |     |     | ■   |     | ★   |     |     |     |     |     |     |     |     |     | ●   |     | ○   |    | ■    |    |     |    | 11  | 山形県 |     |     |      |     |     |      |     |     |     |
|         | 7 福島県   | ○   |     | ○   |     |     |     |     |     | ○   |     | ◎  |    |    |    | ★  |    |    |    |    |     |     | ○   | ○   |     |     |     | ★   |     |     | ○   | ○   |     |     |     | ■   | ★   |     |     |     |     |    |      |    |     |    | ○   |     | 13  | 福島県 |      |     |     |      |     |     |     |
| 関東・甲信越静 | 2 茨城県   | ○   | ○   | ○   |     |     |     |     |     |     |     | ●  |    |    |    |    | ★  | ◎  |    | ●  |     |     |     |     |     |     |     | ○   | ○   | ○   | ○   |     |     |     |     |     | ○   |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     | 12  | 茨城県 |      |     |     |      |     |     |     |
|         | 9 栃木県   | ◎   |     | ■   | ◎   |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    | ◎  | ○  |    |     |     | ■   |     |     |     |     | ★   |     | ○   |     |     |     |     | ○   |     | ○   | ○   |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     | 11  | 栃木県  |     |     |      |     |     |     |
|         | 10 群馬県  |     |     |     |     |     |     | ○   | ○   |     |     |    |    |    | *  |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     | ○   |     | ○   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     | ★  | ◆    |    |     |    |     |     | 7   | 群馬県 |      |     |     |      |     |     |     |
|         | 11 埼玉県  |     |     | ○   |     |     | ★   |     |     | ○   |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    | ○   |     |     | ○   |     |     |     |     |     |     | ●   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     | ○  |      |    |     |    |     |     | 9   | 埼玉県 |      |     |     |      |     |     |     |
|         | 12 千葉県  |     |     |     |     |     |     |     | ○   |     | ○   | ★  |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     | ■   | ○   |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     | 10  | 千葉県  |     |     |      |     |     |     |
|         | 13 東京都  | ○   | ○   | ○   |     |     |     | ○   |     | ○   | ★   |    |    | ★  |    | ○  | ○  | ★  | ■  |    | ◎   | ■   | ○   | ○   | ▼   |     |     |     |     |     | ○   | ◆   |     |     |     | ○   | ●   |     |     |     |     | ■  |      |    |     |    |     |     | 21  | 東京都 |      |     |     |      |     |     |     |
|         | 14 神奈川県 | ○   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |    | ★  | ★  | ○  |    |    |    |    | ★   |     |     |     |     | ○   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     | 7   | 神奈川県 |     |     |      |     |     |     |
|         | 15 新潟県  | ■   | ○   | ●   | ●   | ◎   |     |     |     | ★   | ★   | ★  | ◎  |    |    |    |    |    |    |    | ○   | ◎   |     |     |     |     |     |     |     |     | ○   | ★   | ○   | ●   |     |     |     |     |     | ★   | ■   |    |      |    |     |    |     |     |     |     | 17   | 新潟県 |     |      |     |     |     |
|         | 16 山梨県  | ○   |     |     |     |     |     | ○   | ○   | ○   | ○   | ○  |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     | ■   |     |     |     | ○   |     |     |     |     | ○   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     | ◆    | 11  | 山梨県 |      |     |     |     |
|         | 17 長野県  |     |     |     |     |     |     | ○   |     |     |     |    |    |    |    |    | ●  |    |    |    |     |     |     |     | ○   |     | ★   | ○   | ○   | ○   | ○   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      | 9   | 長野県 |      |     |     |     |
| 18 静岡県  |         |     |     |     |     |     | ○   |     |     | ◎   |     |    |    |    |    |    |    |    |    | ★  | ○   | ○   | ○   | ★   |     |     |     |     | ○   |     |     | ◆   | ■   | ○   |     |     |     |     |     |     |     |    | ★    | ★  |     |    |     |     |     | 13  | 静岡県  |     |     |      |     |     |     |
| 中部・近畿   | 3 富山県   | ○   | ○   | ◎   |     |     |     | ○   |     |     |     | ◎  |    |    | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ★  |     |     | ★   | ▼   |     |     | ○   | ▼   | ○   | ○   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      | 16  | 富山県 |      |     |     |     |
|         | 20 石川県  | ○   | ○   |     |     |     | ○   | ○   |     |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      | 8   | 石川県 |      |     |     |     |
|         | 21 福井県  |     |     |     |     |     |     |     | ○   | ●   | ◎   |    | ○  |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      | 8   | 福井県 |      |     |     |     |
|         | 22 愛知県  |     |     |     |     |     |     | ■   |     |     |     |    |    |    |    |    | ○  | ●  |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     | ○   | ○   | ▼   | ■   |     |     |     | ●   | ○   | ★   |     | ○   | ★  | ★    |    |     |    |     |     |     |     |      | 13  | 愛知県 |      |     |     |     |
|         | 23 三重県  | ○   |     | ○   |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    | ○  |    | ★  |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     | ○   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      | 9   | 三重県 |      |     |     |     |
|         | 24 岐阜県  | ◎   |     |     |     |     |     |     |     | ○   |     |    |    |    | ○  | ○  |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     | ▼   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      |     | 8   | 岐阜県  |     |     |     |
|         | 25 滋賀県  |     |     |     |     |     | ○   | ○   | ○   |     |     |    | ★  | ○  |    |    |    |    |    |    |     |     |     | ●   |     |     |     | ○   | ○   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      |     | 11  | 滋賀県  |     |     |     |
|         | 26 京都府  |     |     |     |     |     |     |     | ○   | ○   | ★   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      | 9   | 京都府 |      |     |     |     |
|         | 27 大阪府  | ◎   | ●   | ○   |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      |     | 10  | 大阪府  |     |     |     |
|         | 28 兵庫県  |     | ○   | ◎   |     |     |     |     | ○   | ○   | ○   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      |     |     | 13   | 兵庫県 |     |     |
|         | 29 奈良県  | ○   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    | ○  | ★  |    |    |    |    |    |    |     | ★   |     |     |     | ●   |     |     |     |     | ○   |     | ★   | ○   |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      |     |     | 13   | 奈良県 |     |     |
| 30 和歌山県 |         |     |     |     |     |     | ○   |     | ○   | ★   |     |    |    | ★  |    |    |    |    |    |    |     |     |     | ★   | ○   |     |     |     | ○   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      |     | 8   | 和歌山県 |     |     |     |
| 中国・四国   | 31 鳥取県  |     |     |     |     |     |     | ○   |     | ●   |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     | ○   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      |     | 4   | 鳥取県  |     |     |     |
|         | 32 島根県  |     |     |     |     | ○   | ○   | ◎   |     |     |     |    | ■  |    |    |    | ○  | ●  | ◎  |    |     |     |     |     | ○   | ○   | ○   | ○   | ○   | ○   | ○   | ★   | ○   |     |     | ★   |     | ○   | ●   | ●   |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      |     | 20  | 島根県  |     |     |     |
|         | 33 岡山県  | ◎   |     |     |     |     |     |     | ◎   | ○   | ○   |    |    | ★  | ■  |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     | ○   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      |     |     |      | 10  | 岡山県 |     |
|         | 34 広島県  | ◎   | ●   |     |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      |     |     |      | 8   | 広島県 |     |
|         | 35 山口県  |     | ○   |     |     |     | ○   |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     | ◎   |     |     |     |     |     | ■   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      |     |     | 7    | 山口県 |     |     |
|         | 36 徳島県  |     |     | ○   |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     | ★   | ○   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      |     |     | 8    | 徳島県 |     |     |
|         | 37 香川県  | ○   | ●   |     |     |     |     | ○   | ○   |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      |     |     |      | 7   | 香川県 |     |
|         | 38 愛媛県  | ○   | ■   |     |     |     |     |     |     | ★   | ■   | ■  | ■  | ○  | ○  | ○  | ○  | ★  |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     | ▼   |     | ◆   |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      |     |     | 14   | 愛媛県 |     |     |
|         | 39 高知県  |     |     |     |     |     |     | ■   |     |     |     | ○  |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      |     |     |      | 7   | 高知県 |     |
| 九州      | 40 福岡県  | ○   | ○   |     |     |     | ○   |     |     |     |     |    |    |    |    |    | ○  | ★  |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      |     |     | 9    | 福岡県 |     |     |
|         | 41 佐賀県  | ◎   | ○   |     |     |     |     |     |     |     |     |    | ■  | ●  |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      |     |     |      | 8   | 佐賀県 |     |
|         | 42 長崎県  |     |     |     |     | ■   | ●   | ■   |     |     |     |    |    | ★  |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      |     |     |      |     | 10  | 長崎県 |
|         | 43 熊本県  |     |     |     |     |     |     | ○   | ○   |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     | ◎   | ○   | ○   |     |     |     |     |     | ○   | ●   | ■   | ○   |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      |     |     |      |     | 15  | 熊本県 |
|         | 44 大分県  | ○   |     |     |     |     | ○   | ○   |     |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      |     |     |      |     | 9   | 大分県 |
|         | 45 宮崎県  |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      |     |     |      |     | 10  | 宮崎県 |
|         | 46 鹿児島県 |     | ◎   | ○   |     |     |     |     |     | ●   |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      |     |     |      |     |     | 14  |
| 47 沖縄県  | ○       |     |     |     |     |     |     |     | ★   | ○   |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      |     |     |      |     | 13  | 沖縄県 |
| 合計      |         | 16  | 11  | 12  | 12  | 13  | 12  | 12  | 13  |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |      |    |     |    |     |     |     |     |      |     |     |      |     |     |     |

# 「少年の主張全国大会」三賞等受賞者一覧

| 回数          | 年度     | 受賞名                                                            | 都道府県名           | 学校名         | 学年            | 氏名                                          | 発表テーマ                  |                       |           |       |                           |
|-------------|--------|----------------------------------------------------------------|-----------------|-------------|---------------|---------------------------------------------|------------------------|-----------------------|-----------|-------|---------------------------|
| 第1回         | 昭和54年度 | 総理府総務長官賞<br>総理府総務長官賞<br>総理府総務長官賞<br>総理府総務長官賞<br>総理府総務長官賞       | 北海道             | 利尻町立峯形中学校   | 3年            | 池原広文                                        | 校門に思う                  |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 塩谷町立大宮中学校   | 3年            | 小堀芳広                                        | 私の希望                   |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 美山町立美山北中学校  | 1年            | 尾関良子                                        | 私の家庭                   |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 豊中市立第5中学校   | 1年            | 長岡信男                                        | はばだけ未来に                |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 倉敷市立黒崎中学校   | 1年            | 中野恵美                                        | 私の訴えたいこと               |                       |           |       |                           |
| 第2回         | 昭和55年度 | 内閣総理大臣賞<br>総理府総務長官賞<br>文部大臣賞                                   | 新潟              | 村上立村上第1中学校  | 3年            | 江見寛子                                        | 今、私達にできること             |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 福山市立城東中学校   | 3年            | 森 雅子                                        | 生きる                    |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 三野町立三野津中学校  | 3年            | 佐川圭三                                        | 「やべち」に学ぶ               |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 第3回         | 昭和56年度        | 内閣総理大臣賞<br>総理府総務長官賞<br>文部大臣賞                | 愛媛                     | 松山市立雄新中学校             | 3年        | 早川明美  | 心の糧                       |
|             |        |                                                                |                 |             |               |                                             |                        | 鹿児島市立西紫原中学校           | 2年        | 寺田美重  | 身障者として訴えたいこと              |
| 堺市立庭代台中学校   | 3年     | 寺西洋子                                                           | 受験・仲間・心         |             |               |                                             |                        |                       |           |       |                           |
| 第4回         | 昭和57年度 | 内閣総理大臣賞<br>総理府総務長官賞<br>文部大臣賞                                   | 栃木              |             |               |                                             |                        | 佐野市立城東中学校             | 3年        | 松本由紀子 | 私は教師になりたい                 |
|             |        |                                                                |                 |             |               |                                             |                        | 神戸市立御影中学校             | 1年        | 和田浩介  | 少年として訴えたいこと～エチオピアで見たことから～ |
|             |        |                                                                |                 | 呉市立両城中学校    | 2年            | 竹下 愛                                        | 私の決心                   |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 第5回         | 昭和58年度        | 内閣総理大臣賞<br>総理府総務長官賞<br>文部大臣賞                | 高知                     | 伊野町立伊野中学校             | 1年        | 山勢憲一郎 | 心をこめて「ありがとう」              |
|             |        |                                                                |                 |             |               |                                             |                        | 宇都宮市立星が丘中学校           | 3年        | 福田寿美江 | 両親に学ぶ                     |
| 六日市町立六日町中学校 | 3年     | 関 昭典                                                           | 今、学校で考えていること    |             |               |                                             |                        |                       |           |       |                           |
| 第6回         | 昭和59年度 | 内閣総理大臣賞<br>総務庁長官賞<br>文部大臣賞                                     | 長崎              |             |               |                                             |                        | 有家町立有家中学校             | 2年        | 松島吉宏  | 鳴らないチャイム                  |
|             |        |                                                                |                 |             |               |                                             |                        | 富山                    | 小杉町立小杉中学校 | 1年    | 定司美恵子                     |
|             |        |                                                                |                 | 新潟          | 巻町立巻西中学校      | 3年                                          | 小林三枝                   | 乗り越えて今                |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 第7回         | 昭和60年度        | 内閣総理大臣賞<br>総務庁長官賞<br>文部大臣賞 特別賞<br>文部大臣賞 特別賞 | 愛知                     | 名古屋立立宮中学校             | 3年        | 大島幸子  | 今だから言える                   |
|             |        |                                                                |                 |             |               |                                             |                        | 黒川村立黒川中学校             | 3年        | 中野克英  | 寺に生まれて                    |
| 西有家町立西有家中学校 | 3年     | 安達かよ                                                           | その時私は           |             |               |                                             |                        |                       |           |       |                           |
| 秩父市立大田中学校   | 2年     | 中田昌伸                                                           | 僕の家「酪農家の跡継ぎとして」 |             |               |                                             |                        |                       |           |       |                           |
| 第8回         | 昭和61年度 | 内閣総理大臣賞<br>総務庁長官賞<br>文部大臣賞<br>特別賞<br>特別賞                       | 香川              |             |               |                                             |                        | 丸亀市立南中学校              | 1年        | 垂水希実枝 | ありのままの姿で                  |
|             |        |                                                                |                 | 出雲市立出雲第二中学校 | 3年            | 米原のぞみ                                       | 「のぞみって・・・」母の言葉に生きる     |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 末吉町立末吉中学校   | 2年            | 白鳥哲也                                        | 手話から学んだこと              |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 山形          | 長井市立北中学校      | 3年                                          | 佐藤真理                   | 一通の手紙から               |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 沖縄          | 名護市立東江中学校     | 1年                                          | 大城洋子                   | 目標に向かって               |           |       |                           |
| 第9回         | 昭和62年度 | 内閣総理大臣賞<br>総務庁長官賞<br>文部大臣賞<br>特別賞                              | 長崎              | 県立野崎養護学校中学部 | 2年            | 野田綾子                                        | 心で握手                   |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 倉敷市立新田中学校   | 1年            | 岡田良平                                        | 僕の弟                    |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 武生市立武生第一中学校 | 2年            | 谷口敏和                                        | いじめられっ子を教え!            |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 津南町立津南中学校   | 3年            | 小野寺優子                                       | 恵福園のおばあちゃん             |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 伊予市立港南中学校   | 3年            | 一色寿恵                                        | 創り出す喜びを胸に              |                       |           |       |                           |
| 第10回        | 昭和63年度 | 内閣総理大臣賞<br>総務庁長官賞<br>文部大臣賞<br>特別奨励賞<br>特別奨励賞<br>特別奨励賞          | 愛媛              | 松山市立勝山中学校   | 3年            | 瀧本則隆                                        | 心をみがく～ロシア人基地の清掃活動を通して～ |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 島田市立島田第一中学校 | 3年            | 大石寿宏                                        | 国際化を考える                |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 東郷町立東郷中学校   | 3年            | 石賀正元                                        | 生きる幸せ                  |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 山形          | 平田町立飛鳥中学校     | 3年                                          | 富樫美起                   | 国際社会への目覚め             |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 東京          | 私立桐朋女子中学校     | 3年                                          | 正木 綾                   | 勉強より大事な勉強             |           |       |                           |
| 第11回        | 平成元年度  | 内閣総理大臣賞<br>総務庁長官賞<br>文部大臣賞<br>特別奨励賞<br>特別奨励賞                   | 佐賀              | 私立佐賀清和中学校   | 3年            | 久富 薫                                        | 地球にやさしく                |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 福井          | 鯖江市立中央中学校     | 2年                                          | 吉田正樹                   | 努力のすばらしさ              |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 山形          | 鶴岡市立鶴岡第四中学校   | 3年                                          | 阿部 幸                   | 生きているということ            |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 千葉          | 大多喜町立大多喜中学校   | 2年                                          | 張本敏美                   | 私の名前は張本敏美             |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 和歌山         | 枕崎町立松浜中学校     | 3年                                          | 石黒葉子                   | 我が家の驂                 |           |       |                           |
| 第12回        | 平成2年度  | 内閣総理大臣賞<br>総務庁長官賞<br>文部大臣賞<br>特別奨励賞<br>特別奨励賞                   | 愛媛              | 今治市立南中学校    | 2年            | 馬越裕美                                        | 祖父の看病を通して              |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 福島市立福島第一中学校 | 3年            | 市原 亮                                        | 部活動から学んだもの             |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 水戸市立国田中学校   | 3年            | 宮田敦子                                        | 自然を大切に                 |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 新潟          | 新井市立新井中学校     | 3年                                          | 伊藤よし子                  | この手にかける私の願い           |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 滋賀          | 栗東町立栗東西中学校    | 3年                                          | 勝西紀之                   | 人のためになること・・・          |           |       |                           |
| 第13回        | 平成3年度  | 内閣総理大臣賞<br>総務庁長官賞<br>文部大臣賞<br>審査委員会特別賞<br>審査委員会特別賞<br>審査委員会特別賞 | 島根              | 三隅町立三隅中学校   | 3年            | 吉村幸雄                                        | ぼくの夢                   |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 新潟          | 弥彦町立弥彦中学校     | 3年                                          | 皆川辰男                   | 長男の宿命から               |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 佐賀          | 私立佐賀清和中学校     | 2年                                          | 城島澄子                   | 地球のみみだ                |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 山形          | 山形大学教育学部附属中学校 | 3年                                          | 佐藤節子                   | 今、私達が街をつくる            |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 東京          | 多摩市立立見中学校     | 3年                                          | 末吉優子                   | ボランティア活動と本当の目         |           |       |                           |
| 第14回        | 平成4年度  | 内閣総理大臣賞<br>総務庁長官賞<br>文部大臣賞<br>審査委員会特別賞<br>審査委員会特別賞<br>審査委員会特別賞 | 愛媛              | 松山市立西中学校    | 2年            | 泉 正徳                                        | 苦しみも悲しみも肥料に            |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 魚津市立西部中学校   | 2年            | 高谷朋花                                        | 七十点の両親が最高              |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 北海道         | 弟子屈町立弟子屈中学校   | 3年                                          | 横川 心                   | 命、育て                  |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 山形          | 山形大学教育学部附属中学校 | 3年                                          | 伊豆田あかり                 | 心と外見                  |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 神奈川         | 横浜市立洋光台第二中学校  | 3年                                          | 山谷明子                   | 私の夢                   |           |       |                           |
| 第15回        | 平成5年度  | 内閣総理大臣賞<br>総務庁長官賞<br>文部大臣賞<br>審査委員会特別賞<br>審査委員会特別賞<br>審査委員会特別賞 | 長崎              | 福江市立福江中学校   | 1年            | 山長山富                                        | 心の鐘                    |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 宮崎          | 宮崎市立宮崎東中学校    | 3年                                          | 泉裕一郎                   | 待っていた学校週五日制           |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 和歌山         | 和歌山市立大内中学校    | 2年                                          | 大久保礼子                  | 今を大切に                 |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 石垣市立石垣中学校   | 3年            | 金城紫穂                                        | めぐもり                   |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 更埴市立屋代中学校   | 3年            | 松沢かおる                                       | ブルタブと私                 |                       |           |       |                           |
| 第16回        | 平成6年度  | 内閣総理大臣賞<br>総務庁長官賞<br>文部大臣賞<br>審査委員会特別賞                         | 福島              | 本宮町立本宮第一中学校 | 3年            | 国分かおり                                       | 「生きる」ということ             |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 下津町立下津第二中学校 | 1年            | 浜 英樹                                        | 僕の育った塩津で               |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 岡山          | 倉敷市立福田南中学校    | 1年                                          | 阪本真一                   | レイ = アイクマンそれは本当の友達    |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 群馬          | 県立盲学校中学部      | 3年                                          | 長峰美枝                   | 私の夢                   |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 沖縄          | 沖縄市立山内中学校     | 3年                                          | 稲嶺彩子                   | 夢を持って                 |           |       |                           |
| 第17回        | 平成7年度  | 内閣総理大臣賞<br>総務庁長官賞<br>文部大臣賞<br>審査委員会特別賞                         | 栃木              | 私立作新学院中等部   | 3年            | 高内めぐみ                                       | 父が教えてくれたこと             |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 平鹿町立醍醐中学校   | 3年            | 菅原嘉治                                        | りんご農家に生まれて             |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 茨城          | 協和町立協和中学校     | 3年                                          | 河田友里                   | 力強く、わたしは生きたい          |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 岡山          | 倉敷市立西中学校      | 1年                                          | 小野めぐみ                  | 私の戦い                  |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 茨城          | 協和町立協和中学校     | 2年                                          | 中里成喜                   | 自分自身に克つために            |           |       |                           |
| 第18回        | 平成8年度  | 内閣総理大臣賞<br>総務庁長官賞<br>文部大臣賞<br>審査委員会特別賞<br>審査委員会特別賞             | 愛知              | 旭町立旭中学校     | 3年            | 安藤佳代子                                       | 旭の町に生きる                |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 東京          | 荒川区立日暮里中学校    | 1年                                          | 高 宗哲                   | 僕たちにできること             |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 福岡          | 勝山町立勝山中学校     | 2年                                          | 義経千晶                   | 勇気を                   |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 東京          | 台東区立下谷中学校     | 3年                                          | 岡村朋子                   | 蜘蛛の巣                  |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 山鹿市立鶴城中学校   | 3年            | 神崎真由                                        | 私の試験                   |                       |           |       |                           |
| 第19回        | 平成9年度  | 内閣総理大臣賞<br>総務庁長官賞<br>文部大臣賞<br>審査委員会特別賞<br>審査委員会特別賞             | 山梨              | 西郷町立西郷南中学校  | 1年            | 常角和代                                        | 広い目で                   |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 沼津市立第五中学校   | 3年            | 露木義章                                        | A先輩から学んだこと             |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 三重          | 私立皇学館中学校      | 2年                                          | 宮本真衣                   | 海の命を守る～おばあさんに教えられたこと～ |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 山梨          | 韮崎市立韮崎東中学校    | 3年                                          | 高保かおり                  | 在宅介護から考えたこと           |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 山梨          | 西郷町立西郷南中学校    | 3年                                          | 吉田 修                   | きゅうり                  |           |       |                           |
| 第20回        | 平成10年度 | 内閣総理大臣賞<br>総務庁長官賞<br>文部大臣賞<br>審査委員会特別賞                         | 山梨              | 有明町立宇都中学校   | 3年            | 坂口潤成                                        | 僕の町 - 僕の夢              |                       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 山梨          | 山北町立清水中学校     | 1年                                          | 坂尾一興                   | 中学生になって               |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 奈良          | 生駒市立緑ヶ丘中学校    | 1年                                          | 中地まりあ                  | 自然の魂                  |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 山梨          | 長井市立長井南中学校    | 3年                                          | 鈴木智恵                   | ピナアダム、私の道しるべとして       |           |       |                           |
|             |        |                                                                |                 | 徳山          | 徳山市立岐陽中学校     | 3年                                          | 川崎祐樹                   | 同じ人間だから               |           |       |                           |
| 阿見町立阿見中学校   | 3年     | 湯原瑞紀                                                           | みんなで学校を創ろう      |             |               |                                             |                        |                       |           |       |                           |
| 鹿川町立鹿川中学校   | 3年     | 竹本咲子                                                           | うちは五人家族         |             |               |                                             |                        |                       |           |       |                           |

| 回数           | 年度     | 受賞名                                                                          | 都道府県名                            | 学校名                 | 学年 | 氏名         | 発表テーマ                  |
|--------------|--------|------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|---------------------|----|------------|------------------------|
| 第21回         | 平成11年度 | 内閣総理大臣賞<br>総務庁長官賞<br>文部大臣賞<br>審査委員会特別賞                                       | 栃木<br>東京<br>滋賀<br>岡山             | 西那須野町立西那須野中学校       | 3年 | 松林朝子       | 家族と支えあう中で              |
|              |        |                                                                              |                                  | 港区立青山中学校            | 3年 | 秋田絵麻       | 本当の幸せとは・・・             |
|              |        |                                                                              |                                  | 石部町立石部中学校           | 3年 | 中川智香子      | さわやかな学校をめざして～トイレからの発信～ |
|              |        |                                                                              |                                  | 倉敷市立西中学校            | 3年 | 花田春香       | あなたは、我が日本愛していますか？      |
| 第22回         | 平成12年度 | 内閣総理大臣賞<br>総務庁長官賞<br>文部大臣奨励賞<br>審査委員会特別賞                                     | 鹿児島<br>新潟<br>奈良<br>富山            | 喜界町立第二中学校           | 3年 | 前泊佑香       | 鳥うたの心を伝えたい             |
|              |        |                                                                              |                                  | 六日町立六日町中学校          | 1年 | 天海琢磨       | ぼくは僕                   |
|              |        |                                                                              |                                  | 私立智辯学園中学校           | 1年 | 北側真由佳      | 私のバリアフリーの第一歩           |
|              |        |                                                                              |                                  | 高岡市立南星中学校           | 3年 | 炭谷英信       | 言葉の思い出から学んだもの          |
| 第23回         | 平成13年度 | 内閣総理大臣賞<br>文部科学大臣奨励賞<br>国民会議会長特別賞<br>審査委員会特別賞<br>審査委員会特別賞                    | 東京<br>大阪<br>鹿児島<br>静岡<br>和歌山     | 足立区立第十四中学校          | 1年 | 荒谷真理子      | 努力が教えてくれた事             |
|              |        |                                                                              |                                  | 大阪明星学園明星中学校         | 3年 | 植田倫啓       | 「ケータイ」と「僕」             |
|              |        |                                                                              |                                  | 志布志町立志布志中学校         | 2年 | 西国領君嘉      | 日本の心を舞う                |
|              |        |                                                                              |                                  | 下田市立稻生沢中学校          | 3年 | 河井千佳       | 私の個性                   |
| 第24回         | 平成14年度 | 内閣総理大臣賞<br>文部科学大臣奨励賞<br>国民会議会長特別賞<br>審査委員会特別賞                                | 長崎<br>秋田<br>沖縄<br>長野             | 島原市立第三中学校           | 3年 | 西 誠        | これから頑張るんだ              |
|              |        |                                                                              |                                  | 神岡町立平和中学校           | 2年 | 杉澤綾香       | ホームステイとホストファミリー体験記     |
|              |        |                                                                              |                                  | 浦添市立港川中学校           | 3年 | 遠藤次オースティン誠 | ダブルの人生を過ごしたい           |
|              |        |                                                                              |                                  | 大町市立第一中学校           | 3年 | 柴原理志       | 揺るがない思い                |
| 第25回         | 平成15年度 | 内閣総理大臣賞<br>文部科学大臣奨励賞<br>国民会議会長特別賞<br>審査委員会特別賞<br>審査委員会特別賞                    | 山形<br>宮崎<br>岐阜<br>福島<br>富山       | 山形市立蔵王第一中学校         | 2年 | 澤田充史       | 僕の見たヒロシマ               |
|              |        |                                                                              |                                  | 山之口町立山之口中学校         | 1年 | 徳留彩乃       | 私になりました                |
|              |        |                                                                              |                                  | 七宗町立神淵中学校           | 2年 | 上野由貴       | 世界が一つになるために            |
|              |        |                                                                              |                                  | 霊山町立霊山中学校           | 3年 | 佐藤寛和       | ハンデなんか怖くない - 僕の挑戦 -    |
| 第26回         | 平成16年度 | 内閣総理大臣賞<br>文部科学大臣奨励賞<br>国民会議会長特別賞<br>審査委員会特別賞<br>審査委員会特別賞                    | 山口<br>岩手<br>富山<br>栃木<br>徳島       | 長門市立深川中学校           | 2年 | 中嶋詩織       | とも生きる                  |
|              |        |                                                                              |                                  | 北上市立南中学校            | 3年 | 菅原周平       | 嘶の言葉と言葉の話              |
|              |        |                                                                              |                                  | 真見市立南部中学校           | 2年 | 沈道 静       | 茶道の香りが教えてくれたこと         |
|              |        |                                                                              |                                  | 真岡市立真岡中学校           | 3年 | 菱沼優希       | 受け継がれる命 - その重さを・・・     |
| 第27回         | 平成17年度 | 内閣総理大臣賞<br>文部科学大臣奨励賞<br>国民会議会長特別賞<br>審査委員会特別賞                                | 宮崎<br>岩手<br>東京<br>山形             | 三股町立三股中学校           | 3年 | 福田聖伍       | 命をつなくアサガオ              |
|              |        |                                                                              |                                  | 盛岡市立上田中学校           | 3年 | 坂本潤奈       | 私は地球人                  |
|              |        |                                                                              |                                  | 墨田区立立花中学校           | 3年 | 渡辺隆介       | 今に生かそう「江戸仕草」を          |
|              |        |                                                                              |                                  | 南陽市立宮内中学校           | 3年 | 平 暁祐       | 「とんと音」を未来へ             |
| 第28回         | 平成18年度 | 内閣総理大臣賞<br>文部科学大臣奨励賞<br>国民会議会長特別賞                                            | 鹿児島<br>熊本<br>愛知                  | 始良町立山田中学校           | 1年 | 新園祐花       | 今を生きる私                 |
|              |        |                                                                              |                                  | 南阿蘇村立白水中学校          | 3年 | 後藤奈々       | 私と沖縄                   |
|              |        |                                                                              |                                  | 豊田市立崇徳中学校           | 3年 | 蔭ふんてい      | 為何公、そして謝々              |
|              |        |                                                                              |                                  | 豊田市立美里中学校           | 3年 | 武田聡美       | 「命」を生きる人との出会い          |
| 第29回         | 平成19年度 | 内閣総理大臣賞<br>文部科学大臣奨励賞<br>国民会議会長特別賞                                            | 愛知<br>埼玉<br>愛媛                   | 加須市立昭和中学校           | 2年 | 町田卓哉       | 何だっというんだあ              |
|              |        |                                                                              |                                  | 内子町立大瀬中学校           | 1年 | 東影喜子       | 猪の涙                    |
|              |        |                                                                              |                                  | 産山村立産山中学校           | 3年 | 中村那津三      | なぜ母牛「あやか」は死んだのか        |
|              |        |                                                                              |                                  | 石垣市立大濱中学校           | 3年 | 新城利絵       | 島の心をメロディにのせて           |
| 第30回         | 平成20年度 | 内閣総理大臣賞<br>文部科学大臣奨励賞<br>国民会議会長特別賞                                            | 熊本<br>沖縄<br>富山                   | 高岡市立志貴野中学校          | 3年 | 小久保緑       | 田んぼと私                  |
|              |        |                                                                              |                                  | 竹田市立竹田中学校           | 3年 | 廣瀬岳        | メッセージ ～特攻基地・知覧～        |
|              |        |                                                                              |                                  | 気仙沼市立気仙沼中学校         | 3年 | 志田晶        | 私も「小さな私」となって           |
|              |        |                                                                              |                                  | 牧之原市立相良中学校          | 3年 | 瀧谷美紀       | 支えられた私                 |
| 第31回         | 平成21年度 | 内閣総理大臣賞<br>文部科学大臣賞<br>国立青少年教育振興機構理事長賞<br>審査委員会委員長賞<br>審査委員会委員長賞<br>審査委員会委員長賞 | 大分<br>宮城<br>静岡<br>新潟<br>奈良<br>島根 | 村上市立平林中学校           | 3年 | 小池尚輝       | 音のない世界、声のない会話          |
|              |        |                                                                              |                                  | 智辯学園奈良カレッジ中学部       | 3年 | 小川歌穂       | スマイルと真心はタダ             |
|              |        |                                                                              |                                  | 安来市立広瀬中学校           | 3年 | 田邊光        | 故郷を思っ                  |
|              |        |                                                                              |                                  | 沼津市立第三中学校           | 3年 | 内村繪笑       | 命                      |
| 第32回         | 平成22年度 | 内閣総理大臣賞<br>文部科学大臣賞<br>国立青少年教育振興機構理事長賞<br>審査委員会委員長賞                           | 静岡<br>愛知<br>愛媛<br>長崎             | 豊田市立足助中学校           | 3年 | 藤井成一       | 父の言葉の意味を知って            |
|              |        |                                                                              |                                  | 新居浜市立西中学校           | 3年 | 飯尾まい       | 命のチキンカレー               |
|              |        |                                                                              |                                  | 佐世保市立黒島中学校          | 3年 | 松本朋之       | 黒島だからこそ                |
|              |        |                                                                              |                                  | いわき市立勿来第二中学校        | 3年 | 瓜生健悟       | 震災を乗り越えて               |
| 第33回         | 平成23年度 | 内閣総理大臣賞<br>文部科学大臣賞<br>国立青少年教育振興機構理事長賞<br>審査委員会委員長賞                           | 福島<br>新潟<br>東京<br>岩手             | 柏崎市立第一中学校           | 3年 | 西澤望美       | 過去と今と未来を生きる            |
|              |        |                                                                              |                                  | 葛飾区立常盤中学校           | 2年 | 齊藤麗香       | 家族の本当の意味               |
|              |        |                                                                              |                                  | 陸前高田市立気仙中学校         | 3年 | 小笠原和恵      | 高らかに 響け                |
|              |        |                                                                              |                                  | 千葉県立千葉中学校           | 3年 | 山本恭輔       | リアルに人とつながるということ        |
| 第34回         | 平成24年度 | 内閣総理大臣賞<br>文部科学大臣賞<br>国立青少年教育振興機構理事長賞<br>審査委員会委員長賞                           | 福井<br>熊本<br>福島                   | 福井県立官学校             | 3年 | 山本穰梨       | 私の夢 私の生き方              |
|              |        |                                                                              |                                  | 宇土市立網田中学校           | 3年 | 加来萌        | 父と私がふるさと網田を愛する理由       |
|              |        |                                                                              |                                  | いわき市立中央台北中学校        | 3年 | 山野邊のどか     | 助け合いのバトン               |
|              |        |                                                                              |                                  | 気仙沼市立小原中学校          | 3年 | 梶川裕登       | 忘れないために                |
| 第35回         | 平成25年度 | 内閣総理大臣賞<br>文部科学大臣賞<br>国立青少年教育振興機構理事長賞<br>審査委員会委員長賞                           | 宮城<br>大分<br>兵庫<br>愛知             | 杵築市立杵築中学校           | 3年 | 大柳涼子       | マイファミリー                |
|              |        |                                                                              |                                  | 赤穂市立有年中学校           | 3年 | 松本優香       | 十五歳の決意                 |
|              |        |                                                                              |                                  | 豊田市立石野中学校           | 3年 | 安藤明日香      | 伝統を受け継ぐ                |
|              |        |                                                                              |                                  | 飯塚市立飯塚第一中学校         | 3年 | 山本由菜       | 子は宝～自分の命より大切なもの        |
| 第36回         | 平成26年度 | 内閣総理大臣賞<br>文部科学大臣賞<br>国立青少年教育振興機構理事長賞<br>審査委員会委員長賞<br>審査委員会委員長賞              | 福岡<br>山形<br>高知<br>島根<br>沖縄       | 酒田市立第六中学校           | 3年 | 菅原すみれ      | 唄い継ぐ想い                 |
|              |        |                                                                              |                                  | 中土佐町立久礼中学校          | 2年 | 林萌桃        | いのちの花・咲いて              |
|              |        |                                                                              |                                  | 吉賀町立柿木中学校           | 3年 | 河野鉄太       | 鬼退治                    |
|              |        |                                                                              |                                  | 那覇市立那覇中学校           | 2年 | 高橋天洋       | 「中国人」という名の偏見           |
| 第37回         | 平成27年度 | 内閣総理大臣賞<br>文部科学大臣賞<br>国立青少年教育振興機構理事長賞<br>審査委員会委員長賞<br>審査委員会委員長賞              | 広島<br>東京<br>大阪<br>群馬<br>沖縄       | 広島市立国泰寺中学校          | 2年 | 藤井志穂       | 語る思いと聞く思い              |
|              |        |                                                                              |                                  | 板橋区立中央中学校           | 3年 | 張哲語        | 中国と日本の狭間にて             |
|              |        |                                                                              |                                  | 堺市立登美丘中学校           | 3年 | 伊勢川翠       | 素晴らしい奇跡の集集体            |
|              |        |                                                                              |                                  | 明照学園樹徳中学校           | 3年 | 黎沼花音       | 10万分の1.5の奇跡            |
| 第38回         | 平成28年度 | 内閣総理大臣賞<br>文部科学大臣賞<br>国立青少年教育振興機構理事長賞<br>審査委員会委員長賞                           | 岐阜<br>広島<br>三重<br>新潟             | 八重瀬町立東風平中学校         | 3年 | 河野水穂       | 乗り越えたからこそ見えたもの         |
|              |        |                                                                              |                                  | 関市立旭ヶ丘中学校           | 3年 | 大見夏鈴       | 障がいは個性                 |
|              |        |                                                                              |                                  | 広島市立二葉中学校           | 2年 | 牟田悠一郎      | 戦争を知ること                |
|              |        |                                                                              |                                  | 四日市市立羽津中学校          | 3年 | 中前純奈       | 伝えたいこと                 |
| 第39回         | 平成29年度 | 内閣総理大臣賞<br>文部科学大臣賞<br>国立青少年教育振興機構理事長賞<br>審査委員会委員長賞<br>審査委員会委員長賞              | 新潟<br>島根<br>群馬<br>愛知<br>鹿児島      | 新潟県立燕中等教育学校         | 2年 | 平澤幸芽       | 仲間を守る一言                |
|              |        |                                                                              |                                  | 海士町立海士中学校           | 3年 | 井手上漠       | カラフル                   |
|              |        |                                                                              |                                  | 太田市立南中学校            | 3年 | 森田愛美       | 私は、私の足で生きていく。          |
|              |        |                                                                              |                                  | 浦郡市立浦郡中学校           | 3年 | 荒島彩乃       | たった一言が言えなくて            |
| 第40回         | 平成30年度 | 内閣総理大臣賞<br>文部科学大臣賞<br>国立青少年教育振興機構理事長賞<br>審査委員会委員長賞<br>審査委員会委員長賞              | 山形<br>島根<br>熊本<br>静岡<br>愛知       | 鹿児島市立坂元中学校          | 2年 | 松元一真       | 本当の平和へ                 |
|              |        |                                                                              |                                  | 天童市立第三中学校           | 3年 | 岩瀬礼姫       | 人生を駆け抜ける               |
|              |        |                                                                              |                                  | 隠岐の島町立西郷中学校         | 1年 | 高梨はな       | ダブル                    |
|              |        |                                                                              |                                  | 御船町立御船中学校           | 3年 | 坂本優        | 響け！幸せのメロディー            |
| 第41回         | 令和元年度  | 内閣総理大臣賞<br>文部科学大臣賞<br>国立青少年教育振興機構理事長賞<br>審査委員会委員長賞<br>審査委員会委員長賞              | 東京<br>熊本<br>山梨<br>宮城<br>静岡       | 筑波大学附属視覚特別支援学校(中学部) | 1年 | 藤田大悟       | 心の扉                    |
|              |        |                                                                              |                                  | 熊本大学教育学部附属中学校       | 3年 | 廣岡里奈       | 私が望む優しい未来は             |
|              |        |                                                                              |                                  | 北杜市立甲陵中学校           | 2年 | 小松日菜       | 繋ぐ糸が切れないように            |
|              |        |                                                                              |                                  | 登米市立佐沼中学校           | 3年 | 加藤海音       | 十人十色                   |
| 静岡市立清水両河内中学校 | 3年     | 望月香琳                                                                         | 地域と共にある生徒会～今、私たちにできること、すべきこと     |                     |    |            |                        |



# 令和元年度都道府県大会実施概要

|       |      |      |       |      |
|-------|------|------|-------|------|
| 都道府県名 | 主催者  |      | 大会名   |      |
|       | 開催期日 |      | 会場    |      |
|       | 発表者数 | 応募者数 | 参加学校数 | 視聴者数 |
|       | 実施内容 |      |       |      |

## 北海道・東北ブロック (1道6県 応募者数 87,077名)

|                                                                                                                                         |                                                                                                            |                                                        |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 1<br>北海道                                                                                                                                | 公益財団法人北海道青少年育成協会、北海道<br>令和元年9月5日(木)                                                                        | 令和元年度北海道青少年育成大会 「少年の主張」全道大会<br>道民活動センター かでる2.7         |
|                                                                                                                                         | 16名 33,890名                                                                                                | 343校 460名                                              |
| 14地区大会から推薦された最優秀者及び札幌市の代表者2名による北海道大会を開催。<br>最優秀賞1名、優秀賞(北海道教育委員会教育長賞・北海道PTA連合会会長賞・(公財)北海道青少年育成協会会長賞各1名)、<br>上記4名に北海道コンサドーレ札幌特別賞を贈呈。審査員5名 |                                                                                                            |                                                        |
| 2<br>青森県                                                                                                                                | 青少年育成青森県民会議<br>令和元年9月10日(火)                                                                                | 第41回青森県少年の主張大会<br>県民福祉プラザ                              |
|                                                                                                                                         | 8名 2,737名                                                                                                  | 10校 350名                                               |
| 県内の中学生から募集し、原稿審査で選考された8名による青森県大会を開催。<br>最優秀賞1名、優秀賞2名、優良賞5名を選考。審査員5名                                                                     |                                                                                                            |                                                        |
| 3<br>岩手県                                                                                                                                | わたしの主張岩手県大会実行委員会【岩手県、岩手県教育委員会、岩手県警察本部、(公社)岩手県青少年育成県民会議、(公社)岩手県防犯協会連合会、(株)岩手日報社、岩手県中学校文化連盟】<br>令和元年9月18日(水) | 第21回わたしの主張岩手県大会<br>小田島組☆ほ〜る(いわて県民情報交流センター)             |
|                                                                                                                                         | 18名 4,091名                                                                                                 | 159校 285名                                              |
| 地区大会より推薦された17名及び県大会会場市町村から推薦された1名の計18名による岩手県大会を開催。<br>最優秀賞1名、優秀賞2名、優良賞3名を選考。審査委員7名                                                      |                                                                                                            |                                                        |
| 4<br>宮城県                                                                                                                                | 青少年のための宮城県民会議、河北新報社<br>令和元年9月26日(木)                                                                        | 令和元年度少年の主張宮城県大会<br>大崎市立古川南中学校                          |
|                                                                                                                                         | 14名 18,205名                                                                                                | 181校 650名                                              |
| 12地区で地区大会を実施し、県大会に出場する代表者1〜2名(仙台市は各区1名、仙台地区は2名、他地区は1名、開催地区からはプラス1名)による宮城県大会を開催。<br>宮城県知事賞1名、青少年のための宮城県民会議会長賞2名、優良賞(県大会出場者全員)を選考。審査委員6名  |                                                                                                            |                                                        |
| 5<br>秋田県                                                                                                                                | 公益社団法人青少年育成秋田県民会議、秋田県<br>令和元年9月18日(水)                                                                      | わたしの主張2019〜第41回少年の主張秋田県大会〜<br>秋田市立秋田南中学校               |
|                                                                                                                                         | 13名 5,043名                                                                                                 | 37校 510名                                               |
| 東北・県中央・県南地区で予選大会を開催。各地区大会優秀者12名及び、県大会開催学校推薦者1名の計13名による秋田県大会を開催。最優秀賞1名、優秀賞4名、優良賞8名を選考。審査委員5名                                             |                                                                                                            |                                                        |
| 6<br>山形県                                                                                                                                | 公益社団法人山形県防犯協会連合会、山形県青少年育成県民会議、株式会社山形新聞社、山形放送株式会社<br>令和元年9月28日(土)                                           | 第58回山形県少年の主張大会 ~いま伝えたい 私のメッセージ~<br>山形国際交流プラザ 山形ビッグウイング |
|                                                                                                                                         | 15名 8,540名                                                                                                 | 96校 130名                                               |
| 各ブロック大会において選考された代表者15名による山形県大会を開催。<br>最優秀賞1名、優秀賞2名、優良賞2名を選考。審査員8名                                                                       |                                                                                                            |                                                        |
| 7<br>福島県                                                                                                                                | 福島県青少年育成県民会議<br>令和元年9月27日(金)                                                                               | 第41回少年の主張福島県大会<br>サンライズもとみや                            |
|                                                                                                                                         | 16名 14,571名                                                                                                | 177校 476名                                              |
| 各青少年育成市町村民会議から推薦された作品の中で、作文審査により選ばれた15名及び開催地の中学生1名による福島県大会を開催。最優秀賞1名、優秀賞5名、優良賞10名を選考。審査委員7名                                             |                                                                                                            |                                                        |

## 関東・甲信越静ブロック (1都10県 応募者数 143,906名)

|                                                                                                                                                                                                                |                                                                                      |                                             |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 8<br>茨城県                                                                                                                                                                                                       | 公益社団法人茨城県青少年育成協会<br>令和元年9月21日(土)                                                     | 令和元年度少年の主張茨城県大会<br>大洗文化センター 大ホール            |
|                                                                                                                                                                                                                | 10名 15,682名                                                                          | 151校 700名                                   |
| 各中学校2作品以内の推薦された作品を審査委員会において、優秀作品10作品を選出。選出された10作品による茨城県大会を開催。優秀賞(県大会出場者10名)、茨城県知事賞、茨城県議会議員賞、茨城県教育委員会教育長賞、水戸西ライオンズクラブ会長賞(茨城県知事受賞者)、鹿島アントラーズ賞(茨城県知事受賞者、茨城県議会議員賞受賞者、茨城県教育委員会教育長受賞者)を選考。審査委員8名(内2名は過去の大会発表者である高校生) |                                                                                      |                                             |
| 9<br>栃木県                                                                                                                                                                                                       | 栃木県青少年育成県民会議(公益財団法人とちぎ未来づくり財団)、栃木県、栃木県教育委員会、市町、市町教育委員会、各地区青少年育成連絡協議会<br>令和元年9月21日(土) | 第42回栃木県少年の主張発表県大会<br>宇都宮市文化会館 小ホール          |
|                                                                                                                                                                                                                | 16名 15,549名                                                                          | 164校 300名                                   |
| 県内8地区で各中学校の代表1名が参加する地区大会を開催し、各地区大会で選出された16名による栃木県大会を開催。<br>最優秀賞(栃木県知事賞)1名、優秀賞(栃木県教育委員会教育長賞)3名、奨励賞(栃木県青少年育成県民会議理事長賞)12名を選考。審査委員9名                                                                               |                                                                                      |                                             |
| 10<br>群馬県                                                                                                                                                                                                      | 群馬県、群馬県教育委員会、群馬県青少年育成推進会議、各市町村教育委員会<br>令和元年9月21日(土)                                  | 第41回少年の主張群馬県大会<br>群馬県公社総合ビル 多目的ホール          |
|                                                                                                                                                                                                                | 16名 44,894名                                                                          | 171校 170名                                   |
| 市町村大会、教育事務所ブロック大会を経て選出された16名による群馬県大会を開催。<br>最優秀賞1名、優秀賞4名、努力賞11名を選考。審査委員7名                                                                                                                                      |                                                                                      |                                             |
| 11<br>埼玉県                                                                                                                                                                                                      | 埼玉県、埼玉県教育委員会、青少年育成埼玉県民会議<br>令和元年8月25日(日)                                             | 令和元年度未来を担う私たちの主張 ~青少年の主張大会~<br>さいたま共済会館大ホール |
|                                                                                                                                                                                                                | 15名 19,260名                                                                          | 265校 200名                                   |
| 作文審査により選出された5名(中学生の部)による埼玉県大会を開催。<br>最優秀賞(知事賞)1名、優秀賞(教育長賞)1名、優良賞(県民会議会長賞)3名、特別賞2名を選考。審査委員10名                                                                                                                   |                                                                                      |                                             |



|            |                                                                                                                                                                                |                          |      |      |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|------|------|
| 12<br>千葉県  | 千葉県青少年総合対策本部（千葉県、千葉県教育委員会、千葉県警察本部）                                                                                                                                             | 第41回「私の思い」～中学生の主張～千葉県大会  |      |      |
|            | 令和元年9月21日（土）                                                                                                                                                                   | 千葉県教育会館 大ホール             |      |      |
|            | 12名                                                                                                                                                                            | 1,868名                   | 28校  | 230名 |
|            | 応募作文の中から学校長及び団体長推薦作文について、一次、二次の作文審査を行い、選出された12名による千葉県大会を開催。最優秀賞（県知事賞）1名、優秀賞2名、審査員特別賞1名、奨励賞8名を選考。審査員8名                                                                          |                          |      |      |
| 13<br>東京都  | 東京都                                                                                                                                                                            | 令和元年度 中学生の主張東京都大会        |      |      |
|            | 令和元年9月8日（日）                                                                                                                                                                    | 都民ホール                    |      |      |
|            | 10名                                                                                                                                                                            | 5,784名                   | 52校  | 103名 |
|            | 東京都による作文審査を行い、東京都代表選考発表者10名及び努力賞受賞者10名を選出。東京都代表選考者10名による東京都大会を開催。知事賞1名、東京都教育委員会賞2名、優良賞7名を選考。審査員5名                                                                              |                          |      |      |
| 14<br>神奈川県 | 神奈川県                                                                                                                                                                           | 令和元年度 中学生の主張 in かながわ     |      |      |
|            | 令和元年9月29日（日）                                                                                                                                                                   | 神奈川県立青少年センター スタジオ HIKARI |      |      |
|            | 7名                                                                                                                                                                             | 1,307名                   | 50校  | 85名  |
|            | 原稿審査による事前審査会を実施し、発表大会出場者7名、奨励賞受賞者10名を選出。発表大会出場者7名による神奈川県大会を開催。最優秀賞（神奈川県知事賞）1名、優秀賞6名（神奈川県教育長賞・神奈川県福祉子どもみらい局長賞・神奈川県新聞社賞・NHK横浜放送局長賞・テレビ神奈川賞・神奈川県青少年育成アドバイザー連絡協議会会長賞各1名）を選考。審査委員5名 |                          |      |      |
| 15<br>新潟県  | 新潟県、新潟県教育委員会、新潟市教育委員会、新潟県青少年健全育成県民会議                                                                                                                                           | 2019年度新潟県少年の主張大会—わたしの主張— |      |      |
|            | 令和元年9月21日（土）                                                                                                                                                                   | 村上市民ふれあいセンター             |      |      |
|            | 14名                                                                                                                                                                            | 23,977名                  | 174校 | 520名 |
|            | 県内を13地区に分け、地区ごとに発表者を選出、各地区大会において選出された14名による新潟県大会を開催。最優秀賞（県知事賞）1名、優秀賞（県教育長賞）2名、奨励賞（県民会議会長賞）11名、奨励賞の中から審査員特別賞1名を選考。審査委員9名                                                        |                          |      |      |
| 16<br>山梨県  | 公益財団法人山梨県青少年協会、青少年育成山梨県民会議実行委員会                                                                                                                                                | 第41回少年の主張山梨県大会           |      |      |
|            | 令和元年8月17日（土）                                                                                                                                                                   | 山梨県立青少年センター              |      |      |
|            | 10名                                                                                                                                                                            | 546名                     | 18校  | 128名 |
|            | 中学校において校内審査後、校長推薦のうえ、県大会に応募。事前審査において発表者を選出。選出された10名による山梨県大会を開催。最優秀（山梨県教育長賞）1名、優秀賞（山梨日日新聞社賞・山梨放送賞・NHK甲府放送局長賞各1名）（青少年育成山梨県民会議会長賞6名）を選考。審査委員7名                                    |                          |      |      |
| 17<br>長野県  | 長野県、長野県教育委員会、長野県警察本部、長野県将来世代応援県民会議                                                                                                                                             | 令和元年度少年の主張長野県大会          |      |      |
|            | 令和元年9月13日（金）                                                                                                                                                                   | 高森町立高森中学校                |      |      |
|            | 11名                                                                                                                                                                            | 963名                     | 38校  | 541名 |
|            | 各地域事務局長から推薦された11名（各地域事務局から1名、但し開催中学校がある市町村を所轄する地域事務局は、開催中学校推薦を含む2名）による長野県大会を開催。県知事賞1名、優秀賞2名、優良賞8名を選考。審査委員6名                                                                    |                          |      |      |
| 18<br>静岡県  | 静岡県教育委員会、静岡県青少年育成会議                                                                                                                                                            | 「わたしの主張 2019」静岡県大会       |      |      |
|            | 令和元年8月21日（水）                                                                                                                                                                   | 磐田市竜洋なぎの木会館              |      |      |
|            | 13名                                                                                                                                                                            | 14,076名                  | 160校 | 480名 |
|            | 静岡・静岡西教育事務所管内は作文審査会、静岡市、浜松市は各市で大会を実施。選出された13名による静岡県大会を開催。最優秀賞1名、優秀賞3名、優良賞9名、来場した中学生全員による共感賞1名を選考。審査委員7名                                                                        |                          |      |      |

### 中部・近畿ブロック（2府10県 応募者数 168,637名）

|           |                                                                                                                                         |                                |      |      |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|------|------|
| 19<br>富山県 | 富山県、富山県教育委員会、青少年育成富山県民会議、砺波市、砺波市教育委員会、青少年育成砺波市民会議                                                                                       | 第41回少年の主張富山県大会                 |      |      |
|           | 令和元年8月26日（月）                                                                                                                            | 砺波市文化会館                        |      |      |
|           | 11名                                                                                                                                     | 2,202名                         | 29校  | 250名 |
|           | 各中学校から3点程度の推薦された作品を市町村教育委員会が10点程度選考・推薦し、審査委員会において作文審査により選出された11名による富山県大会を開催。最優秀賞1名、審査員特別賞1名、優秀賞9名を選考。審査委員8名                             |                                |      |      |
| 20<br>石川県 | 石川県健民運動推進本部、石川県、石川県教育委員会                                                                                                                | 令和元年度少年の主張石川県大会                |      |      |
|           | 令和元年8月31日（土）                                                                                                                            | 石川県青少年総合研修センター                 |      |      |
|           | 16名                                                                                                                                     | 26,500名                        | 72校  | 100名 |
|           | 各地区大会から選出された16名（各地区4名ずつ）による石川県大会を開催。最優秀賞（石川県知事賞）1名、優秀賞（石川県教育委員会賞）2名、奨励賞（石川県健民運動推進本部長賞）13名を選考。審査委員6名                                     |                                |      |      |
| 21<br>福井県 | 公益財団法人青少年育成福井県民会議、福井県青少年総合対策本部                                                                                                          | 令和元年度「少年の主張」コンクール福井県大会         |      |      |
|           | 令和元年8月19日（月）                                                                                                                            | パレア若狭                          |      |      |
|           | 8名                                                                                                                                      | 9,583名                         | 39校  | 250名 |
|           | ブロック審査で選出された、8名による福井県大会を開催。福井県知事賞1名、（公財）青少年育成福井県民会議会長賞1名、国際ソロプチミスト福井会長賞1名、福井ライオンズクラブ賞1名、福井新聞社賞1名、NHK福井放送局賞1名、FBC賞1名、福井テレビ賞1名を選考。審査委員10名 |                                |      |      |
| 22<br>愛知県 | 愛知県、愛知県青少年育成県民会議、愛知県教育委員会、犬山市、犬山市教育委員会                                                                                                  | 令和元年度少年の主張愛知県大会                |      |      |
|           | 令和元年8月23日（金）                                                                                                                            | 犬山市民文化会館                       |      |      |
|           | 14名                                                                                                                                     | 47,406名                        | 300校 | 964名 |
|           | 各中学校から1名を選出、市町村教育委員会は学校数による規程通りブロックへ推薦。各ブロックより選出された計14名による愛知県大会を開催。最優秀賞1名、優秀賞4名、共感賞1名、奨励賞14名を選考。審査委員7名                                  |                                |      |      |
| 23<br>三重県 | 公益財団法人三重こどもわかちの育成財団、鈴鹿地区中学生のメッセージ実行委員会                                                                                                  | 中学生のメッセージ 2019（第41回少年の主張三重県大会） |      |      |
|           | 令和元年8月31日（土）                                                                                                                            | 亀山市文化会館                        |      |      |
|           | 14名                                                                                                                                     | 12,082名                        | 82校  | 430名 |
|           | 1次選考は提出された作品の中から40作品程度を、2次選考で「中学校のメッセージ」で発表する14名と地域優秀者26名程度を選考。選出された14名による三重県大会を開催。最優秀賞1名、優秀賞3名、優良賞10名を選考。審査委員10名                       |                                |      |      |

|            |                                                                                                                                                                                                                   |         |                                |      |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|--------------------------------|------|
| 24<br>岐阜県  | 岐阜県、公益社団法人岐阜県青少年育成県民会議                                                                                                                                                                                            |         | 第41回少年の主張岐阜県大会～わたしの主張2019～     |      |
|            | 令和元年8月2日(金)                                                                                                                                                                                                       |         | 不二羽島文化センター みのぎくホール             |      |
|            | 17名                                                                                                                                                                                                               | 16,244名 | 178校                           | 350名 |
|            | 市町村単位で審査が行われ、各圏域より推薦された計17名による岐阜県大会を開催。<br>県知事賞1名、青少年育成県民会議会長賞1名、県教育委員会賞1名、岐阜新聞・岐阜放送賞1名、優秀賞13名を選考。審査委員7名                                                                                                          |         |                                |      |
| 25<br>滋賀県  | 滋賀県青少年育成県民会議                                                                                                                                                                                                      |         | 滋賀県第22回中学生広場「私の思い2019」県広場      |      |
|            | 令和元年8月24日(土)                                                                                                                                                                                                      |         | 高島市立藤樹の里文化芸術会館                 |      |
|            | 12名                                                                                                                                                                                                               | 25,298名 | 102校                           | 470名 |
|            | 市町民会議から提出のあった意見作文の中から県広場での発表者12名による滋賀県大会を開催。<br>最優秀賞(知事賞)1名、優秀賞(県議会議長、県教育長賞)2名、優良賞(県民会議会長賞)9名を選考。審査委員10名                                                                                                          |         |                                |      |
| 26<br>京都府  | 公益社団法人京都府青少年育成協会、京都府PTA協議会、京都市PTA連絡協議会                                                                                                                                                                            |         | 第41回「少年の主張京都府大会」               |      |
|            | 令和元年9月22日(日)                                                                                                                                                                                                      |         | 京都府総合教育センター「講堂」                |      |
|            | 16名                                                                                                                                                                                                               | 4,713名  | 32校                            | 200名 |
|            | 応募された作文の中から、審査委員会により選出された大会発表者20名による京都府大会を開催。<br>京都府知事賞1名、京都府青少年育成協会会長賞1名、京都府教育委員会教育長賞1名、京都市教育長賞1名、京都市町村教育委員会連合会長賞1名、京都府公立中学校長会会長賞1名、京都府PTA協議会会長賞1名、京都市PTA連絡協議会会長賞1名、京都新聞賞1名、KBS京都賞1名、京都府青少年育成協会会長奨励賞6名を選考。審査委員9名 |         |                                |      |
| 27<br>大阪府  | 青少年育成大阪府民会議、大阪府                                                                                                                                                                                                   |         | 第41回中学生の主張～伝えよう！君のメッセージ～       |      |
|            | 令和元年8月31日(土)                                                                                                                                                                                                      |         | 大阪市立住吉区民センター                   |      |
|            | 10名                                                                                                                                                                                                               | 1,289名  | 20校                            | 250名 |
|            | 府内からの応募作品の中から選考委員による作文審査において10名以内による大阪府大会を開催。最優秀賞(大阪府知事賞)1名、優秀賞(大阪府教育委員会賞・NHK大阪放送局長賞・国際ソロプチミスト大阪賞)3名、優良賞(審査委員特別賞)1名、優良賞5名、努力賞10名以内を選考。審査委員6名                                                                      |         |                                |      |
| 28<br>兵庫県  | 公益財団法人兵庫県青少年本部                                                                                                                                                                                                    |         | 令和元年度少年の主張兵庫県大会～中学生のメッセージ2019～ |      |
|            | 令和元年9月29日(日)                                                                                                                                                                                                      |         | 兵庫県民会館 けんみんホール                 |      |
|            | 10名                                                                                                                                                                                                               | 8,461名  | 96校                            | 227名 |
|            | 県内10地区において原稿審査及び地方大会で選出された10名による兵庫県大会を開催。<br>知事賞1名、青少年本部理事長優秀賞2名、青少年本部理事長奨励賞7名、審査員7名                                                                                                                              |         |                                |      |
| 29<br>奈良県  | 奈良県、奈良県教育委員会、奈良県子ども・若者支援団体協議会                                                                                                                                                                                     |         | 第41回「少年の主張」奈良県大会～わたしの主張2019～   |      |
|            | 令和元年9月8日(日)                                                                                                                                                                                                       |         | 香芝市ふたかみ文化センター市民ホール             |      |
|            | 10名                                                                                                                                                                                                               | 4,201名  | 23校                            | 160名 |
|            | 原稿審査により選出された10名による奈良県大会を開催。<br>最優秀賞1名、優秀賞2名、優良賞7名を選考。審査員8名                                                                                                                                                        |         |                                |      |
| 30<br>和歌山県 | 公益社団法人和歌山県青少年育成協会                                                                                                                                                                                                 |         | 「少年メッセージ2019」和歌山県大会            |      |
|            | 令和元年7月27日(土)                                                                                                                                                                                                      |         | 橋本市産業文化会館                      |      |
|            | 18名                                                                                                                                                                                                               | 10,658名 | 112校                           | 460名 |
|            | 応募作文から、和歌山市及び各振興局単位で選出された優秀作品各2名(県大会開催地方は4名)合計18名による和歌山県大会を開催。金賞1名、銀賞2名、銅賞3名、特別賞若干名を選考。審査委員8名                                                                                                                     |         |                                |      |

### 中国・四国ブロック(9県 応募者数 42,645名)

|           |                                                                                                                                              |         |                                 |      |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|---------------------------------|------|
| 31<br>鳥取県 | 青少年育成鳥取県民会議                                                                                                                                  |         | 令和元年度「少年の主張鳥取県大会」               |      |
|           | 令和元年9月13日(金)                                                                                                                                 |         | 米子市公会堂                          |      |
|           | 12名                                                                                                                                          | 808名    | 14校                             | 620名 |
|           | 応募作品の中から書類審査を行い、選出された12名による鳥取県大会を開催。<br>最優秀賞(鳥取県知事杯)1名、優秀賞(県教育長杯、県議会議長杯、県市長会長杯、NHK鳥取放送局長杯)5名、優良賞6名を選考。審査委員7名                                 |         |                                 |      |
| 32<br>島根県 | 青少年育成島根県民会議、島根県中学校長会、大田市中学校長会                                                                                                                |         | 令和元年度少年の主張島根県大会                 |      |
|           | 令和元年9月26日(木)                                                                                                                                 |         | 大田市民会館                          |      |
|           | 17名                                                                                                                                          | 17,175名 | 95校                             | 568名 |
|           | 市郡中学校長会長より推薦された17名による島根県大会を開催。<br>島根県知事賞1名、島根県教育委員会教育長賞1名、島根県警察本部長賞1名、青少年育成島根県民会議会長賞1名、審査員特別賞2名、優秀賞11名を選考。審査委員7名                             |         |                                 |      |
| 33<br>岡山県 | 公益社団法人岡山県青少年育成県民会議                                                                                                                           |         | 第41回「少年の主張」岡山県大会「いま、中学生が訴えたいこと」 |      |
|           | 令和元年8月23日(金)                                                                                                                                 |         | 岡山県天神山文化プラザ                     |      |
|           | 15名                                                                                                                                          | 5,179名  | 15校                             | 120名 |
|           | 応募作品から審査の上、15名程度の入賞者による岡山県大会を開催。<br>最優秀賞1名、優秀賞4名、優良賞：最優秀賞・優秀賞受賞者以外を選考。審査員7名                                                                  |         |                                 |      |
| 34<br>広島県 | 公益社団法人青少年育成広島県民会議、広島県中学校話し方連盟                                                                                                                |         | 「少年の主張」・中学生話し方大会2019            |      |
|           | 令和元年9月7日(土)                                                                                                                                  |         | 広島県社会福祉会館                       |      |
|           | 23名                                                                                                                                          | 3,430名  | 44校                             | 120名 |
|           | 提出された原稿を主催者において審査し、選考された23名による広島県大会を開催。<br>広島県知事賞1名、青少年育成広島県民会議会長賞1名、広島県中学校話し方連盟会長賞1名、国際ソロプチミスト広島会長賞1名、広島清流ライオンズクラブ会長賞1名、優秀賞7名、優良賞を選考。審査員11名 |         |                                 |      |
| 35<br>山口県 | 山口県青少年育成県民会議                                                                                                                                 |         | 青少年育成県民のつどい 少年の主張コンクール山口県大会     |      |
|           | 令和元年8月24日(土)                                                                                                                                 |         | 山口県旧県会議事堂(夢交流ホール)               |      |
|           | 8名                                                                                                                                           | 737名    | 14校                             | 140名 |
|           | 一次審査(各市町教育委員会等)及び二次審査(青少年育成県民会議)において作文審査により選出された8名による山口県大会を開催。最優秀賞(知事賞)1名、優秀賞(教育長賞、県民会議会長賞)2名、優良賞5名を選考。審査員5名                                 |         |                                 |      |

|                                                                                          |                                                              |                                            |      |
|------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|------|
| 36<br>徳島県                                                                                | 青少年育成徳島県民会議、徳島県保護司会連合会、徳島県中学校長会                              | 第 65 回青少年非行防止県下中学校生徒弁論大会並びに令和元年度少年の主張徳島県大会 |      |
|                                                                                          | 令和元年 9 月 11 日 (水)                                            | 徳島県立 2 1 世紀館イベントホール                        |      |
|                                                                                          | 10 名                                                         | 5,540 名                                    | 74 校 |
| 中学校生徒弁論大会において保護区単位ブロック別で選出された代表 10 名による徳島県大会を開催。最優秀賞 1 名、優秀賞第一席 2 名、優秀賞 7 名を选考。審査委員 10 名 |                                                              |                                            |      |
| 37<br>香川県                                                                                | 第 69 回 “社会を明るくする運動” 香川県推進委員会、青少年育成香川県民会議、香川県中学校長会、香川県保護司会連合会 | 第 70 回香川県中学校生徒弁論大会・第 41 回「少年の主張」香川県大会      |      |
|                                                                                          | 令和元年 7 月 10 日 (水)                                            | 三木町文化交流プラザ                                 |      |
|                                                                                          | 13 名                                                         | 7,339 名                                    | 45 校 |
| 地区大会の最優秀賞受賞者（高松ブロックは 5 名）13 名による香川県大会を開催。最優秀賞 1 名、優秀賞 3 名、優良賞 9 名を选考。審査委員 7 名            |                                                              |                                            |      |
| 38<br>愛媛県                                                                                | 愛媛県、愛媛県教育委員会、愛媛県青少年育成協議会                                     | 令和元年度愛媛の未来をひらく少年の主張大会                      |      |
|                                                                                          | 令和元年 9 月 7 日 (土)                                             | 愛媛県生涯学習センター 県民小劇場ホール                       |      |
|                                                                                          | 9 名                                                          | 1,747 名                                    | 18 校 |
| 主催者において、原稿審査により大会発表者 10 名による愛媛県大会を開催。最優秀賞 1 名、優秀賞 2 名、優良賞 7 名を选考。審査委員 5 名                |                                                              |                                            |      |
| 39<br>高知県                                                                                | 青少年育成高知県民会議                                                  | 令和元年度第 41 回「少年の主張」高知県大会                    |      |
|                                                                                          | 令和元年 9 月 8 日 (日)                                             | 高知県庁正庁ホール                                  |      |
|                                                                                          | 8 名                                                          | 690 名                                      | 12 校 |
| 作文審査により選出された 10 名による高知県大会を開催。最優秀賞 1 名、会長賞 1 名、優秀賞 2 名、優良賞 6 名を选考。審査委員 5 名                |                                                              |                                            |      |

**九州ブロック（8 県 応募者数 54,227 名）**

|                                                                                                                                              |                           |                                      |       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|--------------------------------------|-------|
| 40<br>福岡県                                                                                                                                    | 公益社団法人福岡県青少年育成県民会議        | 令和元年度少年の主張福岡県大会                      |       |
|                                                                                                                                              | 令和元年 9 月 7 日 (土)          | 田川文化センター                             |       |
|                                                                                                                                              | 17 名                      | 12,558 名                             | 72 校  |
| 「少年の主張」関連行事において選出された作品及び地区大会推薦 3 作品について審査のうえ上位 15 名程度による福岡県大会を開催。福岡県知事賞 1 名、福岡県教育委員会賞 1 名、優秀賞第一席 1 名、審査委員会特別賞 1 名、優秀賞 11 名を选考。審査委員 10 名程度    |                           |                                      |       |
| 41<br>佐賀県                                                                                                                                    | 佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀県青少年育成県民会議 | 令和元年度「第 41 回少年の主張佐賀県大会」              |       |
|                                                                                                                                              | 令和元年 8 月 25 日 (日)         | アバンセホール（佐賀県立男女共同参画センター・佐賀県立生涯学習センター） |       |
|                                                                                                                                              | 10 名                      | 1,132 名                              | 17 校  |
| 各学校において応募者を募集し、推薦されたものを予選審査会により選出、選出者 10 名による佐賀県大会を開催。最優秀賞 1 名、優秀賞 2 名、優良賞 7 名を选考。審査委員 6 名                                                   |                           |                                      |       |
| 42<br>長崎県                                                                                                                                    | 長崎県青少年育成県民会議              | 第 41 回少年の主張長崎県大会「わたしの主張 2019」        |       |
|                                                                                                                                              | 令和元年 8 月 22 日 (木)         | 長与町民文化ホール                            |       |
|                                                                                                                                              | 12 名                      | 11,297 名                             | 127 校 |
| 第 1 次選考は、各市町の主管課、県立・国立・私立の学校は各学校で行い、選出された 12 名による長崎県大会を開催。最優秀賞 1 名、優秀賞（長崎新聞社賞、NHK 賞、長崎県校長会賞、長崎県 PTA 連合会賞、ココロねっこ賞）5 名、優良賞 6 名を选考。審査委員 6 名     |                           |                                      |       |
| 43<br>熊本県                                                                                                                                    | 熊本県、熊本県教育委員会、熊本県青少年育成県民会議 | 第 41 回「少年の主張」熊本県大会                   |       |
|                                                                                                                                              | 令和元年 9 月 7 日 (土)          | 阿蘇市阿蘇体育館                             |       |
|                                                                                                                                              | 12 名                      | 2,258 名                              | 43 校  |
| 事前審査会での作文審査により選出された各地区等代表の 10 名、開催地推薦 2 名の計 12 名による熊本県大会を開催。最優秀賞 1 名、優秀賞 2 名、奨励賞 3 名、入選 6 名を选考。審査委員 6 名                                      |                           |                                      |       |
| 44<br>大分県                                                                                                                                    | 大分県青少年育成県民会議              | 令和元年度（第 41 回）少年の主張大分県大会              |       |
|                                                                                                                                              | 令和元年 8 月 28 日 (水)         | 日出町中央公民館                             |       |
|                                                                                                                                              | 10 名                      | 961 名                                | 21 校  |
| 各学校等による第 1 次審査、審査員による 2 次審査を行い、県大会出場者 10 名及び佳作を決定する。県大会出場者 10 名による大分県大会を開催。最優秀賞 1 名、優秀賞 2 名、優良賞 7 名、大分県教育長賞 1 名、共感賞（中学生審査員選出）1 名を选考。審査委員 5 名 |                           |                                      |       |
| 45<br>宮崎県                                                                                                                                    | 公益社団法人宮崎県青少年育成県民会議        | 令和元年度青少年の主張宮崎県大会                     |       |
|                                                                                                                                              | 令和元年 8 月 7 日 (水)          | 宮崎市民プラザ オルブライトホール                    |       |
|                                                                                                                                              | 10 名                      | 1,891 名                              | 26 校  |
| 各学校から応募された作品の中から、事前審査により選出された 10 名による宮崎県大会を開催。最優秀賞 1 名、優秀賞 2 名、優良賞 7 名を选考。審査委員 5 名                                                           |                           |                                      |       |
| 46<br>鹿児島県                                                                                                                                   | 鹿児島県、鹿児島県青少年育成県民会議        | 令和元年度「第 41 回少年の主張鹿児島県大会」             |       |
|                                                                                                                                              | 令和元年 8 月 4 日 (日)          | 鹿児島県歴史資料センター黎明館                      |       |
|                                                                                                                                              | 10 名                      | 3,501 名                              | 47 校  |
| 各学校から提出された作文を審査、審査委員会により選出された 10 名による鹿児島県大会を開催。最優秀賞 1 名、優秀賞 2 名、優良賞 7 名を选考。審査委員 7 名                                                          |                           |                                      |       |
| 47<br>沖縄県                                                                                                                                    | 公益社団法人沖縄県青少年育成県民会議        | 第 41 回沖縄県少年の主張大会                     |       |
|                                                                                                                                              | 令和元年 9 月 26 日 (木)         | 沖縄県金武町中央公民館                          |       |
|                                                                                                                                              | 12 名                      | 20,629 名                             | 128 校 |
| 市町村大会を実施し、その代表で地区大会（6 地区、9～16 名）を開催する。地区大会により選出された 12 名による沖縄県大会を開催。最優秀賞 1 名、優秀賞 2 名、審査員特別賞 1 名、優良賞 8 名を选考。審査委員 5 名                           |                           |                                      |       |

# 第 42 回少年の主張全国大会 開催のお知らせ

- 開催日時：令和 2 年 11 月 8 日（日）
- 開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟大ホール  
（住所：〒 151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3 番 1 号）
- 対 象：日本在住の中学生及びそれに相応する学籍又は年齢にあるもの。  
※国籍は問わないが、日本語で発表できること。  
なお、作品は未発表、自作のものに限ります。
- 主 催：国立青少年教育振興機構
- 協 力：都道府県、青少年育成道府県民会議、全日本中学校長会、  
（予 定）日本私立中学高等学校連合会、公益社団法人日本 PTA 全国協議会、  
全国青少年育成県民会議連合会
- 後 援：内閣府、文部科学省、東京都教育委員会、日本放送協会、  
（予 定）一般社団法人日本民間放送連盟、一般社団法人日本新聞協会  
社会福祉法人全国社会福祉協議会
- 主張発表者（出場者）・発表内容：
  - (1) 主張発表者  
各都道府県より推薦された地方大会（都道府県大会）優秀者 1 名、計 47 名の中からブロック代表として選ばれた 12 名が主張発表を行います。
  - (2) ブロック代表定数  
全国を 5 ブロックに分け、ブロック毎に出場者数を定め、それぞれの数のブロック代表を選出します。
    - 北海道・東北ブロック・・・2 名
    - 関東・甲信越静ブロック・・・3 名
    - 中部・近畿ブロック・・・3 名
    - 中国・四国ブロック・・・2 名
    - 九州ブロック・・・2 名

※ 都道府県大会の詳細につきましては、各主催者にお問い合わせ願います。



第 41 回少年の主張全国大会報告書～わたしの主張 2019 ～

---

令和 2 年 3 月発行

編集 国立青少年教育振興機構

〒 151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3 番 1 号

<https://www.niye.go.jp>

担当 教育事業部事業課

電話 : 03-6407-7718 FAX : 03-6407-7699

---

※転載の際は上記へご連絡ください。



National Institution For Youth Education  
国立青少年教育振興機構

体験の風を  
おこそう